F.S.S. DESIGNS 5

LITTER.pict

MAMORU NAGANO'S The Five Star Stories

MAMORU NAGANO

最新イラスト100点以上収録!!
知られざる騎士たちの世界を描く、永野護の作品集第5弾!!

ファイブスター物語

ジョーカー太陽星団 騎士図鑑

F.S.S. DESIGNS 5

LITTER.pict

MAMORU NAGANO'S The Five Star Stories

MAMORU NAGANO

F.S.S. DESIGNS 5

LITTER.pict

MAMORU NAGANO'S

The Five Star Stories

MAMORU NAGANO

F.S.S. **DESIGNS 5**

LITTER.pict

F.S.S. **DESIGNS 5**

LITTER.pict

MAMORU NAGANO

MAMORU NAGANO'S The Five Star Stories

The Five Star Stories

DESIGNS 5

LITTER.pict

Characters XIIII

ジョーカー太陽星団 騎士図鑑

リッター・ピクト

騎士

AD世紀は生命体としての人類が限界レベルにまで達し、高度に情報化した社会は個人の可能性を否定するだけになっていたと言われる。

宗教も愛もない、信じるものも楽しみにするものもない生きる目的を失っていた時代であった。

あふれる情報で人間は大切な実践や経験を積むより先に自らの可能性を否定するネガティブな選択ばかりを尊重するようになっていたのだ。

スポーツ選手になりたい。そう思っても自分の才能、身体的素養、そして成功する確率のあまりの低さが具体的に提示され、スポーツを始めようと思うより先に絶望し、データや情報に縛られチャレンジということをすることもないまま失敗の少ない未来を選択していく。

高度に発達した科学を持つ世界ではあっても争いは生まれ戦争となる。負の思考の行き着くところはいつの世も変わらない。

これは人という社会システムの崩壊である。

そして培った情報に縛られて負の思考しかしなくなった世界は人が種としての老化に入ったとも言える。

そういう時代に誕生したのが「ユニオ」であった。

かつて人間が作った「帝国」を上回る星団規模の統治システムとして「超帝國ユニオ」と呼ばれていた。

ユニオとは社会統制システムのことで、人間の作り上げた巨大な統合機械であり、人類の情報から世界すべてと宇宙の観念までを取り込んだ恐るべきソフトウェアでもあった。

ユニオは「超帝國」という社会制御システムを作り出し、人類は自分たちの作った人工的なシステムで社会生活を営んでいたのだ。

ユニオは当然のように自ら思考する能力を持っていた。そのユニオが自らを改良し新たに次なる自分として作ったのが、「ユニオ2」であった。ユニオを構成するのは人類の何千年もの歴史と人の営みである。それらが膨大な情報となってユニオを動かしていたのだ。執政や社会秩序の失敗は、つまり何か起きた場合人間は誰も責任を取らなくても良いという社会システムともいえ、その矛盾を改良するために「ユニオが生み出したユニオ2」であった。

これは「モナーク・セイクレッド」レベルの人工統制制御システムにまで昇華した。

ユニオにはマザーや本体はなく、星団中にシステムとして君臨していた。ユニオはどこにもいないがどこにでもいる。そういう巨大なシステムであった。だが、責任の所在のない世界、ユニオという人ではないシステムが世界を支配するということに反発し、人間性を取り戻すという思想で蜂起やユニオのない独立自治を試みる人々は非常にたくさんいたのも確かである。

だがユニオにとって見ればこれらの人々は人類が今までずっとやって来た「次は自分が支配者になりたい」というものとなんら変わりはなかった。結局生み出すものは戦争でしかないと。

ユニオ3の誕生～炎の女皇帝

そして「ユニオ2」は自ら次のシステム「ユニオ3」を構築した。

だが「ユニオ3」はシステムではなかった。

「ひとりの人間」であった。

星団中に存在したユニオはたったひとりの個体、「ヘリオス・ナ・イ・ン」に集結した。

見えなかった統制システムが人間という形で姿を現したのだ。

統制システムが人の形を取って現れたのは社会システムのリセットのためであったと言われている。

高度に情報化した社会は窒息という言葉が当てはまるほどに人々は生きるための目的や幸福を得られなくなっていたのだ。そのため「ユニオ2」の末期には社会全体が「人類を消滅させデータ化して残していく世界」を望んでいたのだ。それほどまでに荒廃した社会をもう一度人間が幸せに生きていける世界にするための「ユニオ3」は生み出された。

その「ユニオ3」、ナ・イ・ンは後に「炎の女皇帝」と呼ばれた。

「ユニオ3」、ナ・イ・ンがまず始めたことは「従来の社会理念を破壊する」ことであった。

「人類は皆平等である」ということを覆したのだ。どんな人間でも皆同じ。これを根本的に変えてしまったのである。

「今までとは異なる人間が誕生した」ということだ。

恐るべき「昆虫型社会システム」の始まりである。

人間社会にあってはならない「階級」が再び登場した。だが、この階級は従来の「支配階級、従属労働者階級」ではなかった。

炎の女皇帝を頂点にジョーカーの各惑星やエリアを統治する「皇帝」、その下に騎士が産まれた。

星団の最高支配者となる炎の女皇帝「ヘリオス・ナ・イ・ン」は女性の姿を持っている。だが外見は普通の少女だが彼女の体は女王蟻と同じで無限の卵子を生み出す卵巣と、ランダムで生成される精巣を同時に持っている。

この彼女の体内から生み出されるのが「皇帝」となる人間で、普通の人間よりも圧倒的に強力な肉体と頭脳を持っている。「雄蟻」である。

彼ら皇帝はその頭脳と力によって新しい社会システムを実際に構築していく役割を持っていた。

そして女皇帝と皇帝たちの手足となって動く者たちが炎の女皇帝から次々と産み出されていった。

これが「騎士」である。

人間よりも大きな体と超人的な筋力と反応速度を持つ化け物である。

皇帝たちと騎士はその力を持って、新しい社会システムに不満を持つ人々や元々あった反社会的組織などを壊滅していった。

内戦は以前からあらゆる場所で起きていたが、ナ・イ・ンの登場とその昆虫型支配に多くの人々が反発し、皇帝と騎士によって問答無用に消去されていったのだ。

その数は50億人とも100億人とも言われる。後の世で騎士たちが「シバレース」と呼ばれるのはこの時代の名残である。

そして、その星団各地で起きた反乱や内戦で騎士たちが最も効率よく制圧鎮圧するための道具が「ゴティックメード」だったのである。

見方を変えれば皇帝や騎士はユニオの端末が人の姿となった、とも言えるだろう。彼らは本来の人類ではないのだから。

人類は今までかつてない「目に見える階級」によって制圧され、新たな昆虫型の社会システムができ上がった。史上最大と言われる人類の粛正によって一般の人々には情報の規制が行き渡り、その後人々は限られた情報と昆虫型社会階級システムにおいて自らの立場と役割を再認識し、あきらめと本当の絶望が人々に訪れた。

が、この状態は人々にとってユニオ時代の情報が氾濫する「可能性のない予想される未来」ではなく、「まったく不明な未来」となり、いつしか「希望」を人々は持つようになった。

また、「倒すべきは炎と皇帝たち」という壁を作り、人間社会は結果的に「幸せに生きること」「幸せに生きたい」ということを目標とすることになった。

炎の女皇帝は恐るべき人工生命体ではあったが、ユニオの持つ「人間とは何か？」ということを生涯、いや現在も考え続けている。

「幸せに生きていける社会」「幸福感を感じられる社会」を彼女は理想とし、追い求めた。

そのために結果的には皇帝と騎士を使った大粛正を行い膨大な人間を殺したが、人々は「社会はすべて機械に任せ、人間をデータ化して人類は消える」という選択ではなく、「人類はそのまま生き続ける」という道を選んだのである。

そして新しい階級社会が安定し、人々が生きる希望を、それは明日何を食べよう？とか、子供の顔を見たいから早く帰る、といったささやかな幸せを得たのである。

その後、炎の女皇帝は次なる改革に入った。階級化した人類の平坦化である。

それは騎士の遺伝子を持つ人間を人類全体に均等に分け与えるということである。騎士と一般人との婚姻によって長い時間をかけて騎士の血は星団中の人々に入っていった。

これは昆虫型社会を閉じるということで再び人類は皆平等である、というシステムに戻し始めたのだ。

だが、今までとは違うのは「騎士の力を持って生まれる」人間が登場したということだ。

「騎士」という人種は産まれた瞬間に一般人とは違う義務を持つということである。

国家のために、国民のために戦い、国家を守る。ということがはっきりと提示されるということである。

「騎士とは何か？」

これは星団の多様な騎士たちの図鑑である。

ユニオ3 炎の女皇帝 ナ・イ・ン

U.N.I.O.3rd N.E.I.N.
The "Kaiserin" der Flamme

身長155cm　体重40kg

超帝國・ユニオ3、人類管理システム3号機。
人間が産み出したハードとソフトの究極体で情報制御プログラム。それが人の形を取って有機生命体として誕生したのが、このヘリオス・ナ・イ・ンこと「炎の女皇帝」である。
右にも述べてあるとおり人の姿をしているだけで、生物学上はまったく別の生き物である。人ではない。機械ではない。プログラムではない。統合システムである。
超帝國時代のすべての総帝、皇帝、騎士、ボルテッツはすべて「彼女から産まれた」
生物学上は人間ではない彼女が産んだのは生物学上の人間である。ただ、普通の人間よりも巨大であったりイオンを電気化してエネルギーに変えたりすることのできる「超人」たちである。
それが必要だったのかどうか？　そんなことはわからない。彼女にも。ただ、彼女は天照に言う。
「あの時代は人が記憶や思い出をデータに変えて生きていった方が良いという考えが主流でそうなっていこうとしていたの。それをユニオは止めるため、人が人であるようにするために私は産まれてきた」と。
「それでも私はあなたよりも人間よ」
そんな彼女のファティマを見る目は温かい。ファティマたちは自分の孫とも言える存在だからなのだろうか？　騎士も、ボルテッツも、ゴティックメードもバスター・ランチャーもハーモイド・システムも彼女が作り上げたものである。
ただ、人間を見る目はもっと温かい。時には厳しく冷淡で残酷な女皇帝だが、崩れゆくハスハ王宮で死にゆくコレットとムグミカにかけた言葉は炎の女皇帝ならではの言葉であったと思える。

ナ・イ・ンの人間としての名前は「アッセルムラトワ・ディスターブ」である。その彼女の「家名」とも言うべき名称が「ファロスディー・カナーン」と呼ばれ、超帝國皇帝家一族を指す、または超帝國時代の支配組織の言葉ともなって現在もこの言葉は使われている。

彼女亡き後、「ユニオ4」「ユニオ5」という名を持つ人間が存在する。その彼女の後継とも言える者はなんのために産まれてきたのだろうか？　「ユニオ3」のナインは膨大な科学技術の産物を産み出し、世界を統治するために生まれてきたが、後のユニオを冠する女性たちは別の目的のために生まれてきたように思えるのだが……。

ファロスディー・カナーンと呼ばれる血族、つまりは炎の女皇帝の生んだ「雄蟻」とも言うべき存在である。が、炎と異なり生物学的には人間そのものである。
記録がほとんど残っておらず、彼ら歴代の総帝がどういうものであったのかは想像もできない。
雄蟻と呼ばれるとおり総帝は皆すべて男性である。
僅かに残る記録からは歴代14人の総帝がいたとされるが、実質的にユニオの頂点として君臨していたのは数名だとも言われる。また13人目までは確認されているが14人目は実在したのかどうか不明である。
超帝國総帝の血統でもないボスヤスフォートが15代目の襲名である「ヒフツェン」を名のっていることは自分が新たな超帝國総帝であると暗に示しているのかもしれないが、ナ・イ・ンや天照にとってはそれは「僭称」にすぎないこともわかっているはずだ（僭称：勝手に自分は皇帝であるとか由緒ある身分だと名のること。王や皇帝は他国も認めて初めてそう名のれるのだ）。
絶対に素顔を見せない総帝たちであったが、スパースの言葉によれば皆、恐ろしいほどの美形ばかりであったという。

焔帝騎士団

炎の女皇帝直下の親衛騎士団で８名ほどいたとされる。全員が「純血の騎士」であり「剣聖」であった。超帝國騎士の中でも桁違いの力を持つ騎士たちである。炎の長い支配期間中、総勢８名の剣聖が存在したということである。彼らは人生の大半を「凍結保存」されていたので生きている期間は長く、いまだ存命であるとも言われる。
星団に残されたナッカンドラ・スパースはこのうちの最後のひとり。
炎の女皇帝直下に５名付き、３名は残されて総泰帝の騎士としていた。

始祖皇帝　ヘリオス・ナ・イ・ン（炎の女皇帝、詩女原母）

超帝國ユニオ、そしてジョーカー太陽星団を制御する統制システムの人の姿、炎の女皇帝。つまりは唯一にして創造者である「女王蟻」である。

ファロスディー・カナーン・トライブ

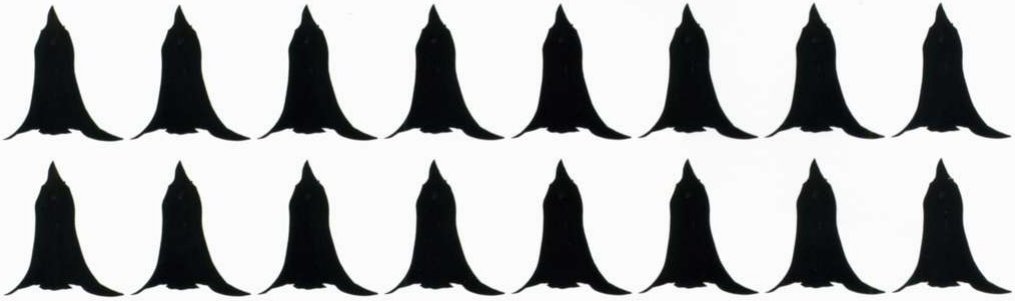
超帝國を構成する「血族」トライブである。総泰帝、皇帝など最重要位置を占める炎の女皇帝の血族。
彼らを総称して「ファロスディー・カナーン」と呼ぶ。
ここには「兵隊蟻」である炎の女皇帝の「剣聖」は入れられていない。

超帝國・総帝

総帝、超帝國ユニオの統治者。ナ・イ・ン亡き後は超帝國の最高統治者であった。
歴代14名いたとされる炎の女皇帝の直属である「超帝國剣聖」を３人から４人従えることができたと言われる。

支配地皇帝

総帝の配下で全星団各地各国を統治していた。その数は10名以上と言われ、さらにその下に王や国家代表がいる。ヤーン・ダッカスは「総帝・アーハト」からボォス星皇帝として任命された。



剣聖　アサラム・スキーンズ
The Top of Chivalries Assaram Skins

身長230cm

炎の女皇帝の親衛騎士団、「ヘリオス剣聖騎士団」のひとり。
ヘリオス剣聖騎士団は全員が「剣聖」というとんでもない騎士団である。その剣聖も星団暦の剣聖とは桁違いの力を持つ「純血の騎士」たちである。
星団暦に入ってからの「剣聖」とは言葉の意味が異なる。彼ら超帝國剣聖は超帝國に存在したすべての騎士の頂点であり、炎の女皇帝が産み出した「騎士の最高傑作」である。だが、その強さとの引き替えに彼らは他の騎士たちよりもさらに非人間的な扱いを受けていた。彼らの強さは後述するとして、スキーンズはそのヘリオス親衛騎士団の実質的なリーダーであった。
ボォス星統治皇帝「ヤーン・ダッカス」の夫で、そう、カイエンの父親である。またマキシの祖父ともなる。
その風貌は成人したマキシそのものだが、この独特の顔立ちは超帝國の歴代総帝とも似ている。そのことからもスキーンズは非常に総帝に近い立場として炎の女皇帝から産み出されたのかもしれない。または炎の側近としての「総帝騎士」であったのかもしれない。
超帝國剣聖ではあるが、このスキーンズであっても総帝たちには太刀打ちできないほど超帝國の総帝たちはとんでもない力を持っていた。
力による力の支配の極限である。超帝國の剣聖たちは人生のほとんどを凍結睡眠状態で過ごし、必要な時にだけ「起動」させられ戦いに出ていった。従って彼らは長い期間歴代の総帝に仕えている。炎に始まり「総帝・アーハト」の時代まで彼らはジョーカー太陽星団にいた。
現在は炎と共に時間の彼方にいるはずである。妻、ダッカスと共に。この姿はまだダッカスと結婚する前の若い時代のものである。彼らもいちおう年はとるのだ。
このあと書かれている彼ら炎の女皇帝の剣聖たちの強さは桁違いなどというものではなく「人の姿をしたなにか」というレベルである。笑うも良し呆れるも良し、あまりの馬鹿馬鹿しさにファイブスター物語を読むのをやめても良しというレベルである。

この時代にはまだ超帝國剣聖のみが持っていた卒塔婆（そとうば）型のガット・ブロウを持っているが、後にはご存じの「懐園剣・雄剣」を持っている。懐園剣のことだから必要な時に時間を超えてスキーンズの元に行ったのであろう。現在アルルが持っている星団暦の時代より未来の懐園剣かもしれない。懐園剣の意志はカレンなのだから、彼女に聞くのが手っ取り早い。教えてはくれないだろうが。

剣聖　コロッサス・バング
The Top of Chivalries Crrosus the Bang

身長235cm

剣聖親衛騎士団ヘリオスのメンバー、最強の剣聖のひとり。
彼らの桁違いの騎士の力がそれほどのものなのかと言えば、「彼らは素手でＧＴＭを破壊する」ということだ。強権、恐怖支配であった超帝國に反旗を翻していたのは人民だけではなく、総帝の下の皇帝や各地の支配者たちも自由政治や権力の拡大化のために超帝國に反乱したことも多々ある。
その反抗した勢力を鎮圧するのもヘリオス剣聖騎士団の仕事であった。だが、彼らは余程のことがない限り、最強ＧＴＭ「シュッツィエン」は使わなかったという。
彼ら剣聖は素手やガット・ブロウで巨大なＧＴＭを破壊したのだ。信じられなくとも事実なのだ。彼らは「究極兵器」とまで呼ばれ、超帝國の地下に戦闘時以外は「封印」されていた。
つまり味方からもそれほど恐れられていたのだ。もし彼らが反抗したり制御不可能な状態になった時いったい誰が彼ら剣聖を倒せるのか？　その恐怖が「封印」という形で現れたのだ。
暴走した剣聖を倒せるのは他の剣聖か「総帝」だけである。総帝の判断が僅かでも遅れれば超帝國は消し飛ぶ。
それが「超帝國の剣聖」である。

このコロッサスは本来気さくな男なのだが、長期にわたる思考制御や総帝たちの「オペラ」の制御下で絶えず頭痛や吐き気に悩まされていた。肉体的にも精神的にも辛い状態に絶えず置かれている彼ら剣聖は笑うこともない。それもあり帝国の中枢幹部たちですら究極兵器として彼らの姿を見るだけで恐れていた。それ以上に一般市民の恐怖は想像に難くない。そしてそういう扱いや彼らを見る目がさらなるストレスにもなっていたようだ。
スキーンズはガット・ブロウをちゃんと持っていたが、このコロッサスやプロミネンス、クルマルスなどは基本的に素手で戦っていたので、最低限の防御システムのみを装備し、見た目はとても軽装である。というか、超帝國剣聖の男性陣は皆すべて筋肉むき出しの軽装である。他人を威嚇するようなごつい服装は必要ないということか。

剣聖　ミキータ・オージェ
The Top of Chivalries Michietta AUGE

身長220cm

超帝國ヘリオス剣聖騎士団の騎士で、「プロミネンス」と、この「オージェ」だけが女性である。騎士の力に男女差はないのだが、見た目も恐ろしい男性騎士と違い彼女らは…やっぱり怖い。炎の女皇帝の側近として彼女は他の剣聖たちとは別の場所にいたので彼女の記述は少ない。

ただ、他の剣聖たちがその恐るべき力から「封印」されたり、覚醒時には総帝の「オペラ」によって制御されていて絶えず情緒不安定だったのだが、彼女はそういう制御を受けず、…というか炎を前にしてどうなるものでもないのだが、他の剣聖たちに比べると非常に落ち着いた恵まれた環境にあったようだ。

また、他の剣聖たちがＧＴＭに搭乗せず、生身で戦うことを「ハンデ付き」としてゲームのように戦っていたが、彼女は戦闘時はほぼＧＴＭシュッツィエンで戦っていた。ただ、剣聖たちは生身でＧＴＭを破壊するのだから、その彼らがＧＴＭに乗って戦うともなれば想像を超えてしまう。

このオージェの駆るＧＴＭ・シュッツィエンが戦場に到着した瞬間、その戦場は土以外何もなかったとか、巨大な宇宙船が一瞬で、まるで包丁で大根を切るかのようにバラバラになったとか、もう伝説ですらないレベルとして残っている。

彼ら剣聖の駆るＧＴＭは「見えなかった」ということである。何も見えないのに次々に都市や宇宙船がバラバラになっていく。いったい何が起こっているのか誰にもわからない。僅か数秒で都市が、軍が消滅していくその様は超帝國剣聖、すなわち炎の女皇帝の恐ろしさそのものであった……。

剣客　ファルク・バビロン・ログナー
King Babylon F.U.Rogner

身長235cm 体重135kg

この人物は超帝國のメンバーでもなく、純血の騎士でもない。だが、炎の女皇帝の側近としていつも行動を共にしていたと言われる。立場的に炎とは上下関係はなく、「剣客」、つまり超帝國の客人として扱われていたようだが、超帝國剣聖騎士団の実質的な指揮官であったとも言われている。炎の作った騎士ではないのに剣聖たちと同等、またはそれ以上の強さを持つ男。素性は誰も知らないが、彼が「モナーク・セイクレッド」の送り込んだ戦士であることを炎は知っていたのだろう。
彼が戦うのはこの世の者ではない者たちであるということも。剣聖騎士団はＧＴＭ「シュッツィエン」という煉獄色のＧＴＭを装備していたが、彼だけは群青のシュッツィエンを駆り、そのＧＴＭには「雷丸」という特別な名前が付けられていた。
超帝國騎士団の記録にはまったく残っていないが、この人物がいたことだけは確かである。

現在のログナーの先代に当たる。記憶はモナークが継承しているために星団暦の今のログナーは炎とのこの時代の出来事をすべて知っている。
また、彼は優れた騎士、敬意を持って接するべき騎士に対して、「騎士」ではなく「戦士」と呼ぶ。ログナーが「戦士」と呼んだ相手は僅かしかない。その相手が自分よりも強かろうが弱かろうがそう呼ぶにふさわしい騎士を彼は戦士と呼ぶのである。

騎士とは

「騎士」という言葉は誰もが知っている言葉だが、昨今のRPGゲームの影響で意外と曖昧になってきている言葉でもある。

「ナイト」ではなく、日本語の「騎士」という単語とファイブスター物語で使われる騎士という単語は同じ意味で使われている。

すなわち「騎馬、乗りものに乗って戦う職業戦闘人種」のことである。

「騎士」「騎兵」は日本と西洋では使われ方が異なるが、「何かに乗って戦う人」を指していることが多い。

「騎士」は乗り物に乗って戦う人であり、乗り物に乗らない戦闘員は戦士とか兵士と呼ばれる。日本では足軽や歩兵がそれに当たるだろう。

昔は馬に乗って戦っていたが、近代までは騎士の名残もあって、騎兵がエリート兵士として君臨していた。そして現代では形を変えて米軍なら攻撃ヘリコプターが騎兵と呼ばれるし、騎士の国、英国では騎兵はヘリコプターではなく装甲、戦車師団のことである。英軍が戦車師団なのに相変わらず騎兵と呼ぶのはその古来からの名称によるものだ。

その英国王室近衛騎兵の名称はその名も

「女王陛下の第1竜騎士団」

（ファースト・クィーンズ・ドラグーン・ガーズ）である。

嘘みたいだが本当だ。英軍はこれ以外にもロイヤル・スコットランド・ドラグーン・ガードなど、たくさんの竜騎士団が今も普通に配備されている。この英軍の竜騎士団という名称は戦車ファンならおなじみの単語である。チャレンジャー2戦車が騎兵隊の所属でその連隊名が第1竜騎士団とか戦車ファンにとっても英軍の編成上の呼称はちょっと別格の訳になっている。（王室騎兵連隊以外は残念ながらごく普通の名称である。また編成上の戦力は師団以上なのに下位の集団呼称である連隊を使っているのも英軍ならではか）

話がそれた。このとおり西洋で一般的に使われる騎士という言葉は貴族の称号である「ナイト」ではなく、英軍の例を見てもわかるとおり槍兵（ドラグーン）であったり、騎兵（キャバルリー）であったりするのだ。ナイトと呼ばれるのは貴族より下、平民より上の称号で一代限りの戦闘を行う称号持ちだったことから一般兵の「騎兵」ではなく士官としての「士」武士の「士」と同義として「ナイト＝騎士」と日本では訳されたのではないだろうか。

さて、言葉としての「騎士」はけっこう面倒くさいのだが、ジョーカー星団で「騎士」とは9巻でエストがヨーンに言ったとおり、

「GTMを駆る者が騎士なのです」

という言葉に集約されている。

AD世紀末期、超帝國が崩壊し、巨大なシステムがなくなった結果、人類は再び模索と再出発、国家形成と新たな権力闘争の始まりでもあった。8代目総帝、アーハト以降の皇帝たちは炎の意向、蟻型社会を元に戻すということを忠実に行っていた。

それは13代目の総帝ドラツェまで続き、一般社会に騎士とポルテッツの血を誇いていたのである。それまで騎士たちには与えられていなかった人権、オペラの制御下から限定ではあるが解放され、好きな相手と夫婦になるということができるようになった結果でもある。

この時に基本的な騎士法が誕生している。その特殊な力を持つ者たちの人権の制約と、それ故の特権である。

ちなみにアーハトの後の総帝は炎ことナ・イ・ンである。セントリーとの調停のために帰還したナ・イ・ンがそのまま総帝ツェーンの時代まで統制を行っていたので、総帝「ノイン」は存在しない。

基本的な移行はすべてナ・イ・ンが作っていたと見られる。炎が8の次の9を飛ばして10にしたのは自分の名前と混同を気にしたからだろう。いくらスペルが異なるとは言えややこしくなる。

星団暦に入ってからの騎士は血が薄まっているために超帝國時代の騎士と比較すると力は落ちていると言われるが、緩やかにその力は弱くなってきているのは確かである。

すべての人類に騎士の血は行き渡って誰からも騎士は産まれてくるようになったが、その発生率は非常に低い。そして騎士の力を確実に持って生まれさせるということが不可能なために人種的な優劣が生まれにくく、さらに一般人から騎士が産まれる確率と騎士と騎士の夫婦から騎士が産まれる確率は同じであるために騎士の血の血統は基本的に一代限りである。また騎士の力が弱まっている事実は騎士自体の発生率も減ってきているということでもある。

5つの星で繰り広げられる戦争や内戦などで騎士は絶えず不足気味だ。また騎士の血が中途半端に表れた人間などが選べる未来は少ないなど、いまだ様々な問題を残し続けている。

騎士の制約～騎士法

騎士は基本的に一般人とは隔離されている。戦場や騎士団駐屯地以外の大都市や地方などでは騎士を見たこともない人々は多い。

その超人的な力によって「平時に」その力で戦争以外で一般人に危害を加えた場合はいかなる理由があれど重罪または極刑になる。これは不文律であり、これがないがしろになると社会秩序が狂うからである。また騎士たちの数の少なさは彼らだけで国家を支配することの困難さもありAD世紀から現在に至るまで騎士支配による国家は生まれていない。

一般人に危害を加えたら極刑というのはもちろん例外もある。クリスティンなどの場合はたとえ分別のつかない子供であっても極刑が適用される。だが、様々な事情からクリスは極刑を逃れ、一生「兵器」として生きていくことを選択した。これによってクリスには人間としての基本的人権はない。人ではなく物として一生扱われる。場合によっては超帝國時代同様クリスは凍結によって必要な時だけ覚醒させられるということもあり得る。人権の剥奪は非情に聞こえるが、被害者家族や一般社会からは超法規とはいえ許されるべきではないと今も反発が多く、フィルモア帝国としては魔導大戦において激戦区で戦わせ、戦死させる方向でクリスの扱いは決定している。可能な限りの戦果を上げさせて戦死させるのが最も国家の益となり、民衆を納得させ得る方法だからだ。

一般人に危害を加えた騎士をこういった方法で処分させる国家は多く、予定外に生き延びた場合は国家の命によって騎士団で処分している。恐ろしい話だが、こうしないと騎士団としての秩序が星団で保てないからなのである。

だがしかし、これらはあくまで平時や一般社会生活の中での話であって、これが戦場や戦闘となると一変する。例えば1話の中でログナーは一般兵をなぎ倒しているし、コーラス王はクローソーを守るために銃を構えた騎士ではない男を切り倒している。

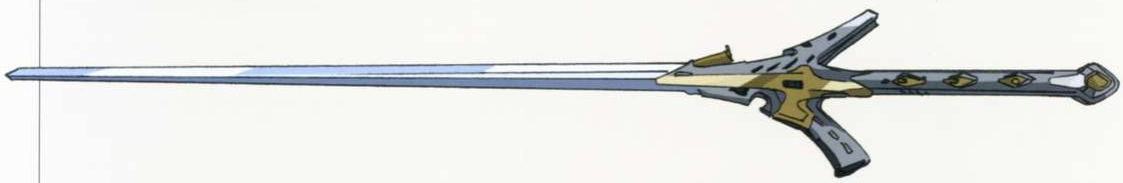
当たり前だが「戦闘状態」においては騎士がどれだけ騎士ではない戦闘員や兵士を殺しても問題はない。銃を向けられて攻撃を躊躇し、相手を殺せなければ騎士相手に戦う時は一般人を出せばいいということになってしまう。

現実の戦争で一般兵士の戦いに戦闘機の攻撃も戦車で兵士を蹂躙するのも駄目だというのと同じである。

なので一般兵士は相手が騎士だとわかれば銃を捨てて一目散に逃げればいいだけの話である。さすがに騎士は逃げる一般戦闘員を殺すことはあまりない。ただ、殲滅命令などが出ている時は別だが。

United Minogshia

Kampf Hathhant Atoll politi



AP騎士団

ミノグシア連合（旧称・ハスハ連合共和国）を代表する騎士団は「AP騎士団」である。

正式には「カンプリッター・ツァイツェン・クラフト・アトール・ポリティ」つまり、アトールの力と品性の戦闘騎士団、という意味である。

この騎士団が筆頭に出てくるのは現在の物語の中心となる騎士団であるからだ。登場人物も多く、12に分かれたAP騎士団は現在いくつかの分裂した国家にそれぞれがバラバラになって旧ハスハを侵攻する敵から守っている。かつては12支隊と呼ばれたAP騎士団も枢軸に押され苦戦を各地で強いられている状況である。

AP騎士団の編成は「デザインズ3」にも詳しいために割愛するが、基本的にハスハ連合共和国時代は12もの巨大な「支隊」と呼ばれる騎士団がハスハ全土に駐屯していたが、現在は大きく3つに分裂して旧ハスハ各国の思惑に沿って動いている。

もはやかつての大集団としての統制は取れてはいないが、分裂したとはいえ、各支隊は旧ハスハ各国を守って戦っていることに変わりはない。しかし、それらが再びまとまることは難しいであろう。

ミノグシア連合〜旧ハスハ連合共和国、騎士団と騎士服

ジョーカー星団の中でもかつて列強に植民星と呼ばれていた時代があるために古の国家や口の悪い人々からは未だに格下に見られることが多いのがボォス星の国家である。

そういうこともあるのかもしれないが、旧ハスハを代表する騎士団、AP騎士団は12もの師団（支隊と呼ぶ）からなる大騎士団である。

そのAP騎士たちの騎士服の種類はとても多く、礼服から通常勤務服、戦闘服であるGTMスーツまでひとりの騎士に多くの制服が支給されている。

騎士は基本的に軍隊内では佐官以上の「高級指揮官」のランクである。

そのため騎士各自の制服は本来自費でまかない、各自オーダーするのが普通である。フィルモア帝国などはまさにこの高級指揮官のオーダーメイドが闊歩する騎士団なのであるが、AP騎士団は騎士服を個人的にオーダーすることも可能だが、所属国家、所属支隊によってきっちり規定が決められている。なので彼らの着ている制服はすべて「支給品」である。

支給品とは言っても一般兵士の3〜5サイズしかない支給品ではなく、各騎士の体形に合わせた個別の仕立てとなる。

もちろん、将校の戦闘用装備以外は自費というのは原則であって、フィルモア帝国なども将校以上には「被服手当」があるので本当に自腹を切っているのは僅かではある。

というところで、騎士たちの報酬報償だが、GTMとファティマの装備まで含めるととんでもない金額である。それらを一切含めない一般的に騎士ひとりにかかる年間コストはそれでも10億とも言われるが、何でこれだけかかるのかと言えば、「騎士ひとりは通常の1個師団に相当する」ということを考えれば納得できる。非常に騎士にかかるコストは大きいのだ。騎士がひとり増えればGTMの装備からそれにかかる整備、パーツ、移動、演習、とてもたくさんの人員が騎士ひとりに関わっているからなのだ。その騎士の報酬はそれなりにあるものの「騎士は戦争の代理人」と言われるとおり、一般人に代わって命をやりとりするので、死亡率の高さは桁違いである。一般的に1億円くらいと考えるのが妥当であろう。

これが高いのか安いのかは1年戦って死亡した場合を考えるとわかりやすいかと思う。その1年で死亡した騎士の生涯収入は1億であるということになるのだから。生々しい話ではあるが、命をやりとりする職業なのだ。一般的な常識の範囲外にある。大騎士団であるAP騎士団はとても恵まれた環境にはあるが、すべての騎士団がそういうわけではない。

騎士の階級と立ち位置

ジョーカーの軍において、この騎士の軍階級は重要で、たいていの国家はすべて同じように統一されている。一般的な軍隊を例に取れば、空軍で言えば戦闘機パイロットは少尉から少佐までである。中佐になると現役パイロットからは降ろされ、地上の指揮任務となる。なので戦闘機パイロットでは少佐以上は古今東西いない。…のだが、第2次大戦のようなパイロット黎明期、かつ国家を上げての総力戦となった場合には大佐も先頭切って出撃している。もっとも第2次大戦は伍長、軍曹の下士官からパイロットになれたが、今は馬鹿みたいな適性検査だの学力だの英語力だのアホみたいな枠を設けて世界中で戦闘機パイロットの間口を狭くしている。まあこれを見てわかるとおりどの国家も本気で戦争を考えていないということでもあるのだが。戦闘機乗りというものが過去につつあるのも事実だ。将来はロボット戦闘機がメインになるからだ。

さて、海軍では多くの国家が実戦に出る最高ランクは「艦長」の大佐である。

これもまた大佐以上の階級になると船には乗れず提督だの軍会議に翻弄される。

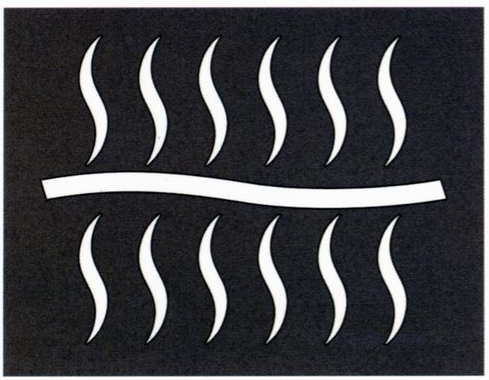
これでおわかりのようにジョーカー星団の騎士は「少佐で騎士スタート、少将以上で現役騎士引退」となる。

ハスハでのギラやバルンガが実戦から遠のいたのはそういう理由もあるのだ。とはいえ、総力戦ともなれば例外はない。全員が出撃するであろう。そういう階級による決まりがあることを知っておいていただきたい。ただ、こういった決まりは基本戦力を限定する危険な仕切りでもあるので、各国は臨機応変に大将だろうがどこぞの皇帝であろうが本当に実戦に出て戦っているのはご存じのとおりである。

取り決めに縛られたら矮小化するだけなのだ。

騎士は本業である騎士戦、GTM戦、戦争、内戦出撃以外にも国家事業への参加、友好国への派遣など税金でまかなわれている以上、様々な仕事がある。

この最新のデザイン集が「図鑑」と名付けられているとおり、騎士たちの様々な衣装や生活を見ていただきたい。物語においても戦時中の騎士は様々な格好をして登場してくる。その時にはこの本を読み返していただければ面白いのではないかと思う。



ＡＰ騎士団・礼服

いちばんおなじみのＡＰ騎士服である。
ただこの服は礼服なので王宮内や式典の時に着ている服で、実際のＧＴＭ戦闘では戦闘服で戦っている。

それでもこの服に誇りをもつＡＰ騎士は多く、戦場においても非番（非戦当時）の時にはこの服を着ている騎士が多い。非常に重厚なコートスタイルの礼服ですべてドスキン生地が使われ優雅で上質な光沢を放っている。帽子も同様だが、内部には防御システムを兼ねたヘルメットが内蔵されている（後述）。特徴的なのは両肩から垂れ下がる長い紐状の飾りである。騎士が動くと優雅に流れ、長いマントなどよりその流れは動的で美しい。
この紐はロングフリンジと呼ばれ、肩の大きなエポーレット（飾り付き肩章）に２重に重なるように付けられている。フリンジそのものは軽いシルクが使われてはいるが、その長さもあって両肩のフリンジを合わせれば結構な重量となる。
礼服のセンターには各支隊のカラーで縁取られた打ち合わせがあり、スパース隊の場合は薄いブルーである。また各装飾は基本的に銀で、これ以外の色は使われない。というのも支隊の個別カラー以外は礼服ゆえのきっちりとした規定があり、装飾は銀、手袋は革の黒、靴、ハイヒールの色は黒でエナメル光沢があること。男性はひざ下までの革の光沢のある黒いロングブーツ。女性のストッキングは履いていないくらい薄く透ける肌色が規定である。礼服、公的な場での素足は男女とも御法度である。
礼服に関しては各支隊長以外はすべて頭からつま先まで同じである。
式典や国家事業の時、ひとりだけ靴の色が違うとかは国威に関わることなので、12のＡＰ騎士団全員が規定に合わせている。
彼らが整然と並ぶ式典はさぞ雄大であろう。

AP騎士団・礼服女子（支隊長礼服）

ミノグシア連合、旧ハスハ連合共和国ＡＰ騎士団の第２支隊で、ＡＰ騎士団を象徴する最精鋭支隊、そのスキーン隊支隊長の礼服である。
礼服としては基本的な作りは男女同じである。ただカッティングが女性のものは長いロングコートが体形に合わせてドレスラインとなっている。この礼服は王都防衛親衛騎士団と言われる第２支隊スキーン隊のもので、打ち合わせの色がスキーン隊の支隊カラーであるシャンパンイエローで合わせてある。打ち合わせだけでなくスキーン隊は袖口にも装飾を入れている。

この礼服は近衛騎士団スキーン隊の支隊長らしく帽子には派手なスキーン隊のマーク、肩のロングフリンジとその上に付くエポーレット（肩飾り）のフリンジはダブルに付けられている。これはスクリティ隊の支隊長、アルルや前任のバルンガの礼服でも見られることから、ダブルフリンジは支隊長の印でもあるのだろう。
これだけ華やかな礼服なのだがデザイン画では頻繁に描かれているのに物語本編ではあまり出てこないのは、この糞長いフリンジを描くのが大変だからである！

スキーン隊　前支隊長
ピッキング・ハリス
Kampf A-P Limbs SKIN
Picking Harris

身長190cm

で、おや？と思われた方も多いかと思う。現スキーン隊の支隊長はシュマイス・バイダーで、女性ではないからだ。つまりこの装飾の多い礼服を着ているのはシュマイスの前の支隊長、ピッキング・ハリスである。そう、ミラージュ騎士団のスパークの在りし日の姿である。

礼服防護システム

礼服の帽子の中である。礼服とは言ってもれっきとした戦闘服なので反応式電磁シールドを発生させるヘルメットが内張りとして入っている。肩のフリンジと肩章を外すと、このような反応式電磁シールド発生器が内蔵されている。この細かいひとつひとつのパーツに長いフリンジが取り付けられている。
これらの戦闘的な装備はすべて威圧や威厳を与えるためのもので、実際の戦闘ではガット・ブロウではなくヴィーニッヒを用いるし、戦闘服ももっと軽装である。

AP騎士団・礼服　後

スキーン隊の礼服後ろ姿である。仕立て生地そのものもかなり重厚で重そうである。生地が重いからこそのすらり、どすっとしたラインが美しい。軽い生地だとこうはいかない。
服はなるべく軽いほうが良いにこしたことはないのだが、やはり礼装はある程度の重さがないと説得力がないのかもしれない。
背中には脊髄ガードがあるがこれは本来ヘルメットに付くものである。
左腰に付けているのがガット・ブロウのつり下げホルダー。礼装なのでフルサイズのガット・ブロウを下げることが規定されているが、礼装以外ではショートサイズのヴィーニッヒが下げられていることが多い。

スバース隊・デプレ付き騎士
アード・ゼニヤッタ中佐
Atoll Honor Guard Erde Zenyatta

身長190cm

子供で登場したアードも今では高校生くらいに成長している。ハスハ王宮からの脱出時にひとコマだけ登場しているが、デプレ付きは変わらず、若手ではあるがかなり鍛えられているはずである。アードはヒンともどもデプレ付き騎士なので、どの支隊にも属していないのだが、ハスハ陥落以来、戦える騎士はすべて戦場に出るのが鉄則のため第１支隊のスバース隊に所属となった。昏睡状態となっているデプレ、行方不明のマグダルの身を案じているが、今は母国解放が先であることもよくわかっている。

AP騎士団・GTM戦闘スーツ

おなじみのＧＴＭ戦闘スーツである。男性はショート丈のコートタイプで太ももが膨らんでひざ下で絞ってある乗馬ズボンタイプのボトムである。高級指揮官クラスは支給品以外のオーダースーツも多いのでシュマイスやバルンガなどは長いロングコートである。また、男女ともにベルトはとても太いサッシュタイプである。

女性はヤーボでおなじみの女性用ＧＴＭ戦闘スーツである。ＡＰ騎士と言えばこれと言われるほど、ドルマンスリーブとフリンジの付いたスカートの印象は強い。またショートマントも男性のエポーレットとの区別が付けられている。

スバース隊・デプレ付き騎士
ヒン・モンダッタ中佐
Atoll Honor Guard Hinn Mondatta

身長181cm

アードとコンビを組むヒンも幼い姿での登場であった。今は立派にスバース隊のメンバーとしてランドの元で戦っている。アードにしてもヒンにしてもランドという実戦経験の豊富な支隊長の元で戦えるのは恵まれている。騎士個人としてはデプレの化け物じみた力を知っているので強さに関しては２人共によくわかっているだろうが、戦場でＧＴＭ戦闘ともなればまた話は別である。魔導大戦序盤だけでも天位やエースと呼ばれる騎士があっけなく次々死んでいっているのだ。騎士個人の強さと戦争で生き残ることはまた別なのだ。

ドーチュー隊・一般制服　女子

ドーチュー隊は初登場である。ハスハント王宮に駐屯する第１支隊スパース隊、第２支隊スキーン隊、第３支隊ドーチュー隊として最精鋭の騎士団ではあるが出番は少ない。このドーチュー隊の女性もナルミと同じロングドレス姿であるが、袖の開き方やフリンジの長さなどが異なる。詰め襟がハイネックになっており、肩にはシルクのフリル状の飾りが付き、袖口と裾はドーチュー隊の意匠が入っている。ドーチュー隊のカラーは黒なので、とてもシックである。足もとはハイヒールだが、礼装と違って細かい規定はない。なのでナルミのようなショートブーツでもつま先の開いたオープントゥでも問題ない。また基本的に帯剣ベルトなどの戦闘パーツを付けていない。武装はしないのが基本である。なので町中にちょっとした用事で出る時もこの姿である。

AP騎士団・一般制服　女子

珍しいドレスコート姿のナルミ。ＡＰ騎士服は種類も多く、重厚な礼服、ＧＴＭ戦闘スーツだけではない。騎士の仕事や任務によって様々な制服がちゃんと用意してある。このドレスコートは女性の一般的な通常勤務の制服で、国家会議から事務仕事まで戦闘時以外の制服である。従って肩章やフリンジなどは軽く柔らかい飾り布で仕立てられている。とても上質な綿で仕立てられ、各所に所属支隊を表すカラーコードが入っている。ツラック隊はマリーゴールドである。
もちろん女性はスカート丈を個人の意志で決めても良いのでひざ下までの長さのものが最も頻繁に使われているし、ウルトラミニでもかまわない。一応は…。高級指揮官だし…その辺はお任せなのだ。

旧日本式に言えば、山高帽と長いフリンジの礼服は「甲１種礼服」、ＧＴＭ戦闘スーツは「甲１種制服」で、この一般制服は「甲２種礼服」というところである。
支隊長は基本的に大佐から少将なのだが、ナルミは先任支隊長が戦死したためまだ中佐のままなのだ。本来なら支隊長任官とともに大佐になるのだが、現在戦闘中なのでそういうことは後回しになる。なので彼女の礼服はまだ一般ＡＰ騎士と同じである。

ミノグシア連合・一般騎士

旧ハスハのＡＰ以外の国家騎士団レベルの騎士の出で立ちである。ＡＰ騎士のような派手な装飾はないが、基本的な意匠は同じである。一般騎士とはいっても高級指揮官クラスなので彼らもまた各々支給品とは別に騎士服をオーダーしているので細かいところがいろいろと個人の趣向で変えてある。もっともミノグシア、旧ハスハのＡＰではない国家騎士団所属の一般騎士でも「ＧＴＭバーガ・ハリ」を装備している者もいるので一般騎士だから弱いとかそういう見方はできない。ＡＰ騎士は国家に対しての貢献度などでも決まっていくのでＡＰ騎士だから強いというわけではないのだ。これはフィルモアなどすべての騎士団にも言えることでもある。

ミノグシア連合～旧ハスハ・ボルテッツ

旧ハスハは物語中でも最初に魔導士が登場した国家である。ラーンの詩女の下、旧ハスハにはボルテッツやスコーパーといった魔導士が多く軍に編入され、スコーパーは情報収集、ボルテッツは戦闘補佐や要人の警護を行なっている。ハスハがバラバラになった現在でも軍所属のボルテッツたちはそのまま残って戦っている。

この姿は戦闘服で肩には騎士と同じ反応式電磁装甲を装備している。戦場において騎士と戦うことはなくとも爆発や衝撃などの戦闘被害からは最低限守られる。

彼らに制服というものはなく、騎士よりも体力のない彼らは戦いやすければどんな格好をしていてもかまわない。もちろん式典時には皆同じ格好をするが、ボルテッツたちはそもそも公的な場所に出ることを良しとしていない。それは一般人たちの偏見もあれば、彼らボルテッツの置かれている立場というものもあるのだろう。数多くのボルテッツたちがバッハトマに流れていったのはちゃんとした理由があるのだ。

GTM整備士???

他から見ればこんな少女が整備をしているだけでツラック隊の大惨状がわかるというものだが、見てのとおりラキシスである。ソープの助手を「ネコの手を借りるよりはマシ」な感じで勤めているのだろう…とか思いきや、ラキシスはマグナパレスという星団史上まれに見る制御しにくいGTMをあっという間に制御できる腕を持っている。つまりはソープの助手は充分に務められるのである。隊内ではGTMパーツの管理と各GTMの状態をきちんと把握して整備士たちにソープの的確な指示を伝えている。専門用語と数値が飛び交う外見とのあまりの差にナルミたちもびっくりしているが、実はソープですらやっかいな「ファティマ制御側のチューニング」を彼女が密かにやっている。これは普通のファティマではとうてい無理なチューニングレベルでツラック隊のバーガ・ハリは動力性能も制御レベルも星団最高峰に仕上がっていたのはこういう理由があったからだ。もちろんファティマだからできる調整は密かにこっそりばれないようにやっている。
が、ソープと一緒に働いているラキシスはとっても幸せそうである。

待機中の騎士

GTMスーツを脱いでくつろいでいる女性騎士。質素なスープとパンだけの食事だが、ベラ国の物資はとても貧窮状態にあり、満足な食事もない状態で騎士たちは戦っていた。シャツにショートパンツだけの格好だが、首からぶら下がっているのは自分のバーガ・ハリの整備状況を示すパネルモニターで、腰から下げているのはその日の戦闘状況を示すミッションボードである。このへんは戦闘機のパイロットに近い感じでもある。食べているのは羊の出汁だけの塩スープに堅いパンである。騎士の食事に関しては後述する。

ツバンツヒ
GTMステーブル内での私服軽装

ツラック隊に成り行きで入ることになったツバンツヒだが、この姿を見ると液体状の髪の毛は普通の髪の毛のように、目の上などの各所の入れ墨も消されるか薄くなっている。動く時の「シャンシャン。シャリリ〜ン」という音もしなくなっている。
ツラック隊最強騎士、というか星団でも最強レベルの騎士のツバンツヒが頼られてしまうのは仕方のないことで、一度戦場で共に戦えば彼女の強さも、実戦経験もハンパではないことくらいすぐにわかることだからだ。
ツバンツヒのこの変化は
「カリギュラなのに目立つとやばい！」
という理由からで、敵を自分で倒さず、周りの騎士たちにとどめを刺させたりサポートに徹して撃破スコアを他の騎士に与えている状態である。そんなことをやっていればさらにツラック隊内での信望は高まるのだが、目立つよりはマシということである。
ということで予想外に頼られなじんでしまったツバンツヒの隊内での姿である。手に持っているのは武器ではなく、GTMのスイングボルトなどを外す時に使われる電解スパナである。GTMのパーツは熔解圧着接合をされているところが多く、このスパナでボルトそのものを破壊して分解しなければならない。ツラック隊にはソープもいるが、ツバンツヒは多少の調整ならば自分でやると言っているのも不思議ではない。自分の経験でGTMの調整を行える騎士は少なくはないからだ。もちろん彼女がやっているのは多少の調整なんてものではない。GTMガーランドでもあるツバンツヒはソープのスライダーの技術に驚きながらも、見えないところでツラック隊のバーガ・ハリだけでなくベラ国家騎士団の主力GTM「ハーミトン」も調整と称して修理しているのであった。冷徹なカリギュラのはずなのだが、「そんなものより調子の悪いGTMは許せない」のがガーランドでもあるところであった。
ツラック隊の常識を超えるGTM稼働率はソープがいるからだけではなかったのである。反則レベル。

AP騎士団スバース隊支隊長
ランドアンド・スパコーン
Loundwound Spacorn

身長235cm

主である天照の了解も得て、ＡＰ騎士となったランド。それも旧ハスハ最精鋭のスバース隊の支隊長である。
もともと星団では天照家の騎士として知れ渡っており、その騎士としての強さと人柄は騎士ならば誰でも知っているところでもあった。天照玉座でのボスヤスフォートとの戦いをラーン支隊のドヌーブまで知っているところを見れば主塔玉座での戦いは一般的にもかなり知られているのだろう。天照家にとっては恥だが、攻め込んだボスヤスフォート側が自分たちの強さを示すためにあの戦いをある程度公表している。またその時にボスヤスフォート自身も片腕を失ったことなどをバッハトマがプロパガンダとして星団中に流したのは当然のことである。
天照家のミラージュすら倒したボスヤスフォートたちの強さは星団中に広まり、多くの騎士や人材がバッハトマに集まってきたのも事実であるが、ランドの強さもその時同時に広まったのであろう。
スバース隊の支隊長と公表された時、ミノグシア側からほとんど反論が出なかったのはそういうこともあるのである。政治的にも天照家の騎士がスバース隊に入ったということは対外的に有利になるとギラやバルンガたちは考えている。

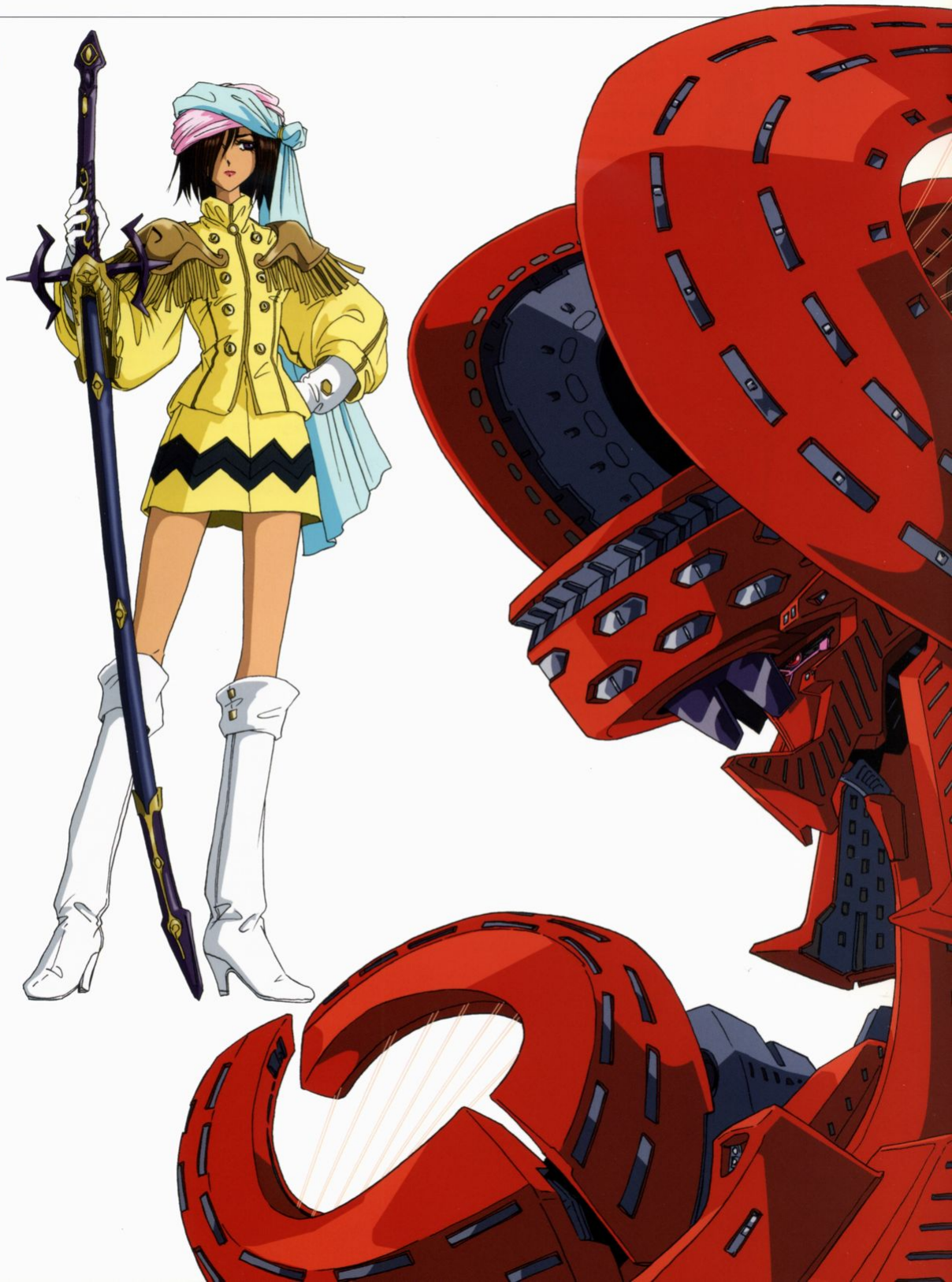
ランドの出で立ちは普通のスバース隊の男性用ＧＴＭスーツで、派手を好まないランドらしいと言える。サイドにコブラの文様が入っているが、ギラの腕やヤーボのバーガ・ハリに同じコブラの紋章が入っているところを見るとコブラマークはスバース隊のエース騎士を示すマークと見るのが良いだろう。
ランドのデザイン画も増えたが、ちゃんと緩やかに年を取っている。この姿を見ると2988年のランドはまだ若かったのだと思う。

ティスホーン
Fatima Tisphone

身長170cm 体重43kg

ちょとまて、こら。
突っ込みたい気持ちは抑えても、何というのか、ミノグシア連合、筆頭騎士団の支隊長のＡＦだからなのか、いや、それとも元ミラージュ騎士団ランドのパートナーであるからなのか、いややはりバランシェ・ファティマだからなのか、旧ハスハのファティマたちは皆シャンパンゴールドのアシリアスーツのはずなのだが…。
これはもう、現在スパースにいるシアン夫人が作ったものであることは確かである。スパース隊の支隊カラーであり、ティスホーンのカラーでもあるスカイブルーのアシリアである。あ、夫人がそこらをうろついていたので突撃インタビューします！
「すいません！　なぜティスホーンのアシリアだけ水色なんですか？？？」
「ティスがハスハに来てくれたのは良いけど、数の少ないＬ型ファティマじゃない？　Ｌ型のアシリアスーツの在庫が１着もなかったから作っただけよ」
…絶対嘘である…。
ここはさすがティスホーンと言うべきなのか。ロングスカートもしくはコートスタイルがＬ型ファティマの基本だが、アシリアのヘリオス繊維でこのロングコートを作ってしまうと非常に重くなるので、腰の切り返しのところでデカダン生地に切り替えられている。

物語では血の掟がすべてのミラージュでランドがハスハに与することをなぜ天照が許したのか？？このあり得ない陛下の決断はなぜか？という謎を99.9%の確率で推測し、それは事実だったのだが、予測演算をした時にはティス自身もその回答を「あり得ない誤回答」としていた。トホホである。さすがティスホーン。
この図鑑ではそこかしこにこの「インタビュー」が出てくるが、もちろん突撃しているのはソーニャさんである。



AP騎士団　第12支隊スクリティ隊支隊長 アルル・フォルティシモ大佐
Arr Fortissimo

身長185cm

13巻でのギラの言葉通り、バルンガはスクリティ隊の支隊長をアルルに譲った。この異動に口をはさんだものはいない。それほどアルルが旧ハスハで信頼されているという証拠でもある。
ただ、彼女の駆るＧＴＭはバーガ・ハリ・スクリティではなく、コーラス王家のＧＴＭ「ＨＬ１」で、この件に関してもミノグシア国民は新たな象徴、ミノグシア解放へのエース騎として歓迎している。実はコーラス国民もそう思っているのだが。
アルルのＧＴＭスーツはスクリティ隊の様式に則ったものだが、細かなところにアルルのパーソナル意匠が盛り込んである。
また、彼女の持つ「神剣・懐園剣　雄」だが、アルルは基本的には短刀のヴィーニッヒを主装備にしているので、この懐園剣を実戦で振り回すことはない。

神剣・懐園剣　雄
Mist Brade "Kaien Ken"

全長230cm

天照の娘、カレンが産み出した時空を超える物体である。
剣の形をとっているのはそれを望まれたからで、ガット・ブロウの性能を持っているのもそれに準じているからである。
懐園剣はふた振りあり、短いもう一本の「雌剣」は現在ミースがカイエンから譲り渡されている。こちらは「ヴィーニッヒ」であり、刀身は伸縮する。
「雄剣」は「ラングン」の形で鞘付きの長剣である。先の持ち主剣聖ハリコンからアルルのメロディ家が受け継いでいたもので、メロディ家筆頭のアルルがそのままハスハにまで持ってきている。
鞘の付いたガット・ブロウはとても珍しく、もともと刀身に刃の付けられていないガット・ブロウに鞘は必要ないのだが、この鞘から剣を抜くことはできない。この世では。
そういう剣なのである。ただ、鞘が付いた状態でも普通にガット・ブロウ・ラングンとして使えるので、この剣を持つものは鞘のまま戦っている。それで何の問題もない。
単行本11巻の冒頭の未来回想シーンにあるとおり、剣聖マドラがこの剣をさやから抜いているシーンがあるが、この剣が鞘から抜ける理由はただひとつしかない。ただ、その懐園剣の本当の姿と剣聖マドラの力をもってしても、彼女は片腕を失っている。そのエピソードはもう近い。
「ツラック隊」「バルスエット」の後に控えるエピソード「ショウメ」の一幕である。

ミノグシアAP騎士団 警察騎士団・スクリティ隊GTM バーガ・ハリSQ

元警察騎士団スクリティ、バーガ・ハリＳＱである。
現在は全騎がアルル・フォルティシモ指揮下にある。その主力はラーン近郊の防衛と情報収集でスバース市と密に連絡を取り合っていると思われる。バーガ・ハリとはまったく異なる特殊な装甲を持ち、その用途は主力ＧＴＭに求められる汎用性と集団戦闘性能を排除し、索敵と密偵に使用される。というのもスクリティ隊が戦うのは他国ではなく、自国の騎士とＧＴＭなのである。
ＡＰ騎士だけで２０００名、旧ハスハすべての騎士１万名という騎士団の動向と騎士軍法会議で決定された軍務違反などのハスハ騎士の処刑と捕獲が主な任務だからだ。従ってスクリティのバーガ・ハリは「自国のＧＴＭ、バーガ・ハリと戦う」ことが基本的な設計で、バーガ・ハリに対して圧倒的有利に戦える装備を持っている。その最たる特性はバーガ・ハリの情報感覚器を使用不能にする巨大な頭部のコード発信器である。これによってバーガ・ハリは目視で戦うしかなくなるのだ。強力すぎるジャマー装備はもちろんスクリティの騎体すら影響下に置かれるが、そういった特殊な環境下で戦うことをスクリティ隊の騎士は訓練されている。
が、魔導大戦の勃発と共に使える戦力はすべて投入されるのが全面戦争の定義である。ＧＴＭには珍しく特化された性能はハスハ王宮陥落後、マギーによって徹底的に実践用途に改修され、その索敵能力は残ってはいるものの対ＧＴＭ戦闘モードになっている。情報妨害のジャマーヘッドは最低限の妨害機能しか残っていない。

The Empire FILLMORE

Kampf Litter Fillmore Neue Shirutis

フィルモア騎士

星団最強の騎士団と言われ、その歴史も現国家では最も古い。

フィルモア帝国ではハスハのような礼服や正装といったものはない。基本、騎士服のみである。

意外に思えるが質実剛健な国家であることもその要因である。

従って公的な礼装はノイエシルチスならばいつものノイエシルチスのストライプ騎士服にたすきを掛けたりするくらいである。アルカナイトから下位の騎士団もすべてこれに準じている。ただハスハと違い、騎士服は支給品ではなく多くの場合は騎士個人の負担となっているので、その騎士服のバリエーションは騎士ごとにあると言っても過言ではない。取り決めはもちろんあるが、それ以外の袖の長さやストライプの数、細かい装飾からベルトに至るまでかなりバラバラである。

フィルモア帝国筆頭騎士団 ノイエシルチス

物語当初より登場しているフィルモア帝国を代表する騎士団である。〜騎士団という呼称ではなく「ノイエシルチス」という固有名詞イコール騎士団名を持つ。

その歴史はとても古く、星団暦以前にまで遡る。

現在のフィルモア帝国が誕生する前のドナウ帝国、太陽王国という二つの大国家は「ダス・ラント」から分離した国家である。もともとのダス・ラントの騎士団はストライプの騎士服で、それはドナウ帝国の騎士服を見てもわかる。太陽王国も青と黒のストライプ服であった。それがフィルモア帝国の誕生と共にそのまま移動し、現在のノイエシルチスの代名詞ともなっているストライプのバルーンスーツとなった。

現在は3つのグループ、つまり騎士団になり、それぞれ「赤グループ」「青グループ」「黒グループ」と呼ばれている。この色の差による序列はなく、どのカラーのノイエシルチスも同格であるが、時代によって活躍したグループがあり、赤グループが最強であるとか、黒グループが頂点だとか論争は絶えないが、実際にグループによる差は一切ない。

またこの3つ以外に時代によって編成されるグループもあり、現在は皇帝近衛グループと言われる「白グループ」と、戦場監視の名目で編成された元老院の「萌葱グループ」が登場している。が、正式な意味でのノイエシルチスではなく、時期が来れば解散することを想定して編成されているし、これら暫定グループのメンバーもノイエシルチスのメンバーから編成されている。また萌葱グループはナイアスの言葉からわかるとおりもともと「帝国教導騎士団」として存在している。教導騎士団とは騎士を鍛え育てる生え抜きの教官たちで構成されたいわば本当の「エース部隊」である。

一般の帝国民はそういう騎士団があることは知っていても教導騎士団というものがどういうものなのか知らないし、実戦に頻繁に出ているわけでもないので相変わらずのんきに赤がいちばん強いとか青が最精鋭だとか言って楽しんでいるのである。が、これも間違ってはいない。どこが強いとか、どの騎士がいちばん強いのかなどと言うのは愚問の極致である。デコースの言葉である。

「アホか！生き残ってる騎士がいちばん強いんだよボケ」

これが真理である。

騎士の装備について全般

フィルモアを代表する騎士団、ノイエシルチスの騎士たちはほとんどがオーダーメイドの騎士服である。AP騎士と異なり、礼服や専用のGTM搭乗スーツを採用していないためにたいていの場合、ノイエ騎士はあのストライプスーツである。

オーダーメイドなので、細かい箇所や生地そのもの、ポケットの有無からカフスの長さや装飾に至るまで、騎士それぞれで同じ者はほとんどないと言っていいくらいバラバラである。ただ、ぱっと見でノイエシルチスであるとわかる衣装であることは絶対なので、形そのものが違うとかストライプがないとかいった変更は認められない。

騎士服や主力武器であるガット・ブロウ以外の戦闘関連以外の装備に関して言えば一般兵士たちとあまり変わらない。それは騎士も兵も軍においては同じ人間だからで、騎士だと言って兵士たちより特別な装備を支給されているわけではない。

制服は用途に応じて数種類、制服、執務服、作業服などで、靴やベルトから一切の生活必需品、消耗品、さらには住居や食事なども支給対象である。

ただ、歩兵とジェットパイロットの装備が異なるのは当然なので、そういった違いはもちろんある。要は騎士だからと言ってその他装備が優遇されているわけではないということだ。

そして多くの国家では礼服や制服に関しては将校や下士官などとは支給ではなく自腹で制服をあつらえることも多い。

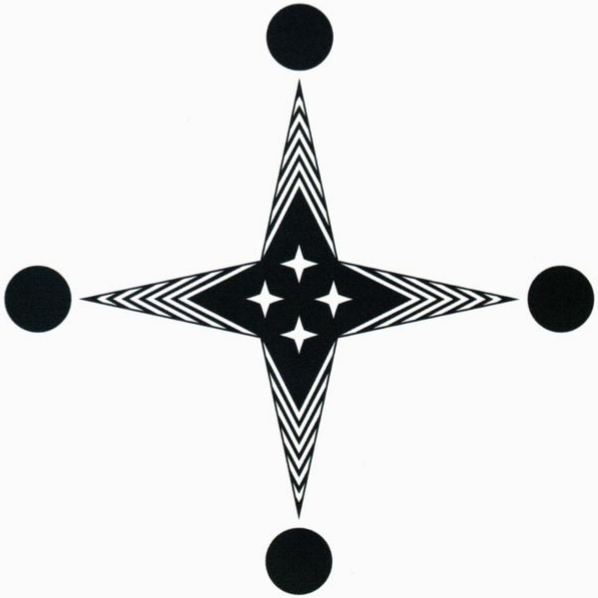
また戦場や作戦行動によって支給されるものは変わる。最前線で戦う精鋭部隊と後方で支援活動を行なう部隊とは装備は異なる。最前線部隊には最優先で火器や食料、消耗品が送られるが、後方部隊では弾薬、食料とも少ないことが多い。

これらは騎士においても同様で、フィルモアに関して言えば現在ナカラに駐屯している騎士たちには最高ランクの装備が与えられている。

GTMに関してもそうで、本国に残っているGTMホルダ31Aの中でも調子の良いものが選抜して送り込まれている。また戦闘において損傷の激しいホルダ31Aは本国に送り返され、代わりに新品か状態の良いホルダ31Aが送られてくる。つまりは本国に残されているノイエシルチスのメンバーは自分が使っていたホルダ31Aを取り上げられているものも多いということである。これは当然のことなので誰も文句は言わない。

戦車や戦闘機も同様である。

では、もうひとつの装備でもあり重要な要素、ファティマに関して言えばどうなのかと言うと、それはツラック隊のエピソードの中に出てくるので物語をお読みいただきたい。ナルミが整然と言い放つのだ。



フィルモア帝国・騎士儀仗礼服

このあでやかな衣装は「儀仗服」と呼ばれているもので基本的に女性のみの制服である。それも公務や警備などでごつい騎士が武装していたのではなごむ場所もなごまない。そういった場所ではこの女性たちがガードをしている。この儀仗騎士は全フィルモア女性騎士から持ち回りで任務に就く。若い女性の騎士が選ばれるが、ノイエシルチスから下位の一般帝国騎士まで騎士団のランクは問われない。外交や接待の場に出るため礼儀作法はきっちりたたき込まれている。12巻では慧茄のお供にふたり派遣されていた。
基本的にノイエシルチスの服と似ているが、「ナロー・ストライプ」と言われる細いストライプを主体に各所のリボンや2列のボタンなど華やかな意匠で優雅に仕立てられている。帯剣もしないのでベルトループなどもない。だが手に持っている樫の木の杖は騎士が持てばとても強力な武器である。木に式典用のクロームメッキが施されているので一見金属製にみえる。
帽子もフィルモアを代表するバルーンハットではなく、背の高い帽子である。膝から下は白いハイソックスで靴も太いベルトに装飾の付いたこれも大時代的な意匠である。

アラン・リー・ファウトゥ
Emperial Honor Guard Alan Lee Faugtoh

身長185cm

きれいなお嬢さんである。ただの儀仗兵である。…のに、名前がある！！なんでや？？
パートナーはクープ博士の「トォト」で、駆るＧＴＭは「ホルダ31Ｄ」である。駆逐「ＧＴＭユーレイ・オニビ」と呼ばれるＧＴＭである。判明しているのはこれだけである。え？ふざけるな？……。でもご安心を。彼女星団暦3030年の時点ではまだ子供…。とはいえ、アラン・リーは「パルスエット」のエピソードで登場してくるのだが……。すぐじゃん！

ノイエシルチス・黒グループ

ノイエシルチスの場合は制服はこれのみである。礼服でもあり、制服でもありＧＴＭスーツでもある。儀仗、礼服、通常制服、野戦服、ＧＴＭスーツなどＡＰ騎士団やミラージュ騎士団のようにたくさんの制服が制定されている騎士団もあるが、フィルモアではこれ１種のみである。質実剛健をモットーとする帝国にふさわしくもあり、このストライプスーツがフィルモアであり星団最強の軍事大国であるというトレードマークでもある。
制服とＧＴＭスーツを兼ねているが、特殊な装甲生地などは使われてはおらず、基本的にはシルクである。上質なフラノなど高級な生地はあるが、袖とパンツの柔らかな膨らみは上質感、軽快さ、などシルクが最適ということなのであろう。

先にも書いたが、ノイエシルチスの制服は皆騎士個人のオーダーである。基本的な意匠は変えられないが、袖の膨らみ方や長さなど騎士の好み、騎士の体格によるシルエットの出し方などによって変わる。オーダーは無制限にコストがかけられはするもののあくまで戦闘服でもあるので装飾的なものは最低限である。また、オーダーするテーラーは帝国指定や代々騎士服を作っているアトリエやメゾンに依頼される。このあたりは戦闘服のために一般的なアパレルメーカーでは無理である。

この黒グループの騎士はいつもの特徴的な袖と足が膨らんだバルーンスーツに式典などで付けるたすきを掛けている。以前にも書いたがこのたすきの色には家系であるとか爵位、受けた褒賞、勲章などを示すわかりやすい「略称」も兼ねている。
太古にはもう軍服のそこら中にこれでもかと勲章を付けた将軍がいたものだが、フィルモア帝国では受けた勲章の中でも最上位のものだけを表示したりシンプルなものである。パートナーのファティマもこのマスターと同じたすきをベルトに付ける場合もある。
この騎士の場合、たすきには３つのシェブロン（山形模様のこと）が付いているが、これは騎士にとってもっとも栄えある「ＧＴＭ撃破数」である。
この場合銀のシェブロンが３つなので３騎ものＧＴＭを撃破した人物ということである。ちなみに５騎になると金のシェブロンになる。金１つに銀２つなら７騎のＧＴＭ撃破数ということである。
またこの撃破数を示す「撃破章」は戦場では肩の帯剣止めや胸、上腕に付けたりしている騎士も多い。ＧＴＭ撃破章は国によって形は様々だが、自分の経歴と誇りのため付けている騎士はとても多い。その撃破章で最たるものは天位騎士が付けている翼のようなマークである。あれは非常に多くのＧＴＭを撃破したという証でもあり、またあのマークを付けている騎士はほぼ有名な天位持ちの騎士ばかりである。詳しくは「撃破章」のページを。

ノイエシルチス・赤グループ

おなじみ赤グループの騎士である。
フィルモア特有のバルーンハットをかぶっているが、一応これが正式とはいえ、かぶって登場してくるノイエ騎士はほとんどいない。これは最小限の礼装状態ということなのだろう。フルサイズのガット・ブロウを持っているが、内地や平時において実際に装備しているのは邪魔にならないガット・ブロウ・ヴィーニッヒ(短剣)であることがほとんどである。ただし、戦場やカステポーなど、騎士同士の接触が多い場所ではこのフルサイズのガット・ブロウを持つ騎士が多い。

男性騎士服限定であるが、ブーツの折り返しの飾りの色は3つのどのグループであっても赤である。伝統的なものだからであろう。この騎士は左肩にレザーの帯剣ベルトの上留めを付けている。ガット・ブロウは非常に重く、普通に腰にぶら下げて歩くとずり落ちたり何より安定しない。表には出ていないがこの制服の中にたすき掛けの帯剣ベルトがあり、そこと腰のサッシュベルトで固定している。右肩には留め具だけ見えているが、左右どちら側にでも吊せるよう留め具だけは両肩にある。だが、個人オーダーが主体のノイエシルチスではこの留め具も見えないようにしている騎士も多い。
金属リングのベルトもノイエシルチス男性騎士の定番だが、実際の帯剣ベルトは上着の下にあるのでただの飾りである。また膨らんだ肩の内側には反応式電磁装甲が内蔵されている。ブルーノのところで詳しい。

コート姿のノイエ騎士

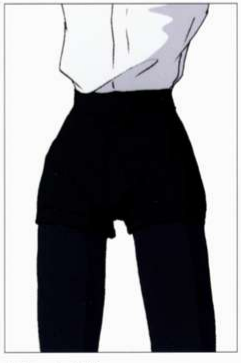
2話においてラルゴ・ケンタウリが着ていた外套である。ストライプの服が完全に隠れるくらい長い外套である。この辺の補助的な衣服は支給されたものを着ているものが多い。やはり北方の騎士団であるのか襟巻きが付いている。

ノイエシルチス・青グループ　女性制服

ノイエシルチスの女性騎士と言えばミニスカートにハイロングブーツである。ただ、スカート丈は決められているわけではなく、様々な長さがある。地上ではロングスカート姿の女性騎士も多いが、ＧＴＭ搭乗時にはミニであることが多い。広がったスカートが制御システムに干渉して気になる、という騎士も多いのだろう。ただ、イクなどは気にしないみたいで戦闘時もあのロングスカートである。こと戦闘に関してはどの国家も細かいところは各騎士の采配にまかせている。騎士によってはこのブーツじゃないと駄目だ、みたいなジンクスもあるだろうし、戦闘時に自分を高揚させる飾りやお守りを付けるのはどこの国家の騎士も同じである。
またたいていタイツをはいているが、スキニーズボンやただのボトムをはいている女性も多い。このボトムの場合にはミニスカートである必要もないので上着をワンピースタイプにしている騎士もいる。これだとショートコート丈くらいの上着になるので見た目も軽快である。

女性制服　後ろ

帯剣ベルトは後ろまで回っている。飾り的なものなのでベルトで軽く留められている。本当の帯剣ベルトは上着の下にある。またブーツには膝の後ろにスリットがあり、膝を曲げた時に厚い革が行動の邪魔にならないように考えられている。



スカートの中

タイツと同色のショートパンツをはいている。この辺は各自の好みで上衣と同じ白や、青など、形もいろいろなアンダーウェアが使われている。

ノイエシルチス　白グループ

魔導大戦で登場した白グループはナカカラ侵攻作戦に合わせて皇帝近衛騎士団として編成された。ナカカラに赴いた各グループはそれぞれの作戦戦域や戦況に合わせて配備され、各所で戦闘を行なっている。またナカカラの要請でナカカラ防衛のためにも戦力を振り分けたりしている。そのために皇帝のいる本陣を専門に護衛する常駐騎士団が必要となったためと思われる。
白グループはノイエシルチスの各メンバーから選ばれている。他の３グループの上位というわけではない。現在は黒グループリーダーのガラーであるが、大戦後半はナイアスである。
白グループと言うとおり、白のストライプなのだが、白地に白ではわからないので、元の僅かにベージュがかった白であったところは銀光沢のサテンシルクになっている。また膝も赤ではなく黄色でロングコートの仕立てとなっている。実戦部隊とは言えかなり白グループは皇帝付きの儀仗的な立ち回りであることがわかる。隊長のガラーやナイアスの上衣はストライプそのものが縫い合わせではなく帯のように垂れ下がっている。

ノイエシルチス・萌葱グループ
女性騎士

この若草色のストライプの騎士は元老院に属する帝国騎士団もえぎグループの人物である。
萌葱（もえぎ）グループとは「教導騎士団」の別名でもあり、この教導騎士団は実戦熟練者、エース等から編成され、軍の再編成時、または訓練時においてその名のとおり全フィルモア騎士たちに実戦訓練などを施す。
再編成時の騎士の育成や、新型の装備、ＧＴＭのバージョンアップ時などに最も早く新装備を受け取り、新装備に慣れておくという役目も持っている。いわば騎士のプロの中のプロ的な集団である。とはいえ最精鋭部隊とかエース部隊というわけでもない。虎の子の騎士団というわけでもなく、基本的に３グループと同格である。いざというときに元老院が独自に動かせる権限を持っている。
ナイアスやケーニヒなど扱いにくい騎士たちが混在しているのも教導騎士団ならではだろう。

この女性騎士の制服は袖が短く、スカート丈が長い。このように各騎士は自分の体型や好みに合わせて制服を作っているのだ。

肩の反応式電磁防御システム

膨らんだノイエシルチスの肩の内側には反応式防御システムが入っている。これはＡＰ騎士団のエポーレットと同じで、騎士の防御システムである。ＧＴＭにはもっと大がかりな電磁防御システムが装備されているが、映画「花の詩女」においてＧＴＭカイゼリンが起動した時正面に３カ所貼られていたのがそうである。軍用セイラーから放たれたビームを剣ではじき返す以外にもこの防護システムのシールドがビームを受け止めていたはずである。ブルーノが肩に付けているこのシステムそのものはファティマのアシリアインジェクターと同じくとても軽い。これらは１対１くらいの戦闘ではほとんど意味をなさないが、乱戦や、多くの敵に囲まれた場合に作動する。反応式なのでエネルギーの塊がこのシールドの境界にふれた瞬間反応し、敵弾のエネルギーを無力化する。また実弾にも対応し、弾丸が範囲内に接触した瞬間、放電反応で弾丸などは分解されるか溶かされてしまう。とはいえ、このシステムが作動するのはまれで、基本的には騎士の回避行動で充分なので、保険的な装備である。尚、ＧＴＭはこういった光線砲の攻撃や射撃に回避行動はとらない。装甲で充分防御できるし、ＧＴＭに乗る騎士にとって回避行動は無駄な動きで、敵ＧＴＭを捕捉し続ける方が遙かに重要だからである。このあたりが生身の騎士と兵器のＧＴＭの戦い方の差である。肩から斜めにかけているのが帯剣ベルトで、重いガット・ブロウをぶら下げるためにとても幅広く、太いサッシュベルトに連結している。いろいろな形の穴が空いているが、これは付随する補助装甲やガット・ブロウを固定するための補助具の取り付け穴である。

上着を取ったノイエ女性騎士

上着と肩にかかる防御システム、帯剣ベルトまで外した騎士である。かなりラフな出で立ちでブーツはズリ下げられているが、膝のところに防護パッドが付いているのがわかる。これも各騎士によって付けていたりいなかったりする。

フィルモア騎士・隊内作業服

隊内でのトレーニングや各種作業時に使われる支給服である。見た目まんま、かつてはトレパン、トレシャツ、ちょっと前までは人間の尊厳をなくす服飾「じゃーじ」とか呼ばれていた奴である。それはさておき、現在ではトレーナージャケットとかパーカーとか呼ばれているものでもある。いろいろな種類があるが一般的に売られているものと同じだ。靴が軍隊ブーツなのはスポーツとかではないので物騒なものが多く散らばっている場所での事故に備えてである。このあたりは厳格に規定されている。

通常フィルモア騎士が一般人に姿を見せる場合や各媒体などへの露出は厳格で身だしなみをきちんとするということがあるが、現在のナカカラ駐屯のように戦場での取材やインタビューなどはこういったラフな姿でもおとがめはない。逆に騎士たちの戦場での姿を伝えるために規制はされていない。通常は一般メディアへの露出が御法度なファティマたちの姿も検閲後、公開することも認められている。

ドッグ・タグ～認識票

左の作業着の騎士が首に提げているのがこの認識票である。騎士だけでなくすべての将兵が持つもので、自分の軍での認識コード、名前、さらには給与支払い状況などの個別データも入っている。ジョーカーにおいてはこれに生命モニターもついており、兵の身体情報、体温低下や鼓動停止などの情報を送り続けるが、戦場では妨害システムも多く情報を送信できない場合がほとんどである。ある程度の力でロックが外れるようになっている。

騎士・通常勤務服

フィルモア騎士の勤務服でＡＰ騎士団同様戦闘時、作戦時以外の軍服である。ニオは白黒ストライプの勤務服もあるが、あれはどちらかというと改まった場で使用するもので、一般事務や軍隊内ではこちらである。エプロン型のベストに普通のスカートである。パフスリーブのブラウスはニオの好みでこのあたりは自由である。

腰に下げているのはノイエシルチスの使用するガット・ブロウ・ヴィーニッヒである。

アルカナナイト　ニオ・ハスラー将軍

軍階級としては少将。だが、アルカナナイトということは軍階級、騎士ランク関係なしの指揮権を持っているということである。

ニオは見た目通りの童顔である。慧茄も認める強力な騎士であるのだが、アルカナナイトとして帝国に登壇したとき、その幼い風貌に周囲はかなり戸惑った。今ではそう思う者は皆無である。騎士たるもの誰もが自分は強いということを誇示してなんぼでもある。それをあえて弱々しい少女的な風貌で通すニオはやはり別格の騎士であるという証かもしれない。

「え？ちちち、違うんです！わわ、わたし、ほら額の張り出しが凄くて眉が目のくぼみに落ち込む、ログナーさんと同じ眼窩じゃないですか。で、で、ですからこれで髪をおろしたりするとナイアスより怖い顔になっちゃうんです。そんな眉なしの怖い顔陛下にお見せするわけにはいきませんから、ちち、ちょっとでも可愛く見えるように…お下げもこのままで…」

…全然別の理由でございました…。ナイアスは呼び捨てみたいです。どう答えていいものやら……。

3王家の護衛騎士団

フィルモア帝国を構成する3大王家には国家騎士団とはまた別にそれぞれ固有の騎士団がある。これらは古の時代より続く由緒ある騎士団である。役割としてはどれも各王家の近辺護衛が主任務だが、国家的な戦争となると彼らも出陣する。騎士団の格としてはノイエシルチスより下、帝国騎士団よりは上と言ったところで、3王家の騎士団はノイエシルチスのGTMである「ホルダ31A・ユーレイ」を使用している。
ただ3王家の騎士団は大規模ではなく、数名から10名に満たない騎士で構成される。これも各王家の筆頭クラスの騎士はすべてノイエシルチスのメンバーでもあり、またノイエのメンバーが王家護衛騎士団員を兼任していることも多い。儀仗的な役割も強く、皆若い騎士ばかりである。経験を積むとノイエシルチスや国家騎士団へと転属していく。これら3王家騎士団はすべて13巻にて登場している。

ブラウ・フィルモア王家
双頭竜騎士団

かつての「ドナウ帝国」のドナウ皇帝騎士団とほとんど同じ制服である。儀仗や式典の時には花びらのような派手なマントを羽織っているが、普段は軽快なこのショートコートである。女性は下にショートパンツをはいている。大きな帽子のつばはゴーグルのように前方に下がっている。これはサングラスで顔は隠れていても前は見えている。武装はノイエシルチスに準じ、持っている剣も同じものである。

レーダー王家　青百合騎士団

濃いブルーと黒の制服はレーダー王家の象徴である。各所にレーダー王家の紋であるウォータークラウンが施され、詰め襟や首元はフィルモアファティマのデカダンスーツにも多く見られる意匠である。この3王家だけでなくフィルモア騎士たちがかぶる帽子にはほとんど内側に詰め物があったり、ベルトかワイヤーで形の補正が簡単にできるようになっている。また、正式には帽子のアミダ被りは違反なのだが、太古より歴戦の指揮官たちはわざと帽子の形を崩したり、帽子を斜めにアミダ被りするのが通例なので、彼らもそれにならってなのかほとんどの騎士は斜めにかぶっている。というか、皇帝陛下もアミダ被りなのだから当然なのかもしれない。

バルバロッサ王家
黒鷲調停騎士団

バルバロッサ王家の茶と黒の制服である。帽子の後ろは長いマント状で、ドナウ帝国時代の名残であると言われている。3王家はそれぞれどこかにかつての国家の名残を残した意匠が取り入れられている。また3王家は若い騎士たち以外にも引退近い熟練騎士も多くいる。これは王家の警護であることを考えると納得もできるが、3王家として最精鋭騎士はすべてノイエシルチスに差し出しているということでもあるのだ。

フィルモア帝国　見習い騎士　女子服

映画「花の詩女」にも見習い騎士が登場しているが現在もまったく変わらず、筋の良さそうな少年騎士は所属する学校の騎士科より実戦訓練として戦場についていく。なので任期は数週間から長くても数カ月とかの限定となる。学業もあるからなのだ。とはいえ、まだ見習いなので実戦には出されることはなく、もっぱら正規の騎士たちのサポートと戦場の経験を積ませるためである。
服はほぼノイエシルチスに準じ、男の子は半ズボンにタイツ。女の子はミニのワンピースである。男女ともに靴はショートブーツで、正規のノイエシルチスの白いロングブーツとは区別されているようだ。少年少女とはいってもすでに騎士なのでガット・ブロウは装備している。

少年兵

フィルモアにかかわらず中学生くらいより軍務の補助を行なう少年少女の兵たちがいる。かれらは軍所属の中学校で、のちの士官候補生となるための学生である。一般的な兵士は成人してからの志願または徴兵であるから、かなり特別な存在である。もっと若い子たちは半ズボン姿である。 その彼らも「花の詩女」に登場していた。彼ら少年少女の兵がいる場合、緊急時には何より先に守られるのは当然のことだし、そのリスクを承知で各国家は彼らを送り出している。

ガット・ブロウ・ヴィーニッヒ

式典等では通常の長剣ガット・ブロウを持っているが、実戦や野戦地では伸縮の利くヴィーニッヒを持つ騎士も多い。また公の場においても略装としてこちらの短剣タイプを持つ騎士もいるが、これはフィルモアだけでなくすべての騎士団がそうである。

フィルモア帝国のカーテンの奥、見たものすらいないと言われる円卓の騎士、ナイト・オブ・ジャッジメント。そのすべては一般人はおろか、帝国貴族、元老院ですら知らされていない。皇帝選抜人と言われるカーテンの奥に鎮座する者たち。つまりは皇帝を決定する機関で、個別の騎士を指す言葉ではないということである。もちろん越権機関であり、皇帝の選抜だけでなく帝国の国法、騎士法、超法規措置においても決定の難しい採決をこの数名の騎士たちが行なうということでも知られている。いったい誰なのか？　どういった方法で選ばれるのかすら明らかにされていない。彼らの審議したその裁定も決定も一般帝国民や貴族たちにすら知らせる必要はないということである。

ガット・ブロウではなく、鞘のある太古の剣を持ち、そのいで立ちも古来の金属製重甲冑である。

「円卓会議」の裁定に対して絶対的な力を持ち、その裁定には皇帝すら逆らえない。彼らの胸元に付く紋章はフィルモアの国章でもなく、古のダス・ラントの紋章でもない。ＡＤ世紀の超帝國アッセルムラトワ皇家の家紋である。

フィルモア帝国、最強にして帝国を象徴する騎士。その長い歴史の中でもただひとりしか存在していないと言われる。ただ、現時点ではまだ存在していない。フィルモア帝国、皇帝の象徴であるゴルゲットと古の「ラント・フィルモア」の王冠を付け、フィルモア帝国初代皇帝サイレンのガット・ブロウを持つフィルモア帝国すべての騎士の頂点である。もちろんアルカナ・ナイトもノイエシルチスも元老騎士団もあらゆるすべてのフィルモア帝国の騎士団と騎士がこの人物の配下となる。

このエンペラーズ・ハイランダーの総指揮官としての初陣はノイエシルチス全軍を率いての惑星カーマントーの独立蜂起介入戦で「詩女マグダルを救出せよ」とのフィルモア皇帝の勅命を受けての出陣であった。マグダルを助けるためにＧＴＭメロウラと召喚されたすべてのセントリーたちが共に闘うその戦いは６話「時の詩女」のエンディングでもある。

エース騎士

「ツラック隊」のエピソードにおいて「エース」という単語と共にGTMの撃破がいかに難しいものか、そしてエースとなることがいかに難しいのかという会話が頻繁に登場する。

今までのエピソードは剣聖をはじめ天位騎士たちがとんでもない強さで敵を撃破していくシーンも多かったと思う。アルルを追うセイレイのエピソードで天照家のネイパーが「交戦権」を説明するシーンがあったが、これも乱戦になれば手当たり次第となる。

そもそもエースという言葉は「撃墜王」であったり「戦車撃破」からきているものだ。このエースと呼ばれるためにはどれくらいの敵の撃破が必要だったのかは各国それぞれだが、たいていの場合戦闘機パイロットなら10機の撃墜でエースと呼ばれるようだ。

ただし、このエースという言葉はドイツなどでは厳格に規定され、戦闘機の機銃と連動して装備されているカメラが、パイロットが機銃のボタンを押すと同時に回り、空中戦を映像に残していた。帰還した戦闘機は着陸すると同時に真っ先にこのカメラのフィルムを取り出され、現像されて敵機を撃墜したのかどうか確認される。当時はドイツ空軍のみがこのガンカメラによる撃墜確認をやっていたので大戦中の他国の撃墜数というのはドイツほど正確ではないと言われている。カメラとレンズの光学大国であったドイツならではである。

現在もジェット戦闘機にはガンカメラ(ビデオ)がミサイルや機銃と連動して空中戦をモニターしている。そしてエースという言葉と撃墜数にはもうひとつ、意味がある。それは「たとえ敵機を撃墜しても味方機、特に僚機が撃墜されれば自分の撃墜数はカウントされない」という決まりがあった。

いくら自分が敵機を落としてもペアや編隊を組む味方機が落とされればその時の撃墜は記録に残されないというものだ。「友軍機を守れなかった」ということは不名誉なことなのだ。つまり、エースとなるには自分の部下や僚機を守りつつ敵機を撃墜するという意味も含んでいるのだ。今はもう第二次世界大戦のような派手な撃墜は考えられない時代になり、10機どころか生涯1機も撃墜できないのが普通となっている。

さて、「ファイブスター物語」でのエースという言葉はこのドイツの戦闘機パイロットと同様で5騎のGTMを破壊している。ということである。

GTM破壊とは敵GTMを完全に破壊することで、中破や小破など敵のGTMがその戦闘ではもう戦力にならず戦闘続行が不可能であったとしてもカウントはされない。

GTMを大地にたたきつけ、騎士やファティマが脱出、もしくは爆発などによる完全破壊でのみ撃破数がカウントされる。

物語に登場してきた天位や剣聖などは実に簡単に撃破しているが、一般の騎士ではこうはいかない。

また僚騎が破壊されれば同じく撃破数はカウントされない。

たいていの場合GTMはロッテと呼ばれる2騎のペア、また3騎で小隊を組むことがほとんどなので、エースや小隊長はこの僚騎を破壊されず戦わなくてはならない。

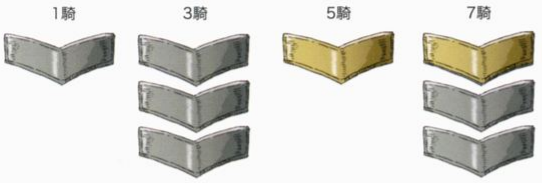
しかし、どの国も士気高揚のためにとにかく撃破していればスコアにカウントするという事が普通なので、一概に味方が撃破されたからカウントなしとはならない。

また撃破したかどうかのスコアの確認はGTMや戦場をモニターする多くのカメラの映像で確定されるが、ファティマが生きている場合はファティマの証言が最も正確とされる。細かい規定はあるようだが、ともかく戦争という状況になれば大破ではなくても撃破、友軍にどれほど損失があろうが撃破としてカウントされ騎士団と軍の戦意高揚に役立っている。勲章や撃破章がじゃんじゃん与えられ、景気はいい。

現在ミノグシアでの戦いのトップエースはもちろんクリスティン・Vで「ツラック隊」の時点で12騎もの敵GTMを破壊している。これほどのスーパーエースが登場するのは星団でも久々である。すでに星団中の騎士たちからはクリスティン・Vとその彼女の駆るGTMメロウラは警戒され恐れられている。また同時に「小天位」の称号が贈られる予定である。「強天位」のリリと「小天位」のクリス2人を揃えるフィルモア帝国の凄さでもある。

山形の撃破章(シェブロンマーク)

その形から山形と呼ばれる。2等兵などの階級章にもよく使われるが、撃破章の場合は5騎撃破で金色となる。

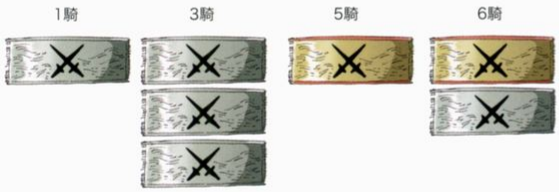


星形の撃破章(スター)

これも多く見られる撃破数を示すマークで、勝ち星、負け星など古来からよく使われる。これも多くの国家で使われ銀色の星1個が1騎撃破。金色の星1個が5騎撃破ということである。金星は銀より大きく目立たせる国家が多い。

ワッペン型の撃破章(バッチェン)

パッテン印の見た目もわかりやすい撃破章。5騎撃破でベースが金のレースになる。このワッペン型は上腕に縫い付けるのが基本である。



リッター・トラッグレイヒャー

おなじみナイトマスターの正式な名称である。GTM撃破数だけではなく、その戦い方や騎士としての名声など騎士の最高峰とも言えるマークで、「天位」持ちの騎士が同時にこのマークを付けているのは当然である。

Cardinals

Dharmas Kubalkan

クバルカン法国騎士団 “カーディナルス”

星団第2位の軍事大国として知られるクバルカン法国。その筆頭騎士団が「カーディナルス」である。

カーディナルスは2つの騎士団から構成され、男騎士ばかりの「ルーン騎士団」、女性騎士だけの「ローテ騎士団」から成る。この2つの騎士団はクバルカン4000人以上の騎士たちの頂点であり、クバルカン法国の象徴である。正真正銘のスーパーエリート騎士団で、その名と強さは星団中に知れ渡っている。

「法国」と呼ばれるとおり、クバルカンは法の名のもとに建立された立法国家で騎士団国家ある。元は「ラント・フィルモア」から分離独立した「騎士団を中心とする政治形態」であることは「デザインズ3」にも書いた。

その騎士たちは「徳」によって他人を尊び、気遣い、正々堂々と振る舞う。その威厳のある騎士たちに星団中の騎士たちは一歩も二歩も身を退くとまで言われているのである。

「ラント・フィルモア」の騎士団の中心人物であった「サヤステ家」がクバルカン騎士団のすべての礎石となっている。超帝國純血の騎士以外からの「純血の血の騎士ではない剣聖」である。剣聖家サヤステはフィルモア帝国統合時のサイレン皇帝の側近としても知られ、それもクバルカン騎士たちの誇りである。

彼らの使用するGTMは筆頭GTMの「破烈の人形」こと「ダルマス」、そして「白の婦人」「赤の婦人」と呼ばれる星団3大GTM「ザ・ルッセンフリード」である。

またそのカスタムGTMとも言える「マッハ・シャルトマ」は歴代のローテ騎士団長の乗騎である。

これらのクバルカンを代表する主力GTMはすべて星団暦初頭のGTMガーランド、ストーイ・ワーナー博士の手になるもので、すべてがティーガー・フレームというライオン・フレームに匹敵する巨大で堅牢かつ変形機能を持つ特殊なフレームであると言われている。

だが、その基本となっているティーガー・フレームの破烈の人形以下、非公開な部分が多いためにフィルモアのユーレイやミノグシアのバーガ・ハリほど頻繁に歴史には登場してこない。破烈の人形の本来の名である「マーク3・リッタージェット」やマッハシャルトマの「マーク4・リッタージェット」は一般的には使われていないし、知る者も少ない。

またGTMルッセンフリードが白の婦人、赤の婦人という形容詞を含んだとても変わった呼び方で呼ばれていることも珍しいが、この名は妖精の名でフィルモアのGTMと同じ命名方法である。これもかつてのダス・ラント時代の名残である。

徳が騎士の名誉として成り立つクバルカン法国だが、決して平和主義の国家ではないということだ。クバルカン法国はれっきとした星団第2位の軍事国家である。しかし大国主義のごとく国家独自に頻繁に戦乱に介入したり他国への干渉は皆無と言って良いほどない。それがクバルカンは平和主義という見方をされてもいるのだが、国法を守り遵守するということに対して一切の躊躇はしない。星団法や星団からの要請があれば、また国家として必要となればいきなりルーン騎士団が戦場を蹂躙するということもあるのだ。

このあたりは軍事支配のフィルモアやミノグシア、A.K.D、そして絶えず軍事力でジュノー星全体を保守という名目で影響下に置いているコーラス王家などと異なっているところである。

GTM ザ・ダルマス～S.S.I.クバルカン“破烈の人形”

GTM、ゴティックメード。パンツァー・カンプフ・ロボーターというのがこの兵器の兵器名であるが、一般的には「ゴティックメード」と呼称されているのはご存じのとおり。だが、クバルカンでは一様に「ロボーター」と呼ぶ風習があり、筆頭ファティマである「静」はロボーター・プーラー（人形使い）と尊敬を込めて呼ばれている。

「ダルマス」は「破烈の人形」という通り名であまりに有名なGTMである。現在は枢機卿騎士のミューズとファティマ静が操る。

星団暦初頭から存在するGTMで、変形機能を持ち、ロボット形態から一瞬で飛行形態に変形する。飛行形態時の巨大な機首はモーフィングして2つに分かれ頭部両サイドにコンパクトに収まっている。他のGTMよりも一回り大きく、その出力は3大GTMを軽く凌駕する。設計が古く、2500年代のファティマ搭載型にGTMが移行した折、このダルマスはファティマ搭載型には改良されず、かなり後になってドクター・バランシェの手にかかるまでファティマ搭載型ではなかった。それは「静」とサヤステ卿の乗騎となった時にファティマ搭載型となったことがわかっている。この時に初代黒騎士を倒しているのだ。また、2989年頃、筆頭騎士ミューズと静がメヨーヨのGTM「ホウライ」を撃破した折、GTMセイラーから飛行形態ではない状態から一気にこの人型戦闘形態に変形しているという噂もあり、このGTMには謎が多い。変形パターンが数種類あるのでは？？とも言われているが、ともかく情報の少ないGTMで正確な情報を知るのは設計者であるストーイ博士とファティマ静だけである。複数の変形状態を持つのではと言われるのは後にAKDの変形GTM「スカイアギト」と「ウーラソニック」が数種類の変形機能を持っているためで、設計者が同じストーイ博士であることからそう予想されている。

以前発表されたものと違って、こちらはちゃんと「静」がいる。

ルーン騎士団制服・GTMスーツ

ルーン騎士団の正装である。そしてGTM搭乗スーツでもある。「ルーン騎士団」は法王騎士団とも呼ばれ、男性だけで構成される騎士団である。そのGTMスーツはミノグシアやフィルモアと比べると重装スーツの装甲部の多さが目を引く。肩や腕、腰、脚部の装飾を兼ねた装甲部は「デザインズ1」の戦闘機パイロットスーツとおなじく高圧ジェルが内蔵され、装甲と耐衝撃を兼ねている。
騎士には珍しいヘルメット装備で、後ろの飾り房は形が崩れないようにインナーが入っている。またこのインナーは肩の反り返った飾りにも入っており、シルエットを崩さないよう配慮されている。そこかしこにファティマ静と同じ意匠が入っているが、デザイン的にはこちらの方が先になる。静のデザインがこちらを元にしているのだ。
1980年末期の「キャラクターズ4」でデザインを公開してからようやく本編と完全な形でのデザイン画の登場である。

アビア・ラングレー大佐
Colonel Abia Rangler

身長190cm　体重?kg

ローテ騎士団制服・GTMスーツ

ルーン騎士団と対になり、こちらは女性ばかりで構成される筆頭騎士団ローテの制服。上着がワンピースとなり、ルーンの白に対して真紅のスーツが目立つ。ルーンと比べると戦闘的な装甲や鎧を意図的に隠しているのがわかる。男性同様フードを被りケープを羽織っているが隠れている肩の装甲などは同じである。
５つの星をモチーフとしたクバルカンのマークはそれぞれの丸に色がついているのだが、ＧＴＭや各騎士につくのは略章のロービジグレーがデフォルトである。２つの騎士団の指揮官でもあるミューズなどはさすがに細かい色分けがしてある。
非常に重いガット・ブロウをまるでバットか何かのように軽く持っているのが恐ろしい。

カーディナルス筆頭騎士
イゾルデ・サヤステ
Isolde Sajaste Cardinal Knight

身長195cm

物語にもすでに登場しているイゾルデはサヤステ家の現当主。サヤステの名を持つとおり剣聖サヤステの系譜である。
その彼女の扱いもクバルカンでは特別なもので、ルーン騎士団とローテ騎士団を合わせたカーディナルスの筆頭騎士という立場である。だが騎士団長としての権限は持っておらず、基本的には法王直下の騎士である。一騎当千の騎士は騎士団長など指揮官に収まると戦術的な運用が難しく、独立部隊的な配属をされる。作戦によってはイゾルデはルーンまたはローテから任意の騎士を選抜し、自らの部隊として運用する。そういったフレキシブルな戦い方が騎士イコール「個で大戦力を持つもの」としての定石なのである。
これはフードを取った状態で、女性のローテ騎士団もフードの内側に小型のヘルメットをかぶっている。バイザーは可動式。この上にフードを被り帽子を被っている。

こちらは帽子を取った状態。
ルーンもローテもこのフードを被っただけの姿でいる者も多い。中世の鎖帷子のフードを彷彿とさせる。男性とちょっと形が違う。これは男性がこのフードの上にヘルメットを被るのに対して、女性はフードの下にヘルメットを被っているからである。

くつろぐルーン騎士

肩や腕の装甲を外し身軽な姿のルーン騎士。GTMに乗る時は装甲パーツは外している。たいていの場合ルーン騎士はこちらの軽装でいることが多い。大きな襟がクバルカン騎士であることを示している。腰の後ろに見えている出っ張りはガット・ブロウのホルダーである。袖が短いのはカフス部分と腕装甲が一体化しているためである。ミューズなどはシャツも着けず腕がむき出しの上から腕装甲を着けている。
５つ星はクバルカンの国家マーク、胸の円十字はルーンとローテ騎士団のマークである。このマークもかつてのダス・ラントの意匠からきている。フィルモアの名残である。

GTMカイゼリン

トリハロンの前に出ている黄色いものがターゲット・マーカーである。本人には２つのマーカーはひとつに見えるが他者から見るともちろん２つに見える。子供がやるように両眼を同時に内側に寄せるとマーカーも重なっていく。またマーカーは表示だけでなくアクティブなので、照準が合えば色が黄色から赤になる。攻撃状態以外は緑色で表示されている。

GTMホルダ13ライルンレー

ドナウ騎士のコクピット。ＧＴＭのコクピットはこのように３６０度上下左右どこでも見ることが可能だ。そのためターゲットを戦車や戦闘機のようにいちいち機体や車体を目標に合わせていたのでは大変なことになる。そのためこのように空中に浮き、騎士のターゲットが体感的にわかるように投影マーカーとなったのだ。後方や横に出ている赤いマーカーはＧＴＭの各ツインスイング負荷状態である。車で言えばタコメーターに相当するものだ。

ターゲット・マーカー

映画「花の詩女」より登場している投影式データサイトスコープのこと。
映画ではトリハロンやドナウ騎士がＧＴＭを起動すると同時に眼球の前にこの２つのマーカーが点灯した。これはコクピットにある騎士の目の動きを絶えず追うセンサーが眼球の位置、その絞りと焦点を計算しその騎士がモニターのどこを見ているのかをリアルタイムで表示する。そしてそのマーカーにＨＵＤのような照準器のターゲット情報やあらゆる視覚情報を送り続ける。これはコクピットが３６０度視界であることに起因し、騎士がどの方向を向いていても絶えず照準情報を与え続けることが可能なシステムである。アイグラスやヘルメットのバイザーに投影するよりもバイザーと肉眼の焦点のずれがなく、なによりヘルメットを被る閉塞感と耳や視界がヘルメットによって制限されてしまうことがなく、ジョーカー星団のあらゆる兵器に標準装備されている。
また、付加的な機能で、センサーが目の動きと何を見ているのかを追従するということはセンサーの連動カメラが対象を写しているということで、その人物の見ているものを他者に送れるということでもある。13巻冒頭でファティマ・ウークーツがシュマイスに「映像を送ります」と言ったのはウークーツが見ているそのままのものを騎士のＦＤ（ファンクションデバイス）に送ったということである。
ファティマにはアシリアのヘッドキャパシタにこれが内蔵されている。

ターゲット・マーカー

マーカーの色は緑なので戦闘中ではない。手に持っているＦＤのカメラがオスカーの目の動きをトレースしターゲット・マーカーを表示している。

フード

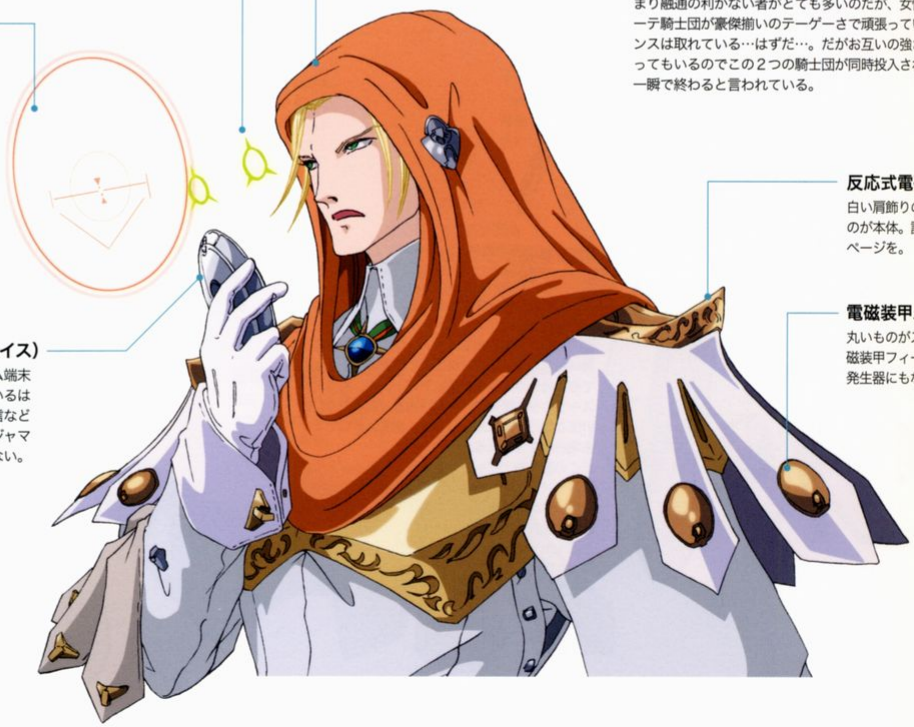
男女ともに被っているフードにはヘッドフォンが内蔵され、通信システムなどひとおりのものが揃っている。もちろんＧＴＭに搭乗する場合は邪魔なのでフードは外してしまうか首まで降ろしている。

投影モニター

目標の距離などを表示している。他にも様々なものを投影する。

FD（ファンクションデバイス）

騎士が携帯する全情報システム端末で物語中にも頻繁に登場しているはずだ。通信からデータの送受信など様々な機能を持つが戦場ではジャマーのためにほとんど使用できない。



反応式電磁装甲

白い肩飾りの下に見えるのが本体。詳しくは別のページを。

電磁装甲スキャナ

丸いものがスキャナで電磁装甲フィールドを張る発生器にもなっている。

ルーン騎士団長レイオット・オスカー卿

Sir.Reuotto Oscer RUNE Kamp Leader

身長198cm　体重105kg

ルーン騎士団長・オスカー卿である。物語にはそのうち登場する。ルーン騎士らしいハンサムな男だが、やはり上官であるミューズと同じく頭は固い。ルーン騎士は徳を重視するあまり融通の利かない者がとても多いのだが、女性ばかりのローテ騎士団が豪傑揃いのテーゲーさで頑張っているのでバランスは取れている…はずだ…。だがお互いの強さを最もわかってもいるのでこの２つの騎士団が同時投入されると戦闘は一瞬で終わると言われている。

軽装のローテ騎士

男性のルーン同様ＧＴＭに搭乗する場合、ここまで軽装になることが多い。また戦場ではたいていこの格好で歩き回っている。
外地や戦場では各所の装甲パーツは部分的に着けたり着けなかったり気分で装備しているので、意外とメンバー全員同じであることは少ない。フードをいつも被っている者もいれば大きなケープだけをまとっている者もいる。
肩や胸、腰に付くたくさんの金属部は装甲パーツの取り付け金具である。ローテ騎士は見てわかるとおりタイツなどは履かず、素足が基本のようである。赤いスカートと合わせるためなのか、彼女らの気質なのかは不明。

袖のあるブラウスを着込んだローテ騎士

腰の装甲取り付け金具のところにガット・ブロウのホルダーを付けてガット・ブロウを横に持ってきている。武器であるガット・ブロウを下げる位置はクバルカンだけでなくどこの国の騎士も様々で各人自分の好みの位置に下げている。もちろんスーツの中には帯剣ベルトがある。右腰、左腰、腰の後ろなど帯剣ベルトのセット位置によって下げる場所は変えられる。
どこの国の騎士団もガット・ブロウを下げる位置はバラバラというのはそれぞれが戦い方や得意な間合いや構えがあるためである。ただ式典などでは全員左腰に下げている。
クバルカンの正式ガット・ブロウの柄は金属ではなく木製である。このガット・ブロウはルーン、ローテ騎士以外にも普通のクバルカン騎士も装備している。

各所の装甲ガード

腕、腰、脚に装着される装甲パーツ。飾り的な意味合いが強く内部は緩衝材程度のジェルが入っているだけだ。
腕部分のみカフス部も一体化している。

カフス

袖には羽根状の装甲パーツを固定するボタンが付き、ひらひら動くのが邪魔な時は固定できる。

クバルカン黄金騎士十字章

カーディナルスとしてルーン、ローテに所属する騎士はたいていこの十字章を持っている。クバルカン騎士としての最高栄誉でもあるこの勲章はその働き、ＧＴＭ撃破数などエースにふさわしい騎士に与えられる。
つまり、ルーン、ローテのカーディナルス騎士はすべてエース騎士であるということでもある。派手さを嫌い、またローテの豪傑女性騎士たちはめんどくさいなどの理由で着けていないものも多いが、この勲章が与えられるほどの騎士は多くはない。これはつまり、ルーン騎士、ローテ騎士、そしてＧＴＭルッセンフリードの数は多くないということの証明でもあるというのが他国の見解である。カーディナルスの正確なメンバー数は公開されていないのである。

防御システム・反応式電磁装甲

丸いものがスキャナで電磁装甲フィールドを張る発生器にもなっている。戦闘中この発生器は絶えず微弱な電磁フィールドを張っており、ビーム攻撃や実弾などを無力化したり弾き返したりする。ただ、実際には騎士自体が避けたりガット・ブロウで受けてしまうので保険程度のものである。

肩飾り・エポーレット

肩から垂れ下がる羽根状の大きな肩飾りはファティマたちも付けている。革のカバーが掛けられているが中には反り返る芯材があり、柔らかいが風でなびくようなものではない。

電磁装甲スキャナ

電磁フィールド発生器。微弱なフィールドを発生し、範囲内に入る高エネルギー、高速物体を感知するとフィールドを張る。

エポーレット・ストッパー

内側の電磁装甲本体と接合する。電磁装甲とこのエポーレットを合わせてもそれほど重くはない。

前方スキャナ

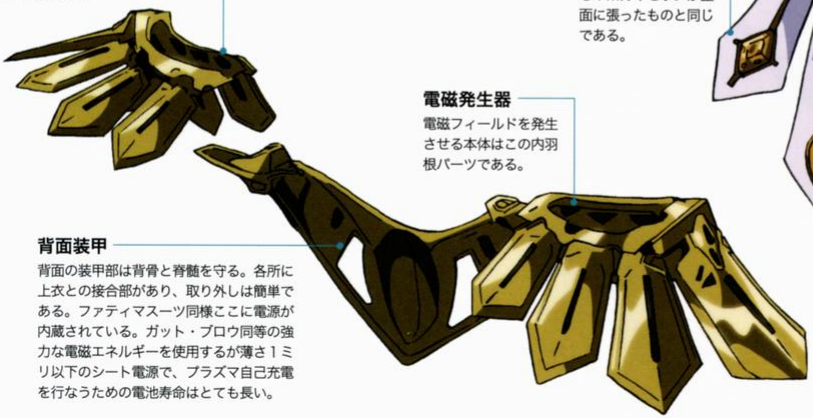
主に騎士の前方を監視するフィールド発生器。ＧＴＭカイゼリンが正面に張ったものと同じである。

内羽根

上下左右に動く上の羽根の間から見えるのがこの内羽根。当然この内羽根もツインスイング可動である。

電磁発生器

電磁フィールドを発生させる本体はこの内羽根パーツである。



背面装甲

背面の装甲部は背骨と脊髄を守る。各所に上衣との接合部があり、取り外しは簡単である。ファティマスーツ同様ここに電源が内蔵されている。ガット・ブロウ同等の強力な電磁エネルギーを使用するが薄さ１ミリ以下のシート電源で、プラズマ自己充電を行なうための電池寿命はとても長い。

ノンナ・ストラウス神官長
Nonna Straus Over Apostle

身長208cm

「マーシー・ノンナ」ことローテ騎士団、騎士団長のノンナである。
また、クバルカン法国の筆頭神官で、ミューズと立場的には同等である。ルーン、ローテ両騎士団の指揮権を持っているが、ミューズの命令の方が強い。
ただ、どう見てもノンナの方がミューズよりも偉く見えるのは致し方がない。ストラウス家はクバルカンを代表する名家で、ミューズはこの家の養子として育てられているから幼い頃より頭が上がらないのだ。
「デザインズ3」にてローブ姿のノンナが掲載されたが、あれが神官の法衣である。こちらはＧＴＭ搭乗時の姿。ＧＴＭ戦闘時には肩と腰などの防御装甲や装飾は装備しないが、他のローテ騎士団員とは異なるカスタムスーツである。このあたりはミューズも同じだし、筆頭騎士であるルーン・リッターのイゾルデも同様のカスタムスーツである。
手にしているガット・ブロウは特殊なもので一般のクバルカン騎士のものや他国のガット・ブロウと違いサーベルタイプの細身のガット・ブロウである。刀身にある十字の造りは装飾的な意味合いが強い。厳格なクバルカンだが、正式装備ではないガット・ブロウの保有者が多く、イゾルデのラングンやミューズのガット・ブロウ・イカケも特殊な日本刀タイプのガット・ブロウである。このあたりは騎士団国家らしく名刀と言われるものや代々伝わるガット・ブロウをそのまま使っている者が多いということなのだろう。もっともこれらのガット・ブロウは貴重なものが多いので実戦で引っ張り出すことはなく、通常戦闘ではクバルカンの正規ガット・ブロウを使う者もいる。

静～ロボーター・プーラー（人形使い）

Fatima Ssizz-"The Roboter Puller"

身長162cm　体重39kg

解説しようとしたら静ちゃんが珍しく言いたいことがあるようです。どうぞ。

「えと、この前、クバルカンの軍事年鑑（もちろん非公開である）の表紙の撮影をするというのでちょっと頑張って身だしなみを整えて撮影現場に行ったんですね。ダルマスもとても機嫌が良くて、撮影の中休みの休憩でお茶を飲んでほーっとしてたら…そこから記憶がなくて…なんか私じゃないファティマがダルマスと写っていて…悲しくなっちゃいました…」

なんか大変なことが起きたようでございます。クバルカン法国の象徴ＧＴＭダルマスの撮影中にそんなことが。信じられません。しかし最高機密のＧＴＭダルマスは静様以外には起動できないはずでは…。

「わたし、ぼんやりと夢見心地の中で見ました。ネコ耳ヘッドアシリアを付けたファティマが部屋から出て行くのが…お茶に睡眠薬が入っていたんです」

「あの子、父様のでき損ないで成長途中で投げ出されて型式が"ほっといて型"になってしまったかわいそうな子なのであまり責めるつもりもないんですけど…」

「でも、あの子は"フォーカスライト"お姉様とほとんど同じ機能を持っているので、ダルマスですらあの子制御できるんです。噂ではアマテラス陛下の皇帝ＧＴＭマグナバレスを制御しているということなんですけど…マグナバレスはラキシス以外では起動すらできないＧＴＭなんですけどね」

「ただ、それほどの機能を持っていてもちゃんと戦っているのかはとてもとても姉として心配なんですけど…」

クバルカンのアシリアはデカダン・スーツと同じウルトラマリンなのですが、静様だけはダルマスに合わせた薄いブルーでございました。でも静のデカダンスーツは今までどおりの色なのでご安心を。

騎士の武器・ガット・ブロウ

騎士の主力武器「ガット・ブロウ」、正式な名称は「エレクトリックマグニフィケート・カーソル・ガット・ブロウ」である。電磁剣と呼ばれ攻撃時に刃の接触と同時に電磁エネルギーで対象物を破壊する騎士ならではの武器である。
剣とほぼ同じ扱いで、光学兵器の（パルスビームやレーザー光線銃など）「点」の攻撃より剣の「線と面」の攻撃が反応速度が極端に速い騎士相手には有効なのだ。
とはいえ通常の刃物のような「刃」は付けられておらず、刃の部分を指で触っても切れることはない。騎士がその超高速で振り下ろす際の破壊力は刃など不要であるし、むき身で装備することが普通のガット・ブロウに刃は危険で邪魔なのだ。金属であろうが、空気であろうが騎士たちはあらゆるものを切断する。ただ、その力を持っても破壊できない対象物、「GTMの装甲」「ヘリオス超鋼」などを破壊する時だけに刀身から電磁フィールドで破壊するのだ。

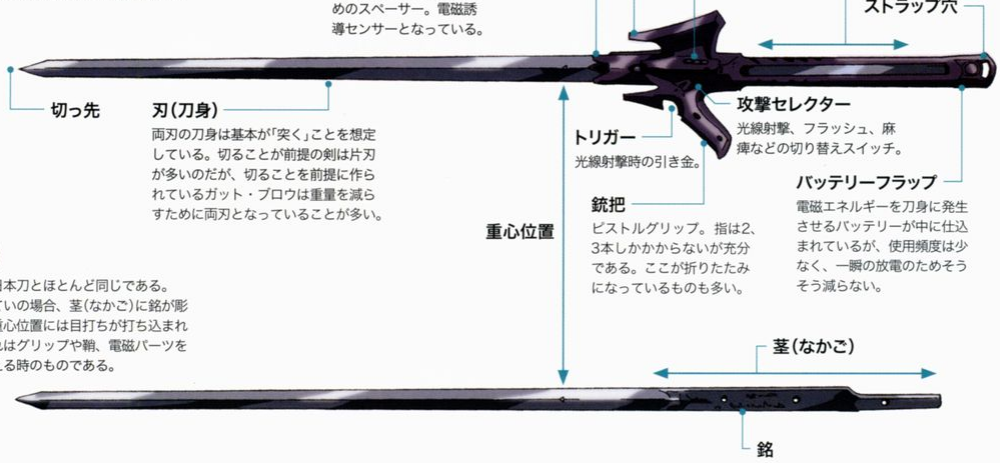
したがって、通常の騎士の戦いでは電磁剣ではなく普通の剣として使われる。また、遠方の目標を破壊したり牽制する時のためにつばはピストルグリップ状にこしらえてあり、電磁エネルギーは光線銃となって刀身より発射される。数百メートルも離れた目標を攻撃することもあるし、また間合いの関係上、移動が危険な場合など、意外とその用途は多い。

ガット・ブロウの長さは基本的にその重さで設計され、超人的な筋力を持つ騎士ではあっても普段からぶら下げるには重いより軽い方がいいのに越したことはない。
そのためにヘリオス積層で打たれた刀身部以外は極力軽くこしらえてある。ただし、一番重要な持った時のバランスだけは最優先に設計され、騎士があらゆる攻撃で剣を振り回す時、もっとも重量配分が良いように、柄の部分にまでヘリオス積層の刀身が入っている。

その重さは標準的なガット・ブロウで約5～7キログラムで、ショートタイプの「ヴィーニッヒ」ははるかに軽く、2、3キロほどである。これは護身用以外にもガーランドやスライダーがその身分を証明するための証として国家から贈られる場合も多々あるからである。
まれに長大な刀身を持つ「ラングン」があるが、これは10キロほどにもなり、軽機関銃並の重さとなる。扱えるのは経験と力のある強い騎士に限られる。ガット・ブロウの重さは片手で自動小銃の銃身を持って剣のように振り回すというところを想像していただければ、とても一般の人間に扱えるものではない武器であることがおわかりになるだろう。そのガット・ブロウの装着方法は何度も図解されているとおり、銃器類の装着に近いものである。とはいえ、許可さえあれば一般人でも所有できるので、ガット・ブロウを収集する武器コレクターはとても多い。

ガット・ブロウ バルブド社・モデル-GBB2961

現在騎士に最も使われているガット・ブロウである。騎士公社や武器を扱う業者から買うことができる。見た目はごつく、刀身も絞り込みなどのない直刀だが、その使いやすさから大騎士団の騎士でもメインや予備に所有している。



刃（刀身）

このように日本刀とほとんど同じである。
柄にはたいていの場合、茎（なかご）に銘が彫り込まれ、重心位置には目打ちが打ち込まれている。これはグリップや鞘、電磁パーツを合わせて挿える時のものである。

ヴィーニッヒは短剣同様重心位置は持ち手より前方になる

ヴィーニッヒ・ディーザード社 M-2990vh

比較的最近のモデルで、上の汎用モデル同様、時代によって騎士の求める仕様は変わってくる。そのためちょくちょくマイナーチェンジを行なっているのである。ヴィーニッヒは騎士の携帯用だけでなく、一般人の国家の報償であったり、ガーランド、スライダーの身分証明用の代わりでもあるため、需要は多い。
騎士用のものは実戦用に刀身が伸縮するタイプが多く、その分重いが、一般用のものは見た目通りの刀身で刃も薄く軽く作られている。

刃の製造

多くの場合、ガット・ブロウの刀身部は「積層ヘリオス超鋼」と呼ばれる特殊なヘリオス鋼で打たれている。積層ヘリオスとはとても薄い結晶板を重ねて電磁ハンマーで鍛えてできる石質装甲で、GTMのツインスイング部に使用されているものと原理は同じである。GTMのものは電磁熔解と圧縮で製造されるが、ガット・ブロウの場合は紙よりも薄いヘリオス結晶板が数万という単位で重ねられる。ある程度までは工場で量産できるが、その積層ヘリオスをさらに打ち方を変え、心金や刃金にし、合わせて柔軟に堅く仕上げるのは人間の手になる。日本刀と同じく電磁熔解ハンマーで叩いて鍛え、結晶板を融合させ分子配列を整えていくのだが、面白いことにこの「刀匠」と呼ばれるガット・ブロウの刃の制作者は騎士やGTMガーランドが多い。やはりその強度、仕上がりは騎士やGTM設計者が最もわかるというのがあるのかもしれない。
電子顕微鏡で見なければわからない刀身表面の分子配列を見ただけでわかる人間が適しているのだ。これは一般人でも熟練した才能のある工員にも多い。

「銘」付きのガット・ブロウ

最も高価で使いやすく美しいと言われるガット・ブロウはイズモアストロシティの刀匠、泰千錫華、フィルモア帝国刀匠アビエン・ヒートサイの打つガット・ブロウで、数が少ないために高額で取引され、このガット・ブロウを求める騎士はとても多い。ミラージュ騎士団の十字架ガット・ブロウは3000年代に入って泰勝錫華によって造り直されている。これは錫華とニューが「エンジンくれたらガット・ブロウ打ったる！！」と、どさくさに紛れて言ったのを天照はしっかり覚えていて、約50振りのガット・ブロウ、80振りのヴィーニッヒがミラージュ騎士団に納められた。とほほ。ただ、GTMツァラトゥストラ・アプターブリンガーが使用するガット・ブロウの数は何振り打たれたのか、まったく公表されていない。

ミューズの持つガット・ブロウ・イカケ(沃懸〜いかけ)

クバルカン法国、ミューズ・ヴァン・レイバック枢機卿の持つとても珍しい日本刀造りのガット・ブロウである。見事な直刀の片刃で、ガット・ブロウの例に漏れず刃は付いていない。イカケと呼称されるとおり、柄のこしらえは見てのとおり美しいイカケの磨き出しである。(蒔絵の下地で金粉などをまぶして漆などで固定し、その上から磨き出す手法のこと)
刀身はアレキサンドライト・クロムの光沢がとても美しく、クバルカン騎士家の名門、ストラウス家から贈られたもので、ミューズの枢機卿就任祝である。刀匠はルミラン・クロスビン。GTMダッカスの設計者だがガーランドは趣味や余った時間にガット・ブロウを打つことがよくあるようだ。
モデルとなったのは沃懸地獅子文毛抜形太刀で、鎌倉時代の名刀である。この拵えを出した1990年にはまさか女子が太刀や刀でわいわい言う時代が来るとは思わなかった……。おかげで固有名詞や用語が使いやすくはなりましたが。

日本刀の拵えの場合、
柄が僅かに反っている。

天照家の神剣・安来の剣(やすぎのつるぎ)
=螺鈿紫檀地色変化細身逆打刃之太刀=
(らでんしたんじいろへんげほそみぎゃくうちばのたち)

2007年カレンダーで天照の帝が持っているガット・ブロウがこれである。和刀造りなので、「けん」ではなく直刀であるので「つるぎ」と読む。その拵えはとても特殊でこの天照の剣以外には見られない特徴が多くある。
星団暦以前のガット・ブロウであることは間違いなく、歴代の天照家のミカド、ミコトの持つ宝剣であるために外には出ない。その装飾は見事な明色のブラジリアン・ローズウッド(ハカランダ)の柄に螺鈿(らでん)の貝装飾が施され、エメラルドを中心に高価な宝石がちりばめられている(螺鈿紫檀地という)。最も目を引く刀身は両刃の切っ先が打ち落としで、反り刃で逆刃となる。そしてその刀身部は、ものうち(先端部)、中央部、白金(しろがね)付近で色が異なっている。これは積層ヘリオス結晶に電解圧を変えながら打たれた場合まれに起こる表面屈折率の変化によるもので光の当たり具合でこれほどの変化を見せる刀身はこの安来の剣以外には見られない。
鞘の拵えも柄同様手の込んだものである。その重さ故に太刀下げが広く下げ緒も長く取られているのがわかる。
出所不明、作者不明の剣である。
尚、とても珍しく刀身には「刃」が入れられている。天照の言葉「だって刃が入れてある方がマグロとかブリを切りやすいし…」
何考えとんじゃ！この人は！…あ、それで「鞘」があるわけですね。なるほど。…ということはこの剣は魚解体用に打たれた…。ぼけえ！魚解体用に積層ヘリオスが必要か！！実戦用に間違いはございません。ただ使っている人の方に問題があるだけです。

逆刃

切っ先が反対に付いているので、本来刃の付くところが峰で峰のところが刃となるがちゃんと普通に下側が刃である。

鞘

刃が付いている刀身なので鞘がこしらえてある。ただ、本当にブリだのマグロだのを切っているらしく、日本刀の鞘同様に内鞘がちゃんとあり、トロの脂だのが付いた刀身が収まっても内鞘を引き抜いてそれを洗うだけで鞘の内部が汚れないようにできている。

コラム～騎士の間合いその1・一般騎士

一般的な騎士（メヨーヨ騎士）

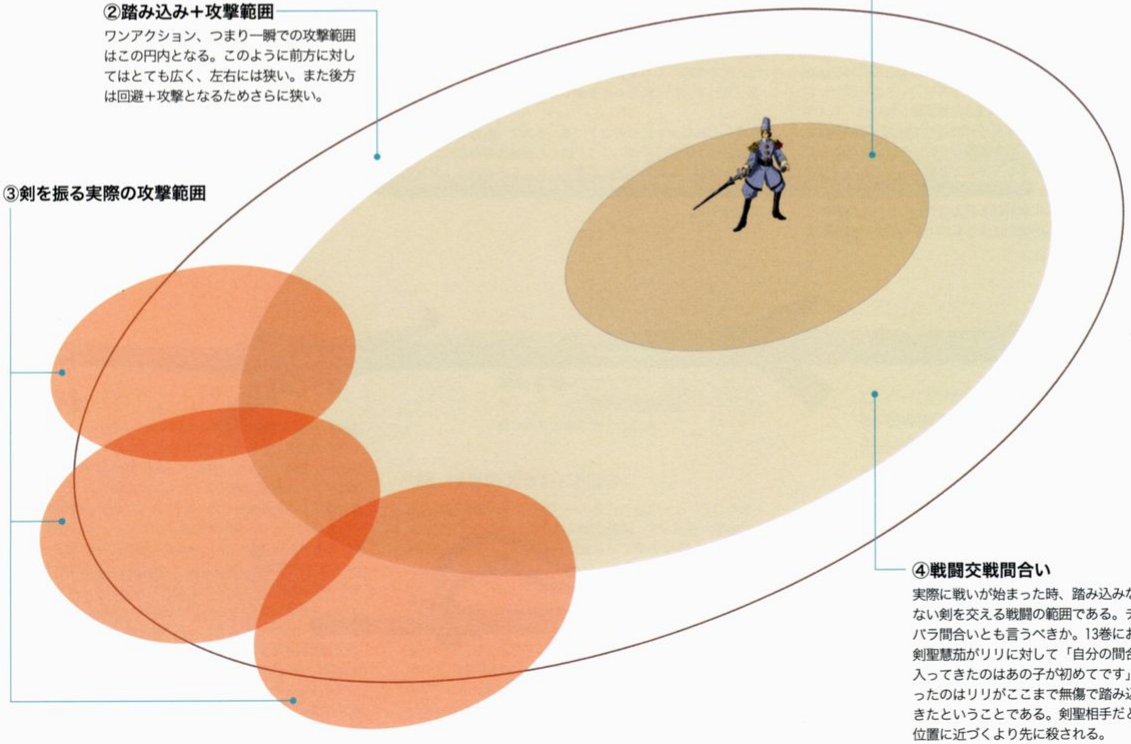
間合いは騎士によって様々であるが、これは一般的な「攻撃姿勢」である。すでに肉体とガット・ブロウは攻撃位置にある。騎士がこの動作に入ったらもう騎士以外には対処不可能だ。我々の感覚では目にも止まらない一瞬の速さで攻撃対象は切断されるかバラバラに吹き飛ぶ。瞬間時速２００キロ以上の踏み込み攻撃を止められるものは騎士以外にはいない。

騎士の間合い～騎士たちの攻撃範囲＝射程距離

騎士たちの「間合い」。よく物語でも出てくる言葉だが、これは「自分の攻撃可能かつ破壊切断範囲」のことを指し、その間合いは我々一般人とは桁が違う。その彼らの攻撃範囲を図にした。

我々一般人が一瞬で動ける範囲は１メートルあるかないかだろう。だが、騎士たちは３メートル以上もの間合いを持っている。その速さも我々とは桁違いだ。彼らが瞬時に一歩踏み込む時は「攻撃は完了している」状態で、踏み込んでから打ち込むということはない。我々が「構えた剣を」「踏み込み」「振りかぶり」「振り下ろす」といった２アクション、３アクションで動作を完了するのに対して、騎士は１アクションで完了する。つまりそれくらい速いのだ。

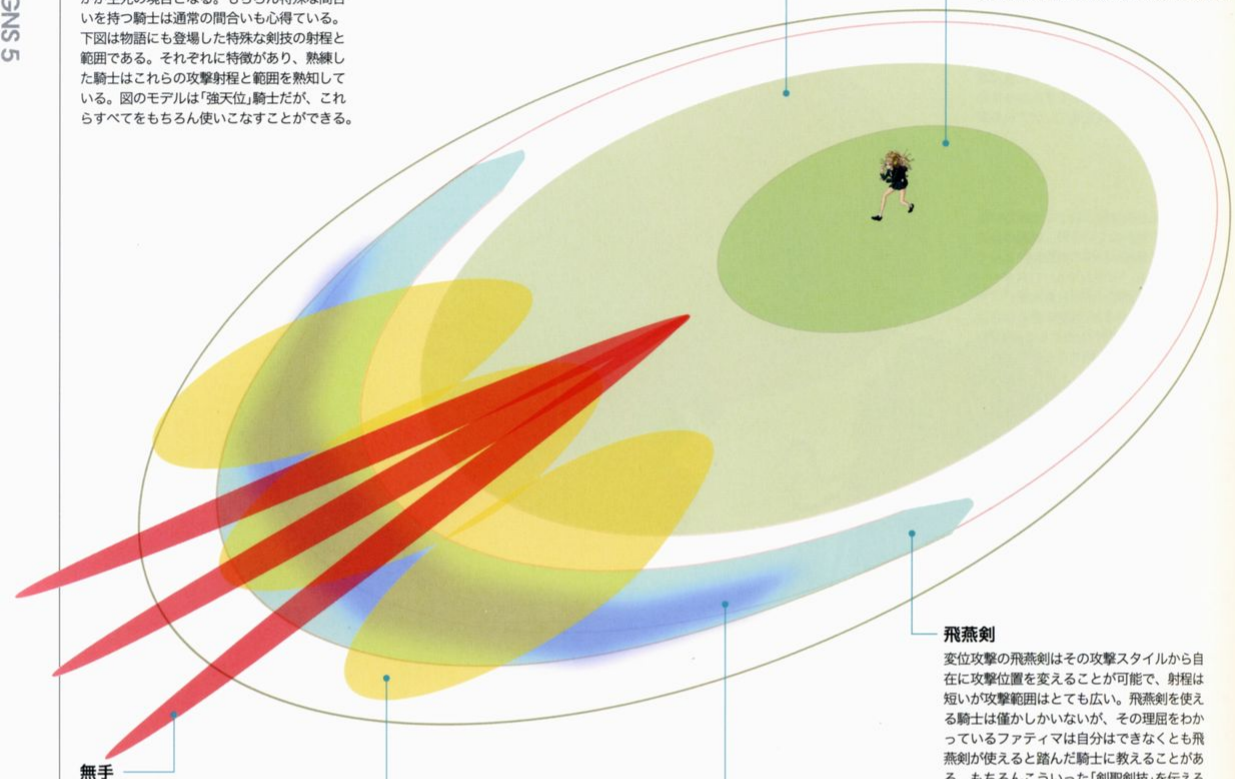
基本的に後方移動は前方移動より少なくなる。騎士の跳躍力なら同じと思われがちだが、「ジャンプなどで空中に浮いた騎士は無防備」である。足が地に着いているからこその移動速度なので、両脚が地面から離れている時間が長いということは回避動作が空中では行えないためにとても危険なのだ。また、この空中に浮くという動作はＧＴＭ戦においても同じで、回避行動を取るくらいならばガット・ブロウやフライヤー（盾）で受け止める、受け流す行動の方が遙かに有効なのである。装甲に覆われたＧＴＭと生身の騎士の戦い方の差はこういうところにある。ＧＴＭ戦でとっさに生身状態と同じ行動を取ると致命的であるし、逆に騎士同士の戦いでＧＴＭのような受け止め主体の戦い方をすれば腕ごと切断されてしまうこともある。そういうＧＴＭ戦と騎士戦の違いはいかに強い騎士であったとしても使い分けられなければ死ぬだけなのだ。生身の騎士戦は回避と間合いを取ることが主体で、ＧＴＭ戦では受け止めと間合いを広げないことが基本である。戦闘機パイロットなどと異なるのはここなのである。２種類の戦い方を習得しなければならないのだ。



その2・天位以上の騎士の間合い

特殊な攻撃間合いと剣技の数々

例えばデコースのような2刀流やランドのロボットアームのように騎士によっては非常に特殊な間合いを持つ者もいる。一般騎士であってもこういった多彩な攻撃パターンを持つ騎士はいるので、相手の間合いをどう見切るかが生死の境目となる。もちろん特殊な間合いを持つ騎士は通常の間合いも心得ている。下図は物語にも登場した特殊な剣技の射程と範囲である。それぞれに特徴があり、熟練した騎士はこれらの攻撃射程と範囲を熟知している。図のモデルは「強天位」騎士だが、これらすべてをもちろん使いこなすことができる。



無走剣

「居合い切り」の騎士版である。まさしく目にも止まらない速さの居合い切りはベテラン騎士であっても逃れることはできない。ラルゴ・ケンタウリやブラフォードが使用した。

ストラト・ブレード

剣は使わない技のひとつで、自分が動かない位置から周囲に高速の指弾や弧拳、掌底を飛ばす。たいていの場合は吹き飛ばされるくらいだが、強力な騎士が放てば当たる場所によっては致命傷となる。もちろん普通の人間が食らえば内臓も骨も粉砕されて即死である。

飛燕剣

変位攻撃の飛燕剣はその攻撃スタイルから自在に攻撃位置を変えることが可能で、射程は短いが攻撃範囲はとても広い。飛燕剣を使える騎士は僅かしかいないが、その理屈をわかっているファティマは自分はできなくとも飛燕剣が使えると踏んだ騎士に教えることがある。もちろんこういった「剣聖剣技」を伝えることのできるファティマはもっと少ない。

無手

この飛び出した射程範囲が13巻でブルーノとトライトンが察知した「無手」の射程範囲である。あの人物が気を送った距離がこれだけあったということである。経験豊かなブルーノたちは自分たちのところまで届くということを瞬時に判断したのだ。「無手」はこのとおり、ある程度強い騎士でなければ気がつかない。もちろん実戦で使われたら気がついた時には死んでいる。素手でもガット・ブロウでも使われる技である。

ブレイクダウン・タイフォーン

分身攻撃からの衝撃波による攻撃はその方位も範囲も比較的狭い。これは分身による攻撃がトリッキーなためである。ただその狭い範囲から逃れることはとても難しい。コーラス王家の騎士が使うことが知られているが、それ以外にも習得している騎士は多い。もちろん天位クラス以上の騎士でなければできない芸当である。

連弾衝撃波

遠隔攻撃の基本でソニックブレードを使いこなせる騎士でないと使うことは難しい。かなり広範囲にわたる攻撃なので牽制や威嚇に使われることがほとんどである。ただ、ログナーなどが使えば逃れることは不可能である。

騎士のランク・称号

騎士には前に述べたとおり、強さの称号のようなものがあり、ＧＴＭ戦闘で５騎以上を完全撃破した騎士は「エース」と呼ばれ、名実共に「強い騎士」として内外から認められるが、騎士としての力が生まれ持って強く、その資質が非常に高い者は「天位」と呼ばれ、特別な扱いとなる。その強さは剣聖やバキン・ラカンの聖帝に認められた騎士がほとんどで、実戦経験はなくとも天位の称号を受けることはできる。が、物語でダイ・グが言っているとおり、いかに騎士としての資質に優れ、天位を持つ者であっても実戦ではベテラン騎士や乱戦時などであっさりと倒されてしまうことも大変に多い。魔導大戦ではすでに４名もの天位騎士が戦死している。実戦を生き抜き、ＧＴＭの撃破数が増えていくことでようやく名実共に「天位騎士」として独り立ちしていく。

この天位の上には「小天位」(しょうてんい)、さらにその上の「強天位」(ごうてんい)という称号があるが、これは天位持ちの騎士が実戦とその戦歴で間違いなく当代１、２の騎士であるという証である。現在小天位騎士はハリスの引退によっておらず、強天位騎士はヒートサイの引退と共に引き継がれたとある人物とイオタのジャコーのみで、天位以上は現在この２人だけである。

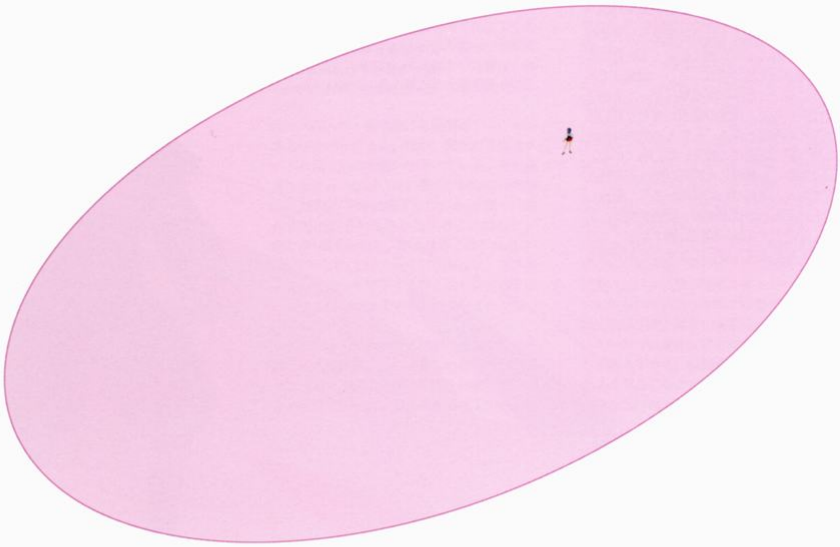
ただし、このような称号を非常に嫌う騎士も多くおり、デコースなどは間違いなく天位以上の騎士であるし、「黒騎士」という称号そのものがそれ以上であることの証である。また、アイシャやランドなど間違いなくそれらを超える騎士であってもこういった一切の称号を持っていない、または受けない者も多い。もちろん彼らが認めるヨーン・バインツェルもこのひとりである。

これらランク外なのが「剣聖」で、星団最強騎士そのものである。だが、各時代にひとりと言われるほど剣聖は少ない。またその力も桁外れである。現在はカイエンが死亡し、慧茄が引退しているので公的には剣聖は存在しない。しかし、現在慧茄以外の剣聖がいるのは物語を読んでいればわかるはずである。

この後、剣聖マキシと剣聖デプレが登場するまで剣聖はこの人物ひとりである。

剣聖の間合い

間合いというのも剣聖だとこうなってしまう。これは素手の時で、剣技を使えばこの倍くらいの範囲が攻撃範囲となる。
瞬間移動力が桁違いなのだ。
デプレがカイエンと対峙した時（10巻）デプレはこの射程内にいたが、自分が回避する距離を本能で判断し、カイエンの有効射程からいつでも逃れるために動いたのである。ただ、後ろにムグミカがいたので彼女を守ることも考えると自分が攻撃を受けてもムグミカに派生しないようあれ以上は後退できなかったのである。カイエンはそれを見て、デプレの素質を認めたのだ。

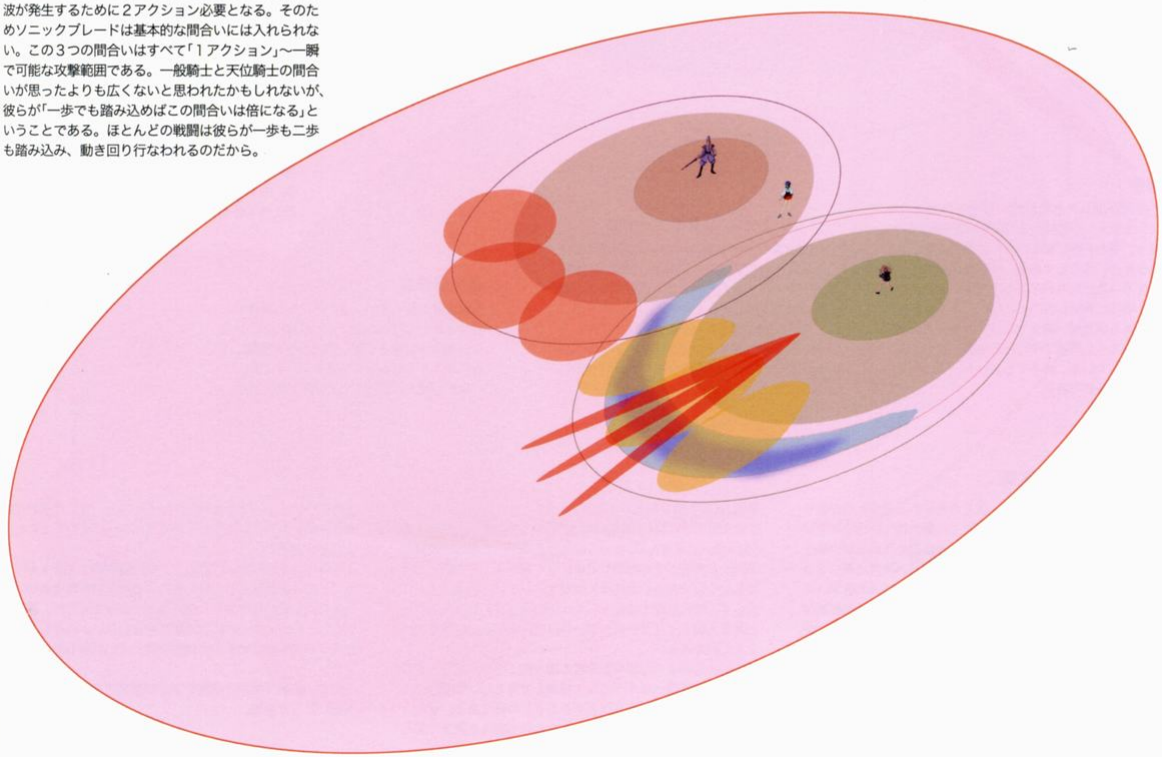


剣聖剣技

剣聖が開発した剣技は後の騎士にも威力の差こそあれかなり使われているが、剣聖のみ使うことのできる剣技は別格の剣聖剣技として語り継がれている。「マキシマム・バスター・タイフォン」「真空光輪」「多段分身攻撃」「ミラー」などが登場しているが、剣聖の恐ろしさはこれらの剣技をＧＴＭで行なうことである。もはやその破壊力は想像を絶するものである。

間合いの比較

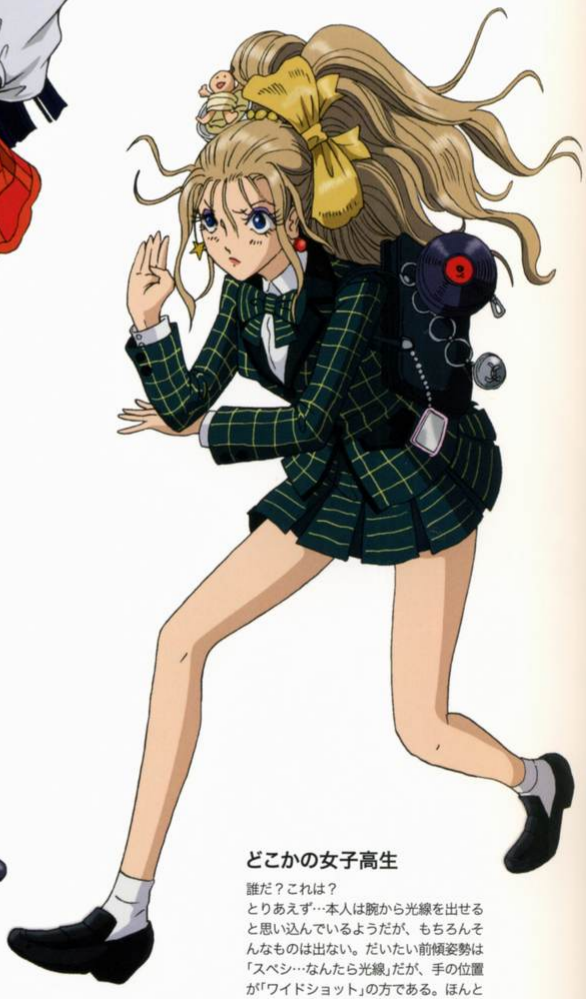
一般騎士、天位クラス騎士、剣聖のそれぞれの間合いと攻撃範囲である。剣聖はさておき、一般騎士と天位騎士の差はそれほどないのがわかる。騎士としての反応速度や筋力にそれほど差はないということでもある。だが、天位クラスの騎士の使う剣技やその経験はやはり一般騎士とは格が違うと言えるだろう。
一定以上の騎士なら使いこなせる射程の長い「ソニックブレード」は、その発生が手刀を振り下ろした後衝撃波が発生するために２アクション必要となる。そのためソニックブレードは基本的な間合いには入れられない。この３つの間合いはすべて「１アクション」～一瞬で可能な攻撃範囲である。一般騎士と天位騎士の間合いが思ったよりも広くないと思われたかもしれないが、彼らが「一歩でも踏み込めばこの間合いは倍になる」ということである。ほとんどの戦闘は彼らが一歩も二歩も踏み込み、動き回り行なわれるのだから。



薔薇の剣聖　マドラ・モイライ
Hyper Schvalier Muddler Moirai

身長187cm ?kg

現時点で現役のただひとりの剣聖である。ただ、いまマドラがどこにいるのかさっぱりわからず、最後にフィルモアのレーダーらと会った後消息不明である。もちろんマドラの主である天照も知らない。相変わらずのロリロリ衣装を描くのが大変で出すのをいやがっているわけではないのだが、いつもマグナパレスのネームが入った帽子をかぶっているのかは謎。たぶん本人はこのＧＴＭを狙っているのかもしれないが、マドラの登場は「トラフィクス３・パルスエット」の後になる。とてもシリアスなエピソードと毎度おなじみのトホホエピソードにてご登場。剣聖は人間と戦うことを想定していない。ＧＴＭや「あれ」と戦うための力を炎の女皇帝が作り上げたと言っても過言ではないのかもしれない。この剣聖マドラですら片腕をもぎ取られてしまうのだから。



どこかの女子高生

誰だ？これは？
とりあえず…本人は腕から光線を出せると思い込んでいるようだが、もちろんそんなものは出ない。だいたい前傾姿勢は「スペシ…なんたら光線」だが、手の位置が「ワイドショット」の方である。ほんとにもー。解説は別のページ。

Mejojo Imperial Dynasty

Kampf A Shu Ra Temple

メヨーヨ朝廷 四泰開経金剛騎士団 〝ア・シュ・ラ・テンプル〟

ボオス星、カステポー南にあるメヨーヨ朝廷は日本で言う鎌倉時代以前の荘園国家である。

多くの豪族からなるメヨーヨは各部族の長が国家代表を選出し、現在はクラーケンベール・メヨーヨが父の後を継ぎ大帝となった。

そのメヨーヨ朝廷の筆頭騎士団、クラーケンベール直下の親衛騎士団がア・シュ・ラ・テンプルである。

傭兵国家として名をはせるメヨーヨだが、その騎士団は正規のメヨーヨ朝廷騎士団である。傭兵国家と言われるのは他国の要請でメヨーヨ騎士団を出すからでもある。国力の低い、また軍事力、GTM、騎士の数が少なく、戦力が低い国家は軍事行動にメヨーヨ朝廷の騎士団を投入するのだ。国家以外にも自治区や場合によっては個人の要請でも騎士団を派遣する。

メヨーヨ朝廷はそういった戦いに騎士を参入させ、数多くの戦果と騎士の戦いを国家の誇りとする歴史があり、メヨーヨ騎士たちは大国の騎士団よりも戦争経験は多い。この少なくない派兵、騎士団派遣はメヨーヨ朝廷の歳入の一角を担っている。

以前のメヨーヨ騎士の使うGTMは多種多様で、騎士たちは使いやすいGTMを選び、自由に使用してきたが、星団暦2900年代の後半から自国で開発したドクター・ダイアモンドの「ホウライ」の完成によって大国並みの性能のGTMをついに製造、保有することが可能になった。

以後、順次メヨーヨのGTMは「ホウライ」に置き換わっている。

その主力GTM、ホウライ

ドクター・ダイアモンドが設計した最初のGTMである。

パンター・フレームを基本としているが、その四肢を支えるツインスイング関節部はとてもごつく、各関節基幹部がエクステンションされており、横に広がったそのシルエットはライオン・フレームと変わらない大型のGTMである。

その大型化した要素はすべて出力に回され、その骨格：出力率は他国のGTMに比べて8％も多い。これはライオンフレーム並に増えた体積を補うための出力で、戦闘馬力：出力比は他のGTM同様となり、軽快さと俊敏性は変わらない。巨大化したフレームの発熱対策の装甲が目を引く。

結果、パンターフレームGTMの扱いやすさを残した大型GTMとして、GTMボルドックスと共に傑作GTMとなった。

このホウライで唯一、騎士が注意すべきことは

「100％での戦闘出力での行動時間が他のGTMと比べて短い」

ということである。それは巨大化した四肢のツインスイングのエネルギー発生とその熱が大きく、全開状態での戦闘時間が短くなるということである。しかしGTMが戦う時、最大戦闘出力で動き続けることはまずなく、実戦はたいてい数秒、長くて数分で終わるか、そこで仕切り直しがあるのが普通である。

GTMは破壊されない限り永久に動き続けることが可能である。つまり、連続的な戦闘が続く大規模戦闘などは、戦闘の合間にクールダウンの時間を他のGTMより多く取らなければならないということで、なれた騎士やファティマにはあまり関係のない話でもある。GTMの発熱はツインスイング機構の動きに影響を与えるので、常時なるべく発熱はおさえるのが基本である。

この点、戦争慣れしているメヨーヨ騎士にはそれほど注意すべきものではない。

配備後のメヨーヨ騎士団

ホウライの製造が開始されて日が浅いこともあり、メヨーヨ騎士団全軍配備には時間がかかっている。

実際魔導大戦勃発時にはメヨーヨ全騎士団に定数が行き渡らず、ホウライが配備されなかったために一時的にバッハトマに編入して参戦したというメヨーヨ騎士も多い。バッハトマは枢軸軍としてメヨーヨを引き入れる時にGTM「カーバーゲン」を優先的に回すということもあったからだ。同じダイアモンド博士の設計ということもあり、メヨーヨ騎士たちにはいい話であったことだろう。

またバッハトマにとっても戦争慣れしたメヨーヨ騎士が一定数自軍に参加してくれることは新興国家として大歓迎であったことだろう。もちろんバッハトマはメヨーヨ朝廷に莫大な報酬を支払っている。

このあたりのメヨーヨ騎士たちの自由さはこの国家ならではのものである。

バッハトマで参戦した騎士たちは定数が行き渡った中盤にはメヨーヨに戻ってきている。

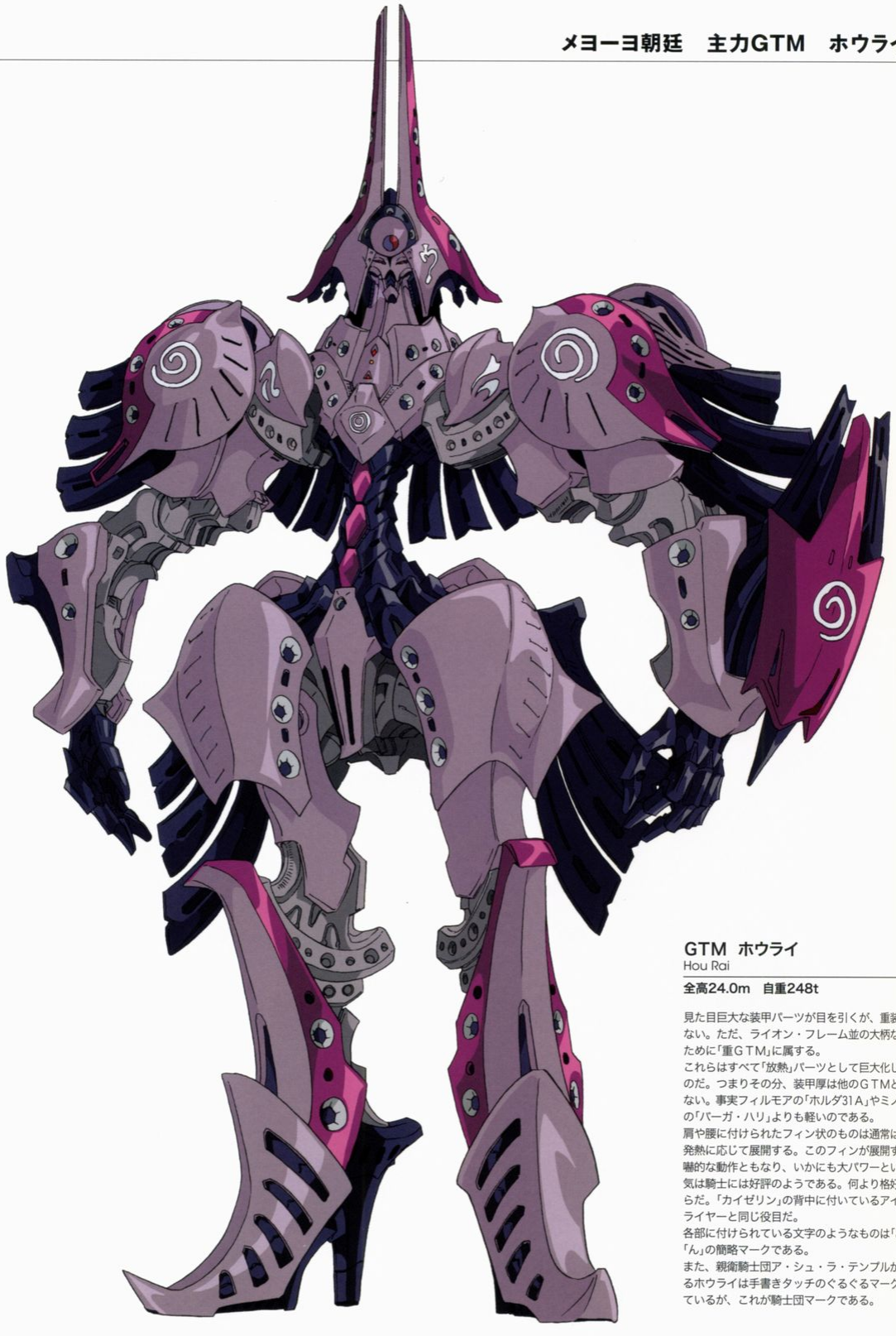
このこともあり、メヨーヨ朝廷はホウライの他、カーバーゲンも相当数保有している。また、ホウライの配備中でも騎士の希望によって様々なGTMを確保している。

輸出用として生産されているフィルモア帝国の「ホルダ31D」、ロッゾ帝国の「グロアッシュ」など超一級のGTMも数騎保有しているようだ。もちろん識別のために装甲色や細部はメヨーヨらしく変更されている。

非常に戦闘機会の多い騎士団でもあるので、自国の騎士に実戦の経験を積ませたい国家や騎士団が頻繁にメヨーヨにやって来る。メヨーヨはいかなる国家の騎士も歓迎し、「剣客」として応対している。もちろんそのお客は望み通り最前線に投入されるわけだが、こういう勇敢な騎士たちをメヨーヨ騎士たちも歓迎している。

現在はクバルカン法国の筆頭騎士、イゾルデと選抜のルーン騎士、ローテ騎士が数名行動を共にしているのがわかっている。

そして、メヨーヨ大帝も強力な騎士であるため、ホウライとは異なる完全新型のGTM「アグニム」を持つ。このGTMは「姫沁金剛（きしんこんごう）」という別名も持っている。



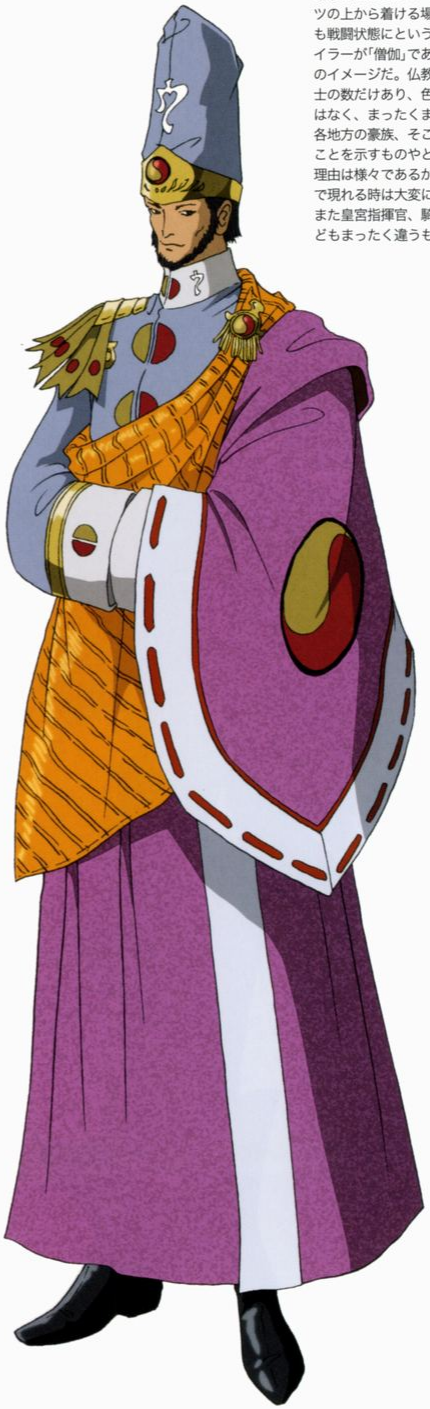
GTM ホウライ
Hou Rai

全高24.0m　自重248t

見た目巨大な装甲パーツが目を引くが、重装甲ではない。ただ、ライオン・フレーム並の大柄な騎体のために「重ＧＴＭ」に属する。
これらはすべて「放熱」パーツとして巨大化しているのだ。つまりその分、装甲厚は他のＧＴＭと変わらない。事実フィルモアの「ホルダ31Ａ」やミノグシアの「バーガ・ハリ」よりも軽いのである。
肩や腰に付けられたフィン状のものは通常は収納し、発熱に応じて展開する。このフィンが展開すると威嚇的な動作ともなり、いかにも大パワーという雰囲気は騎士には好評のようである。何より格好いいからだ。「カイゼリン」の背中に付いているアイドラフライヤーと同じ役目だ。
各部に付けられている文字のようなものは「あ」「う」「ん」の簡略マークである。
また、親衛騎士団ア・シュ・ラ・テンプルが使用するホウライは手書きタッチのぐるぐるマークが付いているが、これが騎士団マークである。

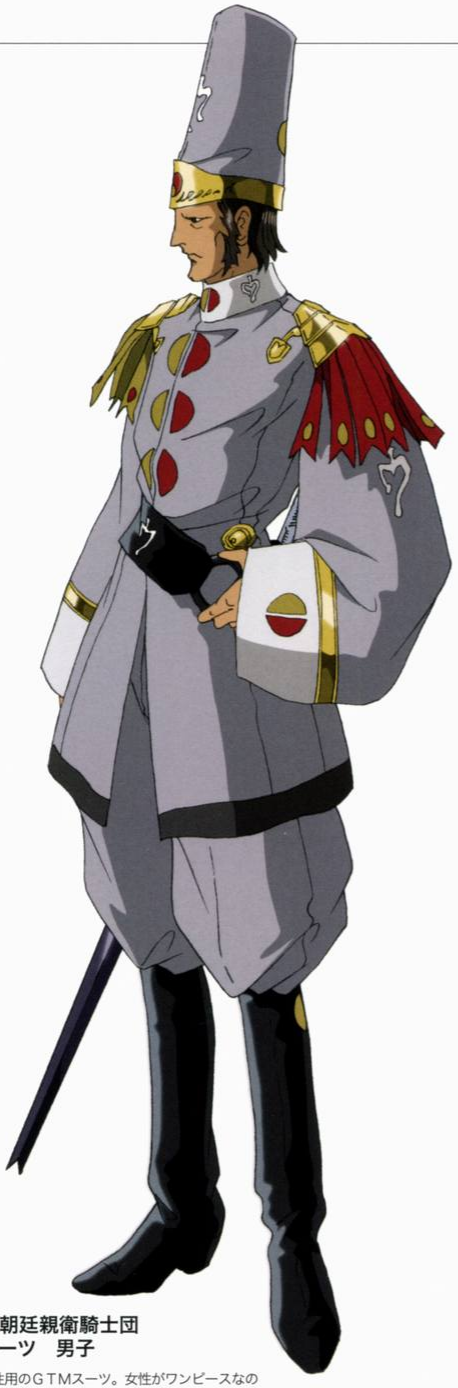
メヨーヨ朝廷・袈裟衣　女性

こちらは2枚3枚と重ねがけしている。その騎士が出た地方の族長などが騎士団就任祝などで贈るのが慣習となっている地方も多い。また国外出身の騎士は朝廷から送られたり、褒美と共に贈られたりする場合が多い。この女性騎士は帯剣している。邪魔にならなければこのままGTMに乗り込むことも多いようだが、絢爛豪華な生地は傷まないのかと心配になる。



メヨーヨ朝廷・礼服、儀仗服

ラフなメヨーヨ朝廷ではあるが、式典時は袈裟状の衣を着け、かなりきちんとしている。これは各地方の豪族たちの贈答ということもあるのだろうか？　基本的にGTM戦闘スーツの上から着ける場合がほとんどで、いつでも戦闘状態にという風潮が表れている。
イラーが「僧伽」である、といったそのまんまのイメージだ。仏教の袈裟に似た儀礼衣は騎士の数だけあり、色も形も着け方も同じものはなく、まったくまとまっていない。これも各地方の豪族、そこの出身騎士であるということを示すものやとりあえず豪華絢爛にとか、理由は様々であるが、メヨーヨ騎士が儀仗衣で現れる時は大変に派手である。
また皇宮指揮官、騎士団長となると、帽子などもまったく違うものになる。

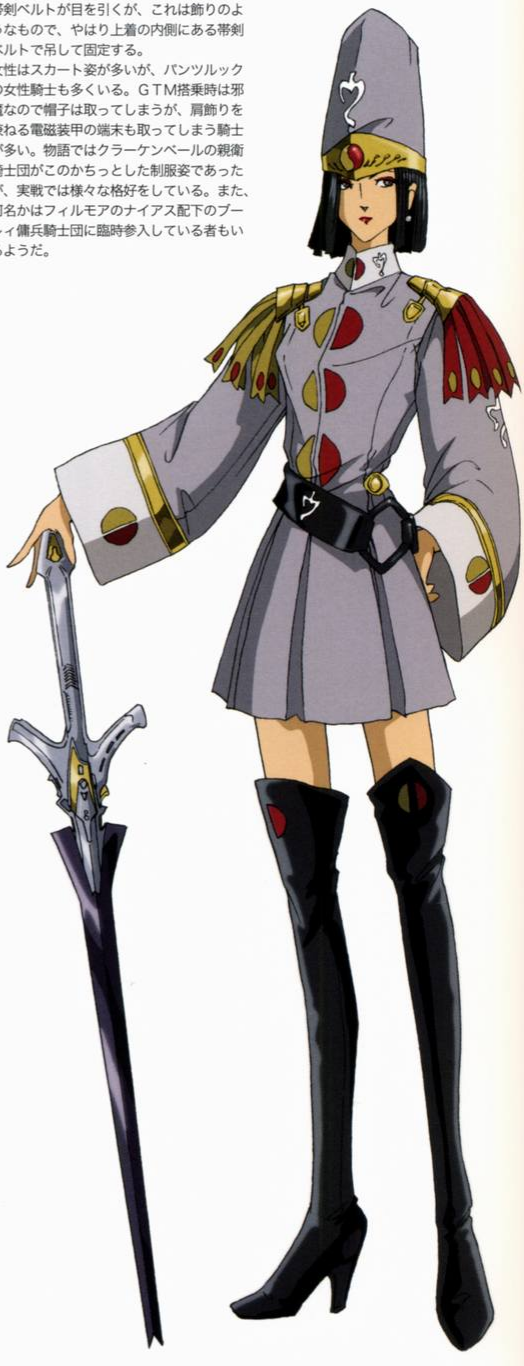


メヨーヨ朝廷親衛騎士団 GTMスーツ　男子

こちらは男性用のＧＴＭスーツ。女性がワンピースなのに対して、ショートコートと膨らんだ乗馬ズボンである。イラーやクラーケンベールの側近、バイドルなどはロングコート状の上着であったが、指揮官クラスは別仕立てのスーツを着ている。もっとも大帝のクラーケンベールがいつも適当な格好なので、ある程度は自由なのだろう。大国と比較して融通が利くところが多いメヨーヨ騎士団はいろいろな騎士が剣客としてやって来るが、そのまま居着いてしまう騎士も多いようである。

メヨーヨ朝廷親衛騎士団 GTMスーツ　女子

物語中でもこの姿で登場したメヨーヨ騎士。こちらが通常の戦闘服、ＧＴＭスーツである。上質なフラノで作られている。ごつい帯剣ベルトが目を引くが、これは飾りのようなもので、やはり上着の内側にある帯剣ベルトで吊して固定する。
女性はスカート姿が多いが、パンツルックの女性騎士も多くいる。ＧＴＭ搭乗時は邪魔なので帽子は取ってしまうが、肩飾りを兼ねる電磁装甲の端末も取ってしまう騎士が多い。物語ではクラーケンベールの親衛騎士団がこのかちっとした制服姿であったが、実戦では様々な格好をしている。また、何名かはフィルモアのナイアス配下のブーレィ傭兵騎士団に臨時参入している者もいるようだ。



戦闘兵器の実際の稼働数など

よく漫画やアニメではロボットや戦闘機が次から次へとじゃんじゃん登場し、リアルに考えればいったいどういう生産体制と補給体制、維持体制を敷いているのか不思議に思うことがある。

「ファイブスター物語」では騎士とGTMの数が勝敗を決することがほとんどであると何度も書いてきた。

星団パワーバランスを見るとGTM保有数2000騎とか書いてあるが、実際の軍隊でも同様にこれら保有、装備する数がそのまま戦闘に投入できる数ではない。

戦争においては兵器を保有する集団、師団、連隊、大隊などで「定数」というものが決められている。

これはその兵士や戦車、戦闘機などの数で、1個小隊に何台、というふうに決められているのだ。

この定数がすべて出撃するというのは大規模な作戦開始時くらいで、それも周到に用意され配備数がきちんとその数だけ装備されている余裕のある場合である。例えば現在やっている魔導大戦においてはベイジ攻略に投入されたバッハトマ軍と枢軸軍、迎え撃つハスハのAP騎士団の数はほぼ定数が投入されたことだろう。ただし、本当に装備するすべてのGTMを投入したのは後先を考えない無策である。たいていの場合予備戦力として残していたり、防衛戦闘用の別戦力が待機していたりする。

さて、問題はこういった華々しい初陣ではなく、時間が経過してからの各国の保有数と配備数である。

余裕のある大国とて1000騎を配備していたとすると、実際に戦闘に出せるのは400騎程度である。200騎は予備、残りの400騎は整備、故障、本国送還などで出撃したくともできない状態である。

これを「定数割れ」というのだが、基本的にすべての軍はこの「定数割れ」の状態となっていく。戦死などにより騎士の数が減る。中破以上の損傷でGTMの再補給に時間がかかる。ファティマも戦死で減る。などの状況となる。大戦闘などで100騎中20騎が破壊され遺棄または自爆、20騎は戦闘による損傷で再稼働不可能、と、こういうことが続くとだんだんと保有数の数だけではなく実質稼働率が減っていくのだ。

破壊されたから新しいGTMを補給してくれとかいってもそんな都合良く補給できるものではないし、たいてい定数の1割が予備騎としてあるのだが、そんなものはあっという間に使い切ってしまう。

それが保有数、定数、実質稼働数である。

「保有数」

とにかく持っているGTMの数。動こうと動くまいと問題があろうと関係ない数。

「定数」

ひとつの小隊、ひとつの中隊が作戦行動を行うため必要な、または在籍する騎士の数。いちおう理想の編成。

「実質稼働数」

GTMはあるけどファティマがいなくて動かせない、故障して動かない。動くが、戦闘に出すにはかなり危険な状態のGTM。こういったものを引いた実際に出撃して戦闘できるGTMの数である。

13巻のラストにナルミが登場したが、ナルミのバーガ・ハリは右腕が損傷し、あそこまで動いてはいるが戦場には出せない状態である。つまりあのナルミのバーガ・ハリは実質稼働数には含まれないのだ。動いてはいても。

第2次大戦の末期はドイツ軍で言えば1個師団の定数は戦車大隊3個で160輌前後である。ところが実際の稼動戦車数は僅か8輌。

こういうものだ。戦車が8輌になっても師団と意地で呼んでいるのだ。

Kamplitter Bachtgma Black Knight

Bachtgma Imperial

バッハトマ魔法帝国

帝国誕生から日の浅い騎士団はもともとのバッハトマを構成する旧諸国騎士団と星団中から集められた騎士たちから構成されている。歴戦の騎士もいれば実戦経験もない若い騎士、騎士団から放り出された曰く付きの騎士まで、雑多な騎士で構成されているのがバッハトマ騎士団である。

が、すべての騎士団を率いるのは「黒騎士」である。その黒騎士に惹かれて、また、古い国家にはない自由さを求めて開戦までに多くの騎士が集まってきていた。黒豹騎士団長のトモエが開戦前よりプロパガンダと騎士集めに奔走していたことも功を奏している。

ただ、その騎士団の制服はバラバラであった。バッハトマを構成する旧各国、シーブルの国家騎士団、ウースーの自営騎士団、ベールのユーコン連合の7星自由経済国家、グランバッハ騎士団、多くの国家、地方の騎士団の寄せ集めであったからだ。

誕生当時は制服も間に合わず、各騎士はかつての所属騎士団の制服や新たに参加した騎士たちは自由な服にバッハトマの国籍マークを付けただけの格好だった。また、そういう雑多な集まり故に騎士団の制服を嫌ったり軽んじたりし、その後いくつかの制服が作られたが着用する騎士は少なかったのである。

騎士団長のデコースはいつも好き勝手な服を着ていたし、部下であるケサギとカエシも同様である。

騎士団の士気高揚を考えれば制服着用が必須なのはデコースはわかっていたはずだ。

が、魔導大戦勃発で黒騎士率いるバッハトマ騎士団の快進撃とその戦果は星団の人々に畏怖を与えると同時にバッハトマ騎士団員に変化を起こした。

それまで制服などどうでもいいと思っていたベテラン騎士たちがこぞって制服を着るようになったのである。バッハトマ騎士団は強いというイメージが星団に行き渡り、騎士たちには「誇り」が生まれていたのだ。

このあたりはデコースが騎士たちの心の変化を予想していたからだ。できたばかりの寄せ集め同然の騎士団。制服だけの張り子の虎のような騎士団ごっこではすでに充分経験のある騎士にとって率先して着用するものではなかった。

彼らが制服を自ら着るのは自分の所属する騎士団の強さ、イコール自分の強さの誇示となった時であると。

それは歴史の浅いバッハトマという国家に所属するという自覚でもある。

当然実績のない騎士たちにとっては黒騎士デコースの配下となる証拠の制服は必要であったろう。そういう若い騎士はベテラン騎士からからかわれもしたが、今はほとんどのバッハトマ騎士はその飾り星のマークを付けた騎士服を常時着用するにまでなった。

バッハトマ騎士団の構成は大きく5つの騎士団がある。これらはバッハトマに統合される前のシーブルやベールの自由都市連合などの騎士団がそのままバッハトマ騎士団として再編成されたからである。

騎士団はデコース率いる黒騎士団を筆頭に旧シーブルの山羊座騎士団、射手座騎士団がケサギとカエシによって率いられ、トモエの指揮する黒豹騎士団、若い騎士らで構成されたジィッドらがいる銀騎士団があるが、どの騎士団もデコースが指揮している。これはデコースの黒騎士団が作戦毎に編成を変えているためで、あえて固定の騎士団長などを置かず、指揮官はその時その時デコースの任命で決められている。主にデコースの副官であるゴーンやバギィが指揮している。

こういった不規則編成はバッハトマにもうひとつの軍団、「魔導軍団」があるからでもある。現在この柔軟な指揮系統は非常にうまく働いている。

ゴーン・ホー少将
黒騎士団副団長
Colonel Gone Hor

身長195cm　体重 128kg

13巻においても名前だけ出ているが、バッハトマ筆頭騎士団、黒騎士団の副団長をバギィと共に担当し、実戦ではデコースの側に付き、ノウランのバーガ・ハリを急襲した。

制服はコートタイプで、何種類かあるのだがベテラン騎士たちはこの裾の長い上着とゆったりしたズボンを好むものが多い。バギィも同様だ。腕のアームバンドが副官を示すダブルになっているくらいで他に特別なところはない。
また、持っているガット・ブロウは正式なものではなく先のページにも出ていた星団で最も使われているバルブド社のものである。このあたりは自分の使い慣れた武器にこだわっているのだろう。
バッハトマではまだ日が浅いため「大佐」以上の階級の騎士は少ない。デコースは総指揮官のため階級にこだわってはおらず、一応軍ランクとしてデコースは上級大将なのだが、それ以下となるとバギィとこのゴーンの少将、トモエ、ケサギとカエシの准将くらいである。

バッハトマ・騎士団制服　女子

２列のボタンが目を引く。ショートコートが基本で、ベテランや指揮官たちはロングタイプが多いが、若い騎士が多いバッハトマではこのショートタイプが好まれているようだ。ショートマントは肩の反応式電磁装甲を隠している。ボタンや縁取りも多い派手な制服だが、細身のシルエットと併せて他国と比べると軽くスタイリッシュな制服である。
女性のスカート丈は自由だが、短いスカートが多いのはイメージ的なものがあるのだろう。左腰のスリットからガット・ブロウの帯剣ホルダーを出しているが、左右後方にもスリットがあり、ここにホルダーをセットするようだ。

バッハトマ・騎士団制服　男子

大きく５つの騎士団があるが、どの騎士団も同じ制服である。日が浅いバッハトマではまだ各騎士団の伝統も歴史もないためであろうか？　またデコースの黒騎士団が特別なマークや制服を着けているわけではないので、皆現在は同じ制服である。男性はぴったりとしたズボンとショートブーツである。これもスタイリッシュなイメージだ。大きな襟はハイネック状にも、このように広げることもできる。ナポレオンタイプのボタンは向かって右側が実際のボタンで、左側は飾りである。これは男女とも同じである。
バギィやゴーンのようにベテランで古参というわけでもない騎士たちは皆バッハトマであることを誇示するために制服、正式剣を装備している。これも新興国家ならではの空気だろう。

バッハトマに集まるボルテッツたち

バッハトマには騎士団以外にも魔導軍と呼ばれる戦闘集団がいる。これはバッハトマの中枢のひとり、ビューティー・ベールが総指揮官となって魔導大戦の開幕以前から様々な活動を続けてきた。彼らはベールが支配していたユーコン財団を中心とする「ユーコン経済連合」と呼ばれた自治国家に属していた者たちである。

魔導大戦の開幕後は主宰ボスヤスフォートの力に惹かれ、数多くのボルテッツたちがバッハトマに集まってきている。

ボルテッツたちがこれほど集まってくるのには理由がある。

騎士と比べ、その力は超帝國時代の同じものでありながら光と影のように扱われてきた。騎士が人々から恐れられてはいても国家のために戦うその姿は多くの人々の尊敬を集め、華々しく活躍しているのに比べて、ボルテッツたちは力があっても国家の裏や目立たない情報索敵的な使われ方をしてきた。また一般の人々からは「なんだか気持ち悪いもの」的な見方をされる彼らの立場は非常に微妙である。

ボルテッツが表に立てる場所は限られ、聖宮ラーンや天照家の典星舎に属するということもあるが、その間口は狭く、掟は厳しい。多くのボルテッツにとって自分の力を発揮できる場所はとても少ないのだ。

そういったこともあり、ボスヤスフォート、ビューティー・ベールというブリッツェン・フォースの２大巨頭が支配するバッハトマ魔法帝国は魅力であり、現在も続々とボルテッツやスコーバーが集まってきている。バッハトマの魔導軍に属し、前線に出ることも多く、かなりのボルテッツが戦死しているが、これは騎士だけでなく、一般兵士も同じだ。

戦死もいとわず次々とやってくるボルテッツたち。ブリッツェン・フォースを持つ彼らにとってバッハトマは「母国」である。そう言い切る者の多さがボルテッツたちの置かれている立場を的確に表している。

バッハトマ・魔導軍・皇帝親衛隊

いまだ表に出てこないのが彼ら皇帝親衛隊である。ボスヤスフォートの側近の部隊で、全員がボスヤスフォートに忠誠を誓っているという。そのいで立ちはバッハトマ魔導軍のボルテッツたちとはまったく異なり、流体繊維で作られた独特のローブを着ている。彼らの存在は知られているが、魔導大戦開幕時点でも彼らの姿はなく、見た者はいない。

いったいどこにいるのか、またボスヤスフォートの所在がいつも不明なのは彼らの所在が不明なのと同じく、たえずボスヤスフォートといるからではないのかと言われている。

その力はベールによってブリッツェン・パワーを引き上げられ、もはや人ではないという噂も絶えない。

バッハトマ魔導団
ボルテッツ戦闘服

バッハトマに集まるボルテッツは相当数に上り、騎士団と連携をとって様々な場所で戦っている。主力の「赤星魔導軍」「白星魔導軍」は騎士団と共に前線に投入されている。
他国と比べて桁違いに多いボルテッツたちは騎士団と同じ制服を着用している。
ダブルボタンの上衣は騎士とほぼ同じだが、ボルテッツならではの装備が各所にある。反応式電磁装甲はマントの下に隠され、騎士より回避行動に劣る彼らを様々なものから防護している。
手に持つ杖は自分のブリッツェン・パワーの照準器のようなもので、多くの場合これで間合いや照準を定めているようだ。もちろんベテランの戦闘ボルテッツには必要のないものだが、ガット・ブロウと同じ光学兵器も内蔵しているので、護身用として持ち歩く者が多い。
男性はズボンの上にローブで女性は膨らんだロングスカートである。表に出ることの少ないボルテッツだが、この制服を着込んだボルテッツたちはバッハトマの占領区や本国で頻繁に見かけるようになった。バッハトマでは普通に表に出ても誰も変な目で見ないからである。
この制服は彼らボルテッツにとって、同じバッハトマ騎士の制服よりも意味のあるものなのだ。

アーリィ・ブラスト大佐
黒豹騎士団副官
Colonel Early Blast, Black Puma Commander

身長182cm

なんか、大きく育っちゃいましたというかまだ若いので当然か。とかいってもさっぱりのはずですが、この後の「太陽星団学校図鑑」にご登場なさっているので彼女の素性はそちらから読んでいただいた方がいいかもしれない。
現在、バッハトマの黒豹騎士団を率いているのはトモエだが、ＧＴＭ大隊はこのアーリィが副騎士団長として指揮している。トモエの腹心の部下だが、先輩でもあるトモエと共に開戦前より星団各地から騎士を集め、荒くれ札付きの騎士たちをとりまとめているその力はジィッドを超えるとさえ言われている。
やたらひらひらした上着は騎士戦闘時に目を惑わし、間合いをわからなくするなど、理由はあるが実際に役に立つかは疑問である。そんなことより問題はトモエ様ゆずりのスーパーハイレグ。黒とか色タイツとかではなくもろ肌色、(危なすぎるので厚手のストッキングははいている)というのは、ちらりと、しかしとてつもなく吸引力のあるその場所は男の騎士の目を一瞬でも奪えれば有利になるというなんだかわからない理由もあるかもしれないが、トモエに倣っただけかもしれない。
両手の手甲にあるのは電磁手裏剣の装着ユニット。ウリクルが使っていたものと同じである。それ以外にも各所に様々な武器や装備が隠されている。

物語でも見せてくれるが、その「変位、変化」の攻撃方法は建物や自然を使う空中攻撃と共に多彩で、その大小二刀流から出される「霞切り」と呼ばれる多段ディレィアタックなど、ヨーンとジークは苦戦する。とはいうものの、トモエと違って素直な良い騎士である。ヨーンが使いこなす恐るべき変位攻撃の「飛燕剣」や「ブレイクダウン・タイフォーン」などの剣技を前にしてもひるむどころか「なんて楽しい！」と、強敵との戦いを冷静にかつ臨機応変に対応する彼女もまた優れた騎士である。
現在はバッハトマに属しているとはいえ、彼女を狙う騎士団も多いことだろう。ＧＴＭダシリカというカーバーゲンのバリエーションを持つ。パートナーはモラード公のマルター。博士の新しいファティマである。

ボルテッツ　フ・リエ
Volttets Fou Liee

身長172cm

前から名前の出ているフ・リエ。
まあ、ともかく魔導士と言えばローブ姿というイメージがあるが、誰がそんなもの作るか！という気持ちが大きくボスヤスフォートやペールなど、超ハイテクノロジーの魔法使いを納得させるようなデザインを心がけている。フ・リエももちろん同じイメージである。
基本的に物語中においてはボルテッツなどの魔法使いは騎士の反応速度には太刀打ちできず、もっぱら後方かく乱や味方騎士の補助、諜報活動が主な任務であることに変わりはない。
だが、どこにでも例外はあるのだ。
「ツラック隊」のすぐ後のエピソード「パルスエット」においてヨーンとジークが対峙するのがこのフ・リエである。騎士の中でも天位クラスのヨーンとジークが2人束になってもかなわないフ・リエの強さは天照も認めるところである。ヨーンとジークにとってもこれほど強いボルテッツと戦うのは初めてであろうし、またこれほどのボルテッツと対峙できる機会のある騎士など滅多にいない。そういう意味でヨーンとジークのルミナスコンビの経験は貴重なものとなったことであろう。ボスヤスフォートが天照の主塔玉座に３名で乗り込んだ話は星団でもよく知られているとランドのところでも書いたが、あの戦いでミラージュたちが最終的に玉座を守れたのは天照家であったからである。あれが他の国家であればすべての騎士はなぎ倒され、玉座は蹂躙されているだろう。ミラージュ騎士団は天照家のブリッツェン・フォース「幻影隊」をよく知る者ばかりである。騎士ですら太刀打ちできない強力なボルテッツがいるということや、その戦い方を熟知していたということでもあるのだが、それをわかっていたボスヤスフォートたちは尚強かったということでもある。

GTM アマルカルバリ カイリーダウンBI-2（ブロック2）

GTM Ammarucalvari Block 2

全高 24.5m　自重 225t

魔導大戦でその姿を初めて現した新型ＧＴＭアマルカルバリである。「ツラック隊」にて、いきなり登場してくる。
バンター・フレームＣ・カイリーダウン型ＧＴＭの「ブロック２」である。ＧＴＭガーランド、キアリ・セトメ博士の手になるＧＴＭ。その目的は不明で、ブーレイ傭兵騎士団同様各地に数騎ずつ出没しているという情報がある。
同様な参戦にはコーネラ帝国の新型ＧＴＭ「ＳＢＢ−01・バイ」があるが、こういった形でかなりの国家や開発中のＧＴＭがミノグシアに戦線展開しているものと思われる。

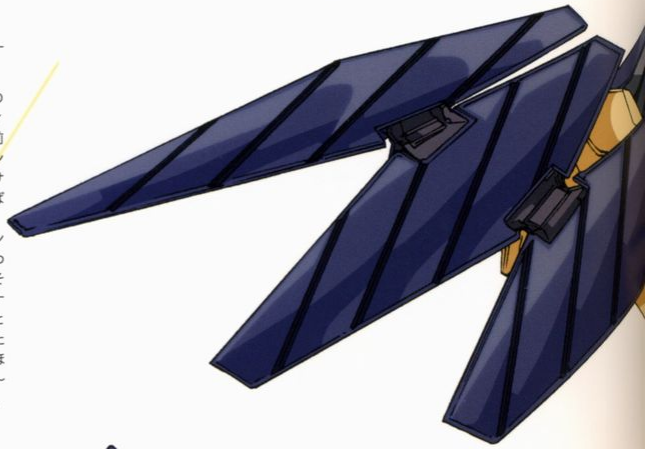
現在完成し、実戦に投入されているアマルカルバリは数騎と言われ、このＧＴＭを旗騎として使うシェン・ラン騎士団となれば搭乗者は団長のアイリーン・ジョルと見られる。とすればパートナーはバランシェ公の「パトラ」であろう。
アマルカルバリの特徴はなんと言ってもその重エンジンから出る熱の処理のパネル装甲である。きれいに並んだそのスリットは衝撃緩和装甲としての性能も非常に優れていると見るガーランドも多い。また頭部のツインホーンは見てのとおり背骨〜竜骨の２対のツインスイングから直接繋がる放熱パーツである。角の基部にはラジエターを兼ねるフィンが並んでいる。セトメ博士はこういった小ロット生産のＧＴＭを作り出すガーランドで、量産前提ではないＧＴＭを多数設計している。だが、アマルカルバリを含むＧＴＭカイリーダウンはその優秀な設計で後の世もライセンス生産され長く使われた。バンター・フレームのＧＴＭで肘ツインスイングなどほぼボルドックスと同じである。
まったくの新型ＧＴＭなので過去のデータと付き合わせても該当するものはございません。

ファティマ・パトラ

Fatima Patra

身長158cm　体重42kg

ようやく登場。サロメの妹、クーンの姉にあたる。クーンより前のファティマということで、バランシェの独立前のファティマである。45名のバランシェファティマには入っていないが、サロメ同様バランシェファティマと呼ばれている。
何かのイベントだったか、女性ファンの方に「パトラ描いて下さい！」と言われ、「…なんでしたっけ？？？それ？？」ざわざわざわ…。やっぱりナガノは作るそばから忘れてるんだ。と思われたことでしょう！ええ！まったく忘れておりましたわ！！！おほほほほ！！！くやし〜〜〜！きぃ〜〜〜っ！！と猛省し、ご登場となります。リベンジ！！！



ジョーカー太陽星団グルメリポート

1.戦線での食事の重要性

戦線にある兵士たちに与えられる食事は、基本「ごちそう」ばかり。さらに騎士団ともなればなおさらだ。なぜならと問うのも愚問だが、まず騎士はひとつの自治体の統治者に値する地位をひとりひとりがもっているのだから、食事にもかなりのコストをかけられる。もちろん、「ごちそう」の定義はさまざまだが、かつ、各騎士団とも王侯貴族に供される宮廷料理人よりもすぐれた騎士団専用の料理人を専属させ、最強至高の食卓をつくりあげているのだ。また、兵士たちの働き如何でその国の命運、時局の趨勢が決まることを鑑み、各国各騎士団、戦略本部はこれを重要な戦略のひとつと認識している。士気を高める効果を最大限に考えないと、折角の作戦が空腹でぼんやりした兵士ひとりの凡ミスによって台なし、てなことを招いてしまう。

供される食事は、各騎士団の所属国家の方針や現状も反映するし、騎士団長ほか実力者たちの好みによってわがまま勝手に決められている部分も大きいので、さまざまなことが見て取れる騎士団のメニューは極秘扱いだ。騎士団の食事には、各地で調達できる、または支配地からの略奪で最大限の材料が集められ、あるいは、星間を越えてまで取り寄せられる。こだわりの強い騎士であれば、騎士団付きの料理人に飽き足らず、自分専用の料理人を帯同し自分好みの食事を用意させている者までいる。騎士の装備に匹敵するほどの力がかけられているのである。

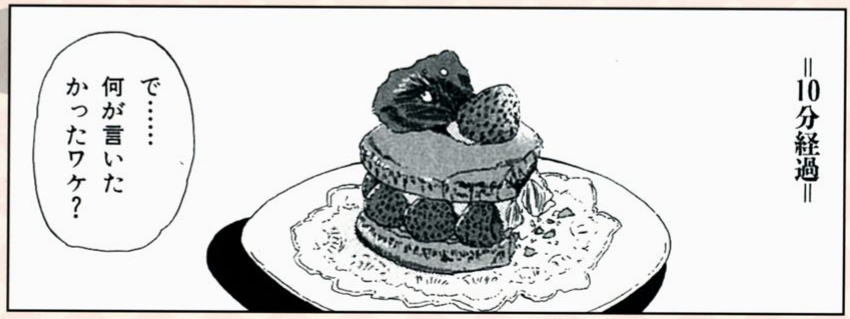
逆に、騎士の食事を見れば、その騎士団の基本的な方向性や財政状況、国における立場、あるいは規律や戦略なども見えてきてしまう。どちらも勝つための重要な要素のひとつとして、栄養バランスはもちろん、戦闘意欲を高めるためには、旬の最高の素材を取り入れることや、その土地土地の名産を使ったり、逆に祖国の懐かしい味を再現したりと、さまざまな工夫がなされる。すべては騎士の戦意を高め、最高のパフォーマンスを得るためだ。装備にかける金はなくとも食事にかける金は惜しまない、という騎士団の見栄もないとは言えないが、過酷な戦線において、心身ともに健康な状態を保つための工夫がなされている。「武士は食わねど高楊枝」というのは長い間戦争どころか戦争の理由となる外交そのものがなく平和が続いた国だけで通用することなのである。事実、ヨーロッパの軍でも海沿い出身の部隊だけは魚料理主体の糧食が支給されていたりする。

とはいえ、国、騎士団それぞれによって食糧事情もまた食事に対する概念もまったく違う。各個、そこに至る理由は必然でもあり蓋然でもあり、その事情もまた個別なのである。各騎士団にとって、食事・食糧とはどのような存在なのか。F.S.S.に登場した食にまつわるエピソードなどから分析してみよう。

2.美食帝国・フィルモア

星団三大美食のひとつといわれるフィルモア料理の起源は、AD世紀、花の詩女の時代にさかのぼる。覇権を狙う思惑の中、その類まれなる力をもってフィルモア建国に導いた建国王・フィルモアIの時代には、既にその土台は築かれていた。フィルモアIの祖国・ドナウ帝国の、悪いところは置き去り、よいと思うところはすべて持ち込んだのである。寒冷だが広大な土地をもつカラミティ・ゴーダースの大ショルティ大陸で、どの国家よりも先駆けて戦艦に巨大な食堂と調理場を備え、調理専門の武官(軍属ではなく)を初めておいたのもドナウ帝国であった。最高の装備を最高の兵力で操り圧倒的に勝つのが彼らのめざすところであり、どうしたらいつもその状態を保てるのかを考えた結果、戦場が兵士にとって最高の環境となるように整えるべきだという結論に至り、食糧調達も料理法の研究もすべて軍備増強のため。その結果として、美食を極めることになったのである。具体的な食事の描かれた場面は少ないが、フィルモア騎士団では数にものを言わせ、戦闘中であっても交代で食事をとるようなシフトをしいている。騎士はもちろん、下っ端の1兵卒に至るまで、食事はいつなんどきでも摂らなければならない。しかも、好きなものを好きなだけ、ゆっくりと味

ドナウ帝国の食事は基本的にトルコと東アジアが基本となっている。世界3大料理のトルコ料理がドナウ・フィルモアにふさわしいと思ったからだ。ただ、料理にこだわりすぎる国家は戦争に弱いという歴史的事実もあるためにフィルモアではあくまで「ほどほどに」ということである。こだわる者もいればさっぱりこだわらない者もいるし、食事など人間を動かすための燃料にすぎないのだから味などどうでもいいという国家もある。ただ、そういった国家はなぜかスイーツがはなはだしく美味だったりするのでこだわるところが違うのだろう。ナイアスのスイーツへのこだわりもそういう感じなのかもしれない。90年代は日本に世界最高のレストラン「タイユバン・ロブション」(今はジョエル・ロブション)がロブション氏ごとやって来て、氏の料理を食べたければ恵比寿に来るしかないので世界中から美食家がやって来た。ほぼ同時にスイーツの世界最高峰であるピエール・エルメ氏がニュー・オータニに自分の店を開店。作りたての「イスパハン」が食べられるようになった。さらに「ポール・ボキューズ」「アラン・デュカス」もあり、世界最高のフランス料理は東京に全てあると言っても過言ではない。恐ろしい時代である。

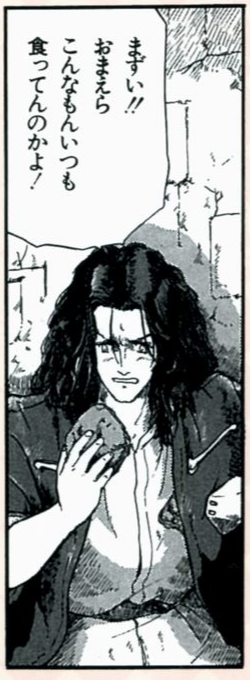


イスパハン(単行本12巻・P108／リブート7巻・P354)

わうことが義務付けられている。こうなると、食うために戦うのだか、戦うために食うのだかわかったもんではないが、これもまたフィルモアならではの美学なのだと言える。

例としては極端だが、ノイエ・シルチス教導騎士団では、３０３１年のナカカラ戦闘の際、最前線にもかかわらず、カイエンを思ってワンワン泣いているだだっこ隊長ナイアスをなだめるため、隊員たちはとっておきのお取り寄せスイーツ、薔薇の香りの巨大なマカロンのケーキ・イスパハン（銀河系太陽系地球フランスのパティシエ、ピエール・エルメのスペシャリテ。地球暦ＡＤ１９９８年に同日本のホテルニューオオタニに１号店が開かれたスイーツ・ブティック、ピエール・エルメ・パリの看板メニューであるレシピを再現したものと思われる）を差し出した。冷蔵便で前線に取り寄せた代物である。希望の食材が手に入るということは、補給部隊がいかに自由に動けているかを示すものであり、最終的にはこれが勝敗を分ける決め手ともなる。さらに前線にいる騎士の疲労を回復するのに、スイーツの存在は欠かせない。スイーツひとつも砲弾ひとつも、前線の騎士たちが要求するのであれば、それは等しい価値の戦略物資と言える。前線の兵士には駄菓子が必ず供給されている。

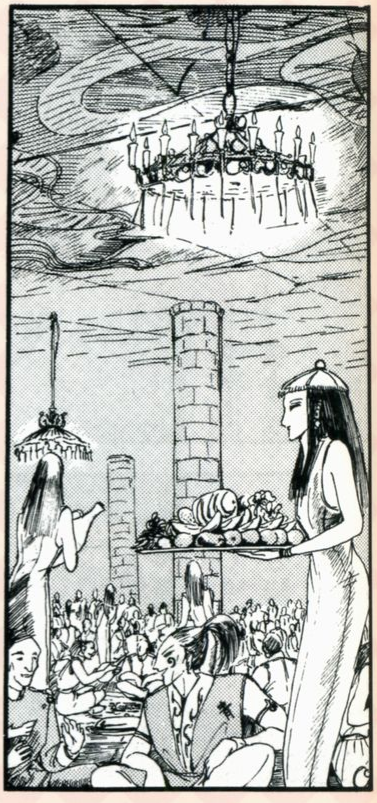
厳しい気候を乗り越える力をもつために、軍備増強に力を注いだ結論として導かれた教訓は、「腹が減っては戦ができぬ」。フィルモアは最もそれを体感し、実現している国なのである。２９８９年、ボォスのウースー・ツァイハイ自治区でＡ．Ｔ．たちが戦闘を続けるゲリラの村では、カイエンが思わず「まずい」と口走る質素なサンドイッチが子供たちにとっては当たり前の、しかもわずかな量しか口に入らない唯一の食事であった。満腹であれば必ず勝てるわけではないが、食べ物も満足に手に入らない状況での戦闘は苦しい。美食かどうか以前に、燃料としての食糧確保は最優先事項と言える。



ツァイハイ自治区のサンドイッチ
（単行本4巻・P85／リブート3巻・P103）

豪華絢爛な食事だけが良いわけはない。質素で粗末な食事にこそ本当のおいしさがあると僕は思っている。
この当時から東アジアの一般的な食事には興味津々でこのカイエンの食べているピタはたぶん野菜だけのサンドイッチ。カイエンはまずいとか大変に失礼なことを言っているが剣聖であっても味覚の方は並以下なのだろう。ミースの母国でもあるツァイハイの食事は今でもミースはよく食べているはずである。
堅いピタは手で細かく割ってお茶の中に入れてふやかして食べると大変においしい。

3.饗宴すれどもハグーダは貧し



ハグーダの宴席
（単行本2巻・P90／リブート2巻・P80）

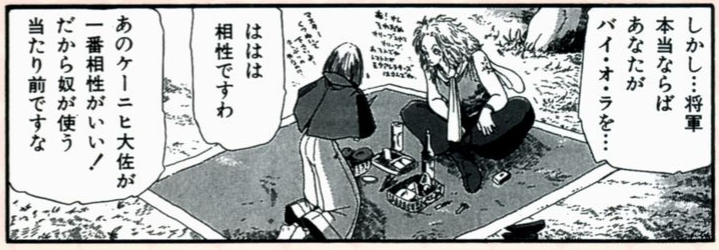
ツァイハイのゲリラ同様、食うに困って戦争を始める国もある。

２９８９年、ブーレイをはじめ各地から集めた傭兵騎士たちを使いコーラス侵攻を目論んでいたハグーダのアルメメイオスは、傭兵たちをもてなす宴会を連日設け、来るべき戦闘に備えていた。その食卓を見るとフルーツ、肉、ワインなど、ボリュームはあるが比較的シンプルな料理ばかり。しかしむくつけき傭兵騎士団にフルーツとは!?　これはアルメメイオスの好みもあるのだろうが、第一に惑星全体が温暖で、赤道付近は亜熱帯、砂漠地帯も多いジュノーのこと、フルーツは安価に手に入る食材として、宴会のにぎやかしとして飾り付けられることが常だったのだ。ハグーダは裕福であったか。答えはノー。資源に乏しく古い慣習にしばられた小国であるハグーダの主産業は農業である。とにかくこのままではまずいと思いつつ、いずれ新しい産業も興すことのできなかったアルメメイオスは慧眼なれど聡明ではなかった。大国コーラスに戦いを挑むに至っては、窮鼠猫を噛むのことわざ通り、ともかくも必死の覚悟だったわけである。

しかし、ハグーダにとっては精一杯のもてなしであっても、この程度の料理では舌の肥えた傭兵騎士団を掌握することなど、到底できなかったであろう。フィルモア、ハスハ、クバルカンという大国の後ろ盾がなければ始められなかった戦争なのである。傭兵たちを動かしたのは、ハグーダが大国から借り入れた軍資金にほかならない。

南国ということもあって果物主体に床で食べるというイメージがハグーダにはあった。ともかくコーラスもそうだが食事シーンは椅子とテーブルという図式をなんとしても外したくて、畳に上がるとか、床で座って宴会、テーブルなしとかいろいろと考えているのである。ただこのシーン、フルーツが出ているので主菜は終わった後と見ていいのでは。

4. 傭兵騎士団は食通揃い

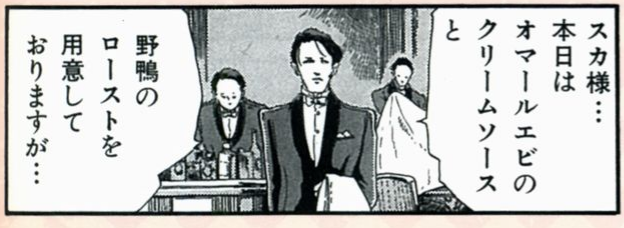


バイドパイパーの朝食（単行本7巻・P64、65／リブート4巻・P254、255）

では、傭兵騎士団はなぜ舌が肥えているか。勝つために雇われる傭兵たちには、自前の騎士団よりも更なる待遇で食事などが給される。装備類ももちろん望めば用意されるのだが、その辺りも自前を持っていないといざというときに自立して戦えなくなってしまうため、傭兵騎士団を装備の優遇などで引き寄せておくことはできず、雇う側ができることは「うまい飯でも食わせておけー」てなぐらいなのである。つまり「胃袋をつかもうとする」のである。さらに傭兵騎士団は各惑星、さまざまな国と契約して転戦するため、結果、星団各地の食事を食べ歩いていることになる。よりどころのない傭兵騎士団は、めしまずでは戦う気すら起きないのだ。残念！アルメイオス…。

2992年のカステポーでパイドパイパーのイケメンおちゃらけトリオの朝食を見ると、マエッセンはピーナツバターサンド、ケルシャーはTEX MEXのタコス、ケーニヒはオリーブとモツァレラチーズのサンドイッチ。それぞれのファティマ、プーウラー、ビルマ、オキストロがマスター好みに調理したもの。マスターが最上の状況でいられるようにプログラムされているファティマは栄養状況や体調に合わせたベストの献立を考えるのもお手の物。普通の騎士団ではそういった調理内容までオーダーすることもできるが、傭兵騎士団の好みに合わせて日々料理を供するのは至難の業であり、騎士の側でも口に合わないものを出されるくらいなら、食材だけ提供してくれればあとは自分のファティマに作らせる方がマシなのである。

傭兵ではないが同じく雇われの立場で転々としたメイユ・スカもまた、雇い主に一流の調理人を雇わせ、最高の食材をもって、いつなんどきでも、自分の食べたいものをリクエストして悦に入っている。同じく2992年のカステポー、シーブルの雇われ将軍として戦地に立ったスカのある日のランチはオマール海老のクリームソースと野鴨のローストであり、どんなに戦局が押し迫っていてもティータイムは欠かせない。これは、スカの見栄っぱりな性格に由来した見当はずれの行動だが、スカとて、ただ空気が読めないだけではない。彼もまた戦地に生きる者であり、そこにしか生きられないのである。飄々としてずる賢く見えるスカだが、いつ死んでもおかしくないという危機感と覚悟はもっており、その気持ちを美食でまぎらわしているのである。典型的なぜいたくをすることで雇い主や部下に自己主張し、自分が今日も生きている証明を密かに確かめているのだ。



スカの優雅なランチ（単行本7巻・P25、66／リブート4巻・P199、256）

時代の流行がそこかしこに入っております。テクスメクスはこの当時クラブシーンやカフェブームで一気に一般的になりました。が、僕はあんまり好きではない。のだ。タコスとかな。タコライスは好きだけどさ。で、スカとブラフォードの料理は皮肉。どう考えたって京の作る、土の中で蒸し焼きにした鴨料理の方が数億倍おいしいに決まっているのだ。

これなー、言われるまでシテのケーキを登場させていたのを忘れてましたがな。シテは西麻布にあったフランス料理のビストロ（大衆料理）でそれまで日本ではフランス料理と言えば高級ホテルやレストランで食べるコースでコンソメスープから始まってフィレステーキで終わるという１万円コースが主力。「フランス料理ってこういうもの？」と味も含めて疑問視していた80年代初頭。その時に連れられていったビストロ・ド・ラ・シテというお店に出会ったのが運の尽き。

気さくなオーナーや笑顔のシェフに緊張しながらも運ばれてきたビスクの味に「なんじゃこらあああああ」こんな味知らなかった。このスープにノックダウンされ、以後シテに通っておりました。その後いろいろなフランス料理屋さんに行くたびにメインはほぼジビエ。イノシシとか鹿とかウズラとか、ともかくチャレンジあるのみ。知らない料理を食べてみるということを教えてくれたのもこのお店でした。

ビストロ・ド・ラ・シテのレアチーズケーキ
（単行本1巻・P104、リブート1巻・P102）

ユーバー公の貧相な食事（単行本1巻・P59、リブート1巻・P51）

5. お飾り騎士は腹も減らない？ユーバー邸

対して、食事にこだわりの薄い例として挙げられるのが、２９８８年にラキシスのお披露目会場となったアドラー星・トラン連邦の自由都市バストーニュのユーバー大公邸。フアティマお披露目の場であるこの城に所属するのは騎士団とは言えないが、いわばユーバー大公の私兵であり、もちろん何人もの傭兵騎士を常時雇っている。その中のひとりがデコース・ワイズメルだったわけだ。

だがこれは、ユーバーが見栄を張るために集めた騎士であり所詮は飾り物だ。デコースとユーバーの甥と称するトローラらがユーバーに仕えることになった経緯は不明だが、戦闘経験もないユーバーが彼らを選んだのには、どこかユーバーの虚栄心をくすぐるところがあったのだろう。あとは適当に自分の言うことを聞いてくれればいいくらいに思っている。食べる物も適当で、騎士、ファティマ、ＡＦ・ガーランド（ファティマ・マイト）などをコレクション扱いで集めるのが趣味であるユーバーはあまり味にこだわりがないというか、ケチで味オンチだ。ワインとパンの質素な食事でも、腹さえふくれれば満足なのである。

もちろん、そこに集まる騎士やガーランドは雇われているとはいえ自分たちの食事は自由に調達することができたので、城内で供されるやる気ない味気ない食事より、外からテイクアウトやお取り寄せした自分好みのものを自由に食べている。当時、ガーランドたちの間で特に流行っていたのは、宇宙各地から取り寄せた古今東西のお取り寄せ、とりわけスイーツを食べ比べること。濃厚な味わいのレアチーズケーキ（銀河系太陽系地球日本の西麻布で地球暦ＡＤ１９７３年に創業したカジュアルで本格的なフレンチ食堂＝ビストロの草分け、ビストロ・ド・ラ・シテのレシピ。このケーキのレシピはＡＤ１９８５年くらいに採用されていたバージョンである）などで、忙しくて徹夜になったり外に出られないで「ウガーっ」となった時の気晴らしをしていたのである（どこかのセンセイのようである）。

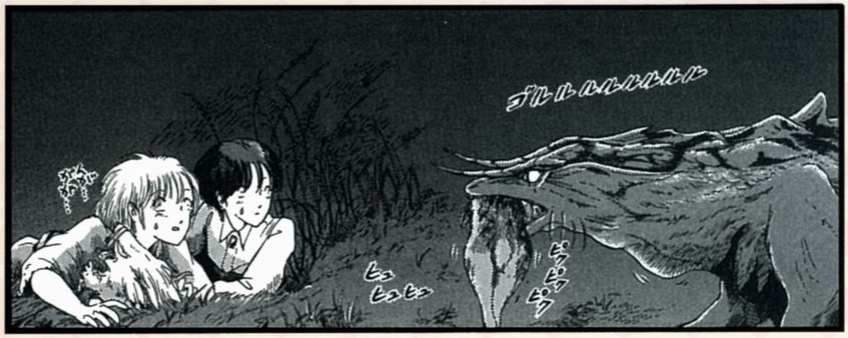
6.清貧な食材王国ミノグシア

カステポーの大地にかつてすえぞうが降り立ったとき、貢ぎ物をくわえた恐竜たちが列をなし、次々と捧げていった。まああれをナマのままいただくのはちょっと難なのであるが、調理すれば最高級食材になる。鳥やウサギやカンガルーみたいなもんやら、おいしそうな蛋白源が豊富、また、野菜や果物など自然に生えているものも多種多様。もとより、周辺惑星の列強国から資源調達のための植民惑星として利用され続けていた歴史には、この星がいかに平和で自然に富み恵まれていたかがうかがわれる。であるうえに、花の詩女の昔には、種を蒔いて育てることには神聖な意味も見いだされた。魔導大戦に悲壮感が少ないのは、食糧に困らないミノグシアが戦場になっていたことも理由となるであろう。

その割に、ハスハの食生活は豊かそうには見えない。これには、清貧をよしとし、フィルモアのような「食＝力」という図式を否定する信念も存在しているが、実はそんなことよりもっと重要なことがある。はっきり言って、「素材が旨い！」。調理なんかなんもしなくても、野菜、肉、果物、そのまんま食えばもう超美味でござりますなのだ。そこに、詩女ラーンの好物でもあったうどんとかパンとか饅頭とか粉モノ炭水化物（小麦粉と水がうまいからこれも激ウマ！）が加われば、最強、鬼に金棒である。

問題点があるとすれば、海が遠い内陸では海産物が入手しにくいこと、飲酒人口が非常に多いことだろう。美しい自然が、美しい酒をつくる。肥沃な大地とうまい水、とくれば、五穀豊穣、かの昔から酒造りが盛んであり、祭りでもあった日にゃ、ふるまい酒でただ飲みは常識。コレットもムグミカもヤーボもとんでもない酒豪なのだが、実はバルンガなんかが下戸で苦労している、てな噂もある（本当）。ラーン教導学院に星団各国から留学するボルテッツ、スコーパーたちも、ブリッツェン・フォースだけではなく、酒も覚えて卒業していく。尚、飲酒中のグリント・ツヴィンゲン使用は固く禁じられており、見つかったら即退学という厳しい規則。超越した力をもった生徒たちだけに、どえらいことが起きてしまうからだ。卒業間際など、教官たちは交代で見回りをし、問題が起きるのを必死で防いでいるらしい。

考えてみれば星団各国の料理とかイメージされる味というのは「ジョーカー太陽星団学校案内」の各キャラクターがそれなりの自国をイメージとする料理を「好きな食べ物」として挙げていた。今回収録キャラクターが倍以上になっているので、各国家の食べ物の趣向はもっとわかりやすくなっているはずである。



カステポー中原・恐竜の貢ぎ物（単行本7巻・P146／リブート4巻・P352）

詩女ラーンの都行きにはおいしそうな粉モノが（単行本13巻・P115）

7.謎?なぞ?ナゾ?バッハトマ

同じくボオスにあるはずのバッハトマ魔導帝国だが、その文化や暮らしぶりなどはまったくの謎である。そもそも、国家として人民を有するものなのか。もともとはシープル国であったわけなのだが、元の文化や住民は、はたしてどうなったのか？ボスヤスフォートが興した国であり、デコースやケサギ、カエシ、バギィ、ジィッドなど、明らかに建国後に集められた強力かつ異端の騎士たちであって、その性質は傭兵騎士団に近いと思われる。とりあえず、デコースはミネラルウォーター飲んでたなー、ってくらいで、もしかしたら食事などとらなくても平気な魔法がかかっているのかもしれない？　謎を探るカギは、最弱騎士、アララギ・ハイトにありそうだ。

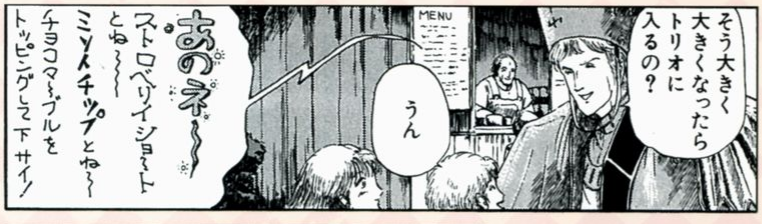
実際バッハトマがどういう食事をしているのかはまだ出てきていないのでコメントのしようもございませんが、枢軸の主催国でもあり多くの国家を接待することも多いでしょうから特徴はなくとも星団各地の美味と言われる料理が集まっているのではないかと。接待は自分たちが美味しいと思うものではなく、相手が美味しいと思っている料理を出すのが基本でございますから。雑多ではあるけれど適当ではないというイメージではないかと。でも間違いなくデコースは美食家。

UNSENのミネラルウォーター（単行本13巻・P27）

ミノグシアほどではないが資源に満ちており、恵まれた国家と言えるのが、ジュノー星ロンド大陸にある大国、コーラス王朝。亜熱帯気候であり、温暖で過ごしやすいコーラスは、すぐれた軍隊をもつにもかかわらず他国へ侵攻したことがない平和国家であり、農作の豊かな国勢である。気候が穏やかで人間が暮らしやすい土地柄なのだ。星団暦2900年代にまだ国土の80％が熱帯雨林であったということも、言い換えれば無理な開墾や開拓をせずとも繁栄して暮らしていたということである。しかし、未開発の土地が多いからといって科学力などに劣っているかというとそんなことはない。ジ・エンドレスに象徴されるSRシリーズのGTMは、維持するだけでも相当の技術力とエネルギーを必要とする。単に住みやすい気候だからと言って国が富むわけでもなく、歴史に裏打ちされた国家の礎であったり、政治の巧みさによって、国の舵取りは大きく変わるのだ。同じジュノーにあるハグーダが貧しい国家であることからもわかるように、コーラスが豊かであるのは、豊かであり続ける努力を続けていたからなのである。

食事の話に戻すと、コーラスも食材が優良で豊富なため、肉類や野菜、フルーツ、魚介類などをシンプルに調理した食事が主流である。首都近辺であっても、ヤギやブタなどの食用家畜を飼って、食材を完全自家調達している家も多い。また、暑さに負けないため、食欲を促し、発汗を促進する香辛料の使い方は発達しており、炒めものや煮込み料理もスパイシーな味のものがスタンダードである。家や店は、風通しのよいオープンな作りとなり、首都・ヤースのような人口の多い地域では屋台を店構えとした露店商売が盛んであった。食べ物屋だけではなく、衣服や雑貨なども売るバザールがそこかしこに形成され、現地の生活の中心として役立つのみでなく、観光の目玉としても多くの人を集めている。騎士団の食事も、手早く食べられて、食欲をそそるスパイシーな肉料理や麺類などで、他の国家に比べ、特別に気を遣っている度合いは低い。これは、コーラスの騎士団が、少なくとも魔導大戦以前はストレスの少ない環境だったことが理由であり、騎士、兵士たちも平常通りの生活を望んでいた。

さて、暑い中、辛い料理を食べた後に欲しくなるのが冷たくて甘いもの。屋台の中にはデザートの専門店も多く、特に人気なのは、フローズンヨーグルトやアイスクリーム、フルーツかき氷などの冷菓、またタピオカ入りミルクティーやひやしあめなど、冷たくて甘いドリンクである。「山盛りのフローズンヨーグルトにたっぷりのトッピング」という言葉は、コーラスでは「満ち足りている」ことを言い表わす慣用句となった。ちなみにコーラスの戦艦やドーリーには、アイスクリーム製造機が標準装備されている。



コーラスのフローズンヨーグルト屋台（単行本3巻・P30、リブート2巻・P160）

8.コーラスは暑いよ！

また80年代当時の話になりますが、この頃はやっていたのはジュリアナ東京のセンス踊りもありましたが、青山の交差点にできた「ホブソンズ」を筆頭に一大アイスクリームブームが日本を覆っておりました。で、流行のアイスなんざ出すのは嫌だったのでフローズンヨーグルトと相成ったわけでございます。まあ冷たいもので好きなのは「ぜんざい」なんですが、これは沖縄のぜんざいね。氷小豆です。

デルタ・ベルン全域に47国家・72領地をもち、他星統治領4という星団最大国家A.K.D.。その中核をなしグリース東方10か国を束ねるグリース王国といえば、文化の交流地であり和洋混交なんでもあり、さすが、アマテラスのお膝元である。魔導産業や超科学産業にもすぐれた軍事国家であることから、凝った調理法はすなわちある種の権勢を競うための象徴として発展してきた。ミノグシアとは真逆であり、フィルモアのあり方とも発展の方向性は違う。要するに、いろいろ力があるから、料理だったりにも力を凝らしちゃおうぜ、てなバカげた風潮も、科学の発展に寄与しているし、内戦や反乱の抑止ともなっている。

A.K.D.全体の印象としては、衣食住ともに洋風好みの国家が多い。クリスマス時期にはプディングなんぞも食する様子で、これも権力と食とを直結させた結果、各国が競ってたどり着いた方向性であるが、もとをたどれば文化、芸術のリーダーとして小国ながらも特別な存在であったバランシェのフェイツ公国への憧れが発端である。

一方で、アイシャ、ちゃあの育ったかつてのコーダンテ大公領などは、衣住は洋風なのに食のみが和風の米文化であったりする。

実はA.K.D.の主産業のひとつに米作があるが、もとはバイオエネルギーの開発のためであった。しかし、食ったらやっぱうめー、ってことで、本末転倒、いつしか「うまい米作り」に星団最強最先端の科学力が投入されている。こうして、炭水化物に偏った農業の発展が遂げられ、餅やうどん、丼もの、ブリ大根などの「ご飯がうめー」料理が発展し、峡楼妓が火鉢で餅を焼いたり、ログナーさんの好物も豆大福と相成るわけである。

言うまでもないが、ミラージュ騎士団は騎士団とは名ばかりの個人戦のかたまりであるため、集団としての食の特徴は実は見受けられない。ただひたすらに、個人の食欲に忠実に、それぞれがそのときどきで自分の好きなものを用意して食いまくるのである。これもまた、ミラージュの強さを保つひとつの要素なのかもしれない。もちろん、ラキシスが嫁に入ってから、この大食漢かつ食の好奇心魔王のお陰でさらなる発達を遂げたのはさらにさらに言うまでもない。

スパークの得意料理？　ブリ大根（単行本10巻・P194、リブート6巻・P390）

スパークが持っているのが出刃包丁と刺身包丁なのでこのブリはお刺身とブリ大根になる予定だったわけです。料理人の方からすれば包丁を武器に使うなど怒髪天を突くお怒りでしょう。申し訳ありません。漫画の演出上平にご容赦を。でで、でも、刀鍛冶の方々は包丁も作ってたわけだし……。つーことで天照以下、お餅は好物の模様。ログナーが食い損ねたのは京都出町柳の「出町ふたばの豆餅」。そら怒る！これ食い損ねたら誰だって怒る。

9.餅とミラージュ

峡楼妓が火鉢で焼いた砂糖醤油餅（単行本12巻・P158、リブート7巻・P412）

ボスやんと決戦の最中も豆大福を気にするログナー（単行本 10巻・P206、リブート6巻・P404）

扉ではアマテラスとラキシスも（リブート6巻・P115）

騎士団の食卓

10. 番外：食はファティマにあり

モラード邸でのピクニックランチ（単行本2巻・P65、リブート2巻・P51）

バラッティが出してくれた紅茶とお菓子
（こちらはカイエンに出されたもの）
（単行本4巻・P159、リブート3巻・P187）

エストたちファティマのおもてなしディナー
（単行本13巻・P46）

バラッティが出したのはイタリア、バラッティのチョコレートというダジャレです。バランシェ家の食事は基本世紀末ロンドンの食文化ですね。ただファティマの味覚は人よりも優れているというわけではないので人間と同じくどういうものを食べてきたか、どれほどの味を経験してきたかで味覚が鍛えられるので、やはりマスター次第ということでもありますね。なので前にも言いましたが、恋人や奥様には絶えずいろいろなものを食べさせてあげるとあら不思議！家庭料理がどんどん美味しくなっていきます。

ちゃあを幸せにしたしょうが入りプディング
（単行本12巻・P247、リブート7巻・P499）

騎士団にとっての食事のあり方を探るにあたり、ガーランド、特にAF・ガーランドの食卓は見逃せない。単に、なぜだかたくさん描かれてるってこともあるのだが、ではなぜ、ガーランドの私邸、研究所などで食事のシーンが多いのか。

星団暦2957年、カラミティ・ゴーダースのマルタラにあったモラード博士の別邸では、お庭にテーブルと椅子を並べて、パンにサラダにシチューと、いたって素朴でざっくりした料理だが食欲をそそる皿を並べてピクニックランチとしゃれ込んでいる。この時、コーラス3世にはウリクルとの出会い、30年後の悲劇の因果となるラルゴ・ケンタウリとの因縁がめぐり始めるのだが、それはまた別のお話として、モラードには「食を楽しむ」という強い意志が感じられる。とは言え、自分で料理をしたり献立を考えるということもなさそうだ。そういえば、魔導大戦真っ只中の3031年、ボォス・イーストハスハのミース・バランシェ邸で、いちばんはりきって料理をつくっていたのはエストだったなぁ。ミースやモラード、ジンクたちガーランドの好みや指示ではなく、エストや他のファティマたち、ソナー、アルファ、白桃、シュミレが、率先して料理を作っており、ある日のメニューは「鹿肉のロースト　はちみつがけ、ゆでたカブ、山ウズラのグリル、ベイクドトマト、インカのめざめオリーブオイル炒め」と、凝っていながらも素朴な味わいがあり、家庭の暖かみも感じられるごちそうだ。もうひとりの主要ガーランド、コークス博士の研究所をカイエンが訪れた2989年、アウクソーの「治療」についてカイエンとコークスが話している間、心細く待っているミースを、バラッティは紅茶とお茶菓子でもてなす。

そう、すべてはファティマ、なのだ。ファティマたちは張り切って料理を作り、パートナーとなった騎士をはじめ、親でもあるガーランド、その周囲の人たちを喜ばせようとする。マスターに対してファティマたちがもっているのは、服従でも忠誠でもなく「もてなし」の心だったのだ。どうやったらもてなすことができるか、そうだ、おいしい料理を作ったら喜んでくれるに違いない、ってファティマたちが考えていることは、前述のパイドパイパーのファティマたちでも示されている。

余談であるが、クローム・バランシェ邸でちゃあがアルバイトをしていた3020年頃の冬、ちゃあの小さな楽しみであったしょうが入りプディングやラザニアのボローニャソース　チーズのせなども、ウッドさんが用意してくれたように描かれているが、暗躍しているのはエミリィことヒュートランなのであった…との説もある。ちゃあの好みを演算したエミリィは、彼女が幸せになるメニューを解析し、それをウッドさんに用意してもらい、陰からこっそり、ちゃあのほくほく顔を見て喜んでいたというのが真相であるらしい（しかも、自分の手柄だと気づいてもらえないことに至上の喜びを感じるエミリィであった……!?）。

デルタ・ベルン星　グリース王立　内宮高等学校

デルタ・ベルン星　天照家　典星舎

デルタ・ベルン星　フェイツ公国　ルミナス学園

デルタ・ベルン星　ガス・ガル連邦　パライア高等学校

アドラー星　トラン連邦　バルチック・アカデミー

アドラー星　バキン・ラカン帝国　騎士高等学校ベイ・ポイント

カラミティ星　フィルモア帝国　帝国近衛兵学校

カラミティ星　フィルモア帝国　帝都デュアンス都立高等学校

ジュノー星　コーラス王朝　ウィンド高等学校

ボォス星　ミノグシア連合　ハスハント国立スバース宮殿女学院

ボォス星　ミノグシア連合　旧ハスハント国立ベイジ高等学校

ボォス星　聖宮ラーン　アトール教導学院

付録

MAMORU NAGANO'S

F.S.S. SCHOOL DESIGNS

ジョーカー太陽星団学校案内

2016追加補強版

ジョーカー太陽星団の教育

教育システム

ジョーカーの学校は地球の小、中、高、大学とほとんど同様と考えてもらってかまわない。但し、ジョーカー太陽星団の人々は我々の2、3倍の寿命をもっているため、人々の学業にかかる時間も期間も長く、おおよそ25年もの歳月をかけて修了となる。また、日本とは違って各学業課程に決まった修士期間というものはなく、個人の都合に合わせていつからでも入学が可能である。また、飛び級やスキップもごくふつうに行なわれている。小学生が高校や大学の試験を受けて合格すれば途中の中学校課程を飛ばしてもかまわない。基本的に小学校、中学校は基礎レベルの学校で、高等学校がより仔細に各教科を勉強する場所であり、教育はこの高等学校で修了する。

大学は地球同様、各専門家の育成と、自らその学問、研究をするところで、大学とは勉強を教えてもらうところではなく、知識を磨き研究するための機関である。

小学校は国家によって異なるがだいたい8年の低学年期間と同じく8年の高学年期間の2期に分けられ、合計16年の小学校となる。中学校は8年、高校は8年で、この間、約3年の自由習得期間があり、専門学校などに短期間入り見聞を広めることもできる。通常10歳の子供が小学校に入り、高校まで32年間の学業期間がある。最も速く卒業すると42～43歳ということだが、だいたい50歳くらいで高校を卒業するのが普通である。

この後、国家によっては徴兵や自由期間が置かれ、10年間の大学がある。しかし、大学に入るのは日本のような高校を出てすぐというのは全体の3割くらいで、70～80歳くらいまでに大学を卒業するというのが普通だ。第1巻でソープの言った109歳というのは22～24歳と考えてもらってかまわないだろう。

騎士学校～見習い騎士たちの教育

物語に登場する多くのキャラクターは騎士であることが多いため、騎士を育成教育する特殊な学校に入ることになる。

これら騎士の育成教育と軍人の育成を合わせた学校を「兵学校」という。兵学校とは一般的に聞き慣れない言葉だが、一般兵士の学校ではなく、将校や参謀を養成する軍士官学校のことである。

また、騎士はその特殊な立場から、通常の学校に入学することはかなり難しく、本人が望んだとしても、なかなか普通の学校には入学させてもらえない。これは、騎士という国家のための戦闘を行なうことが義務とされる人間だからである。

兵学校や騎士学校は通常の高等教育と大学レベルの基礎学科の他に、戦術戦略、さらに将校以上の立ち回りと国際的な公の場において恥ずかしくない教養を徹底的にたたき込まれる。しかし、すべての騎士がこういった専門の教育機関出身というわけではなく、堅苦しい基礎教育をいやがるものも多いし、学校もそこそこに騎士団に入ることも多い。

特殊な学校

大学以上の教育機関もあり、アドラーのバルチック・アカデミーなど専門の科学者がさらなる学問を求めて集まる特殊な学業機関もある。こういったところでは生徒すべてが教授以上のランクの人々のために学者の集合体として見られている。しかし兵器やファティマの研究のための若い見習レベルの学生も数多くいる。

さらに特殊な学業機関として天照家の「典星舎」があるが、これは天照家の祭典や天照王朝を取り仕切る天照家のための専門学業機関である。A.K.D.からは完全に独立している。

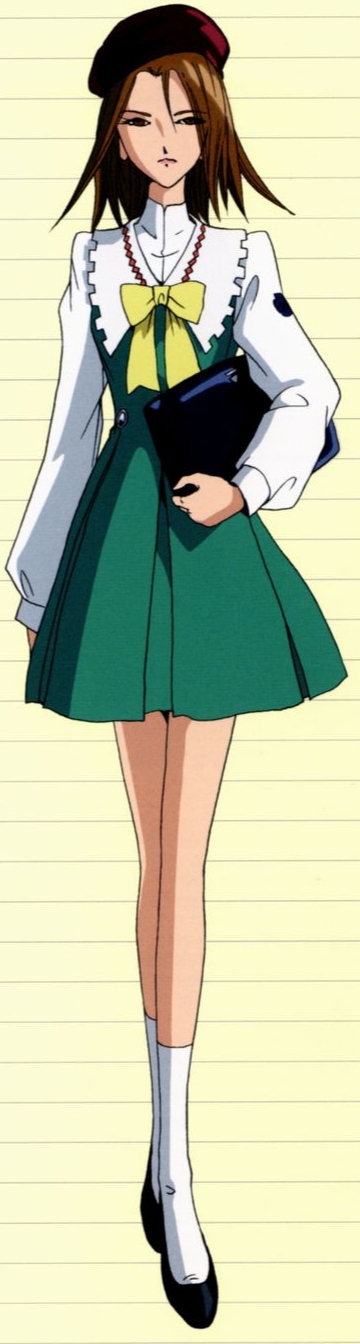
そして、ジョーカー太陽星団で最も有名かつ歴史のある最高学府はカラミティでもデルタ・ベルンでもなく、ボオス星カステポーの「聖皆ラーン」に存在する総合学園都市「ラーン教導学院」である。ラーン教導学院は歴史にその名を残す多くの人々が関わってきた場所でもある。星団年表や物語にも登場しているキャラクターたちがここの出身でもある。魔導大戦後、詩女フンフトの後を継いで教導神学長となったのは詩女マグダルで、ここが後の「アトール聖導王朝」となる。この学校については後述する。

※再録に関しての捕捉

「ジョーカー太陽星団学校案内手帳」は2006年に発行された今後物語で活躍する学生騎士たちの学校を紹介した冊子です。手帳サイズの小さな冊子でした。
今回リッター・ピクト＝騎士図鑑に「騎士団に入る前の少年少女騎士たちの図鑑」ということで再録しました。発行した当時はまだ単行本13巻以降がＧＴＭに置き換わるということや「詩女」の存在を伏せてあったためにいくつもの箇所で当時は意味不明な単語や言い回しがあったのを訂正し、加筆しました。
また、再録にあたり、当時はリスマチックセルからデジタル・セルへの移行中で、モニターでの発色は良くても印刷でつぶれてしまうところが多かったため、今回再録されているキャラはすべて塗り直されています。
またご覧になればわかるとおり膨大な学生が新規に追加となり、ほぼ倍のキャラクター収録数になっています。この際、男子学生も突っ込んだれとかやっていたら男子生徒以外にもまさしく隙を突いて登場する奴らが多く、これは現在進行中の第６話において登場が準備されているということでもあります。
また、便宜上身長データが入れてありますが、全員が成長途中のため、身長はどんどん変わっていきます。メナーなど、冊子発売時には172cmで、デザインズ４では178cmでしたが、連載登場時には182cmになっています。ただ低くなるということはないのでそのあたりは大目に見てください。

デルタ・ベルン星

グリース王立内宮高等学校



●グリース王立内宮高等学校・兵騎士学科

グリース、つまり天照家直轄の兵学校であるということから必然的にA.K.D.各国の貴族や名家の子女が集まる学校である。グリース内宮(ないく)高等学校の名の通り、天照家内宮敷地内にある普通科から騎士科まである総合高等学校である。
場所柄、貴族や名家の子女が集まるとは言っても、A.K.D.各国の一般家庭からも多くの子供が入学している。家柄や経済力があるからといって優先的にこの高校に入れるわけではない。逆にそういう意味で、入学試験に落ちる不名誉を考えてあえてこの高校を敬遠しているという名家もある。A.K.D.各国の家庭からは最大目標の高等学校として認識されている。

この内宮高等学校はグリース王国軍士官学校としての側面ももち、兵騎士学科が併設されている。A.K.D.各国より優れた人材がこの兵騎士学科を目指してやってきている。普通科などは通常の学校だが、兵騎士学科は基本的に士官学校なので基礎学科のほかは軍事訓練、教練、実技が並行して学科に組み込まれているために、基本的に寄宿制である。教練とは軍事教練のことで一般高校の体育に相当するが、スポーツは彼らが騎士のためにとんでもないことになるので、肉体鍛錬目的のものが多い。
しかし全学科、制服に区別はなく、見た目では騎士であってもわからない。また普通の高等学校のような制服を採用しているために軍関連学科であることすらわからないのは、雅(みやび)をよしとするグリース王国の風潮なのであろうか。
教科は基本的に通常の高等学校と同じで、専門課程が大学である。バナールたちは高等学校に準ずる基礎課程の学生である。
専門課程になると軍服に準じたものとなる。

また、普通科は国立高等学校に準じ、授業料などはない。さらに、兵騎士学科は国家機関に属するために授業料以外にも制服、食費など衣食住はすべて無料で税金から支出されている。この高校だけではなく、グリースをはじめとするジョーカーの多くの国立学校は子供は国家の財産であることを強く意識しており、授業料や衣食住の多くを無料化し、税金で教育すべてをまかない、親の負担を減らしている。

高等学校基礎課程の女子制服はまったく普通の女子高校と同じで、帯剣すらない。大きな襟の縁がギザギザなのが天照家のお膝元の高校であることの証明であり、生徒の誇りともなっている。制服はワンピース・タイプで、プリーツの始点に飾りボタンが付く。ブラウスにも天照家をイメージさせる菱形がモチーフとして用いられている。ブラウスは普通の綿の白。カフスは取り外しのできるタイプのもので、リボン同様菱形の刺繍が入っている。
この学校も含め、ジョーカーの学校は制服さえ着ていればあとは自由というところが多く、髪型や化粧、鞄や靴など細かい規定はまったくない。これは金髪の学生もいれば縮れた黒髪の学生もいるし、民族の伝統で素顔を成人までは隠さなくてはならない生徒や、家の伝統で眉を剃り落としたり、入れ墨を行なう家もある。さらに、元服などにより幼名から成人名になると名前も名字もいきなり変わったりする生徒もおり、こういう多様な人々が集まる学校では制服や外見の細かな規定は意味がないからである。

東方10国
イーシ・ルーマー王女さん
Princess Roumer eSHHi

普通科 身長162cm 体重?kg

内宮高等学校の普通科に通う生徒の標準的な制服。制服は袖無しワンピースで春夏秋とこれひとつで過ごす。夏は半袖のブラウスとなる。様々なバリエーションがあり、学生たちのこだわりが見られる箇所でもある。
ルーマーはもちろん現在のアイシャが治める国家である。そこの「正式な」王女で、やがてはアイシャに代わり国を治めることを期待されている。もちろん天照もそのつもりである。騎士ではないが、じゃーじゃーなどと一緒によくいるのでちゃっかり登場してくるだろう。

●好きな科目：国語、文化人類学
●好きな食べ物：ジャンバラヤ、ちくわの磯辺揚げ、ピターチョコのジェラート

グリース王立内宮高等学校
騎士科

エィブロゥ・ビット・マエッセン男爵／博士
Baron AiB Low Bit "Maessen"

普通科　身長185cm　体重75kg

おなじく内宮高等学校の男子普通科の制服。春と秋冬はジャケットスタイルである。夏は半袖のシャツで過ごす。寒い冬にはこの上から女子同様のマント型のケープを羽織るがコートでもかまわないようである。女子と比べて制服の色は落ち着いたグリーングレーになっている。
この男子生徒は若き頃の姿。普通科に所属しているのは「博士号」を取るための準備であるとして普通科にいるのがおかしい。もっともこういった文武両道の生徒のために「選択科目」が非常に多く、この生徒は「騎士科」の選択科目を必須として勉学に励んでいたようだ。
在学期間はアイシャの後輩、パナールたちの大先輩になる。卒業後、パイドパイパー騎士団に入り、その後ミラージュ騎士となる。

●好きな科目：化学、地学。在校時代に物理博士号を取得している。
●好きな食べ物：エビとアボガドのサラダ、カレーをかけたフランクフルターとじゃがいも

アイシャ・コーダンテ ニャン・ティさん
Imperial Princess Aisha Cordante

兵騎士学科　身長172cm　体重?kg

本来の「ジョーカー太陽星団学校案内手帳」からは漏れて、「デザインズ2」に収録となったアイシャさんだがここに再録。
当時から破天荒な言動で学内だけでなく母国コーダンテ領はもとより王朝国家すべてから絶大な人気を誇っていた。誰にでも接する気安さと、やっぱり怒らせるととても怖いアイシャは学校内でもいつも注目の的。その性格からするときちんと制服を着ているのは不思議な気もするが、このあたりがアイシャたる由縁である。ただでさえ目立つのにそれ以上目立ったところで「かったるい」ということだろう。ただ、それを差し引いても普通に「絶世の美人」なので、アイシャに気を寄せる男子はどれほどいたのか想像もつかない。もちろん教師たちとてやましい気持ちではなく、本当に魅力的な女性として見ていたことだろう。王女でなければ、コーダンテ家でなければ、騎士でなければ、…と、多くの人にため息をつかれ、そして愛されていた。まあ、それは今も変わらないが。
この頃のアイシャはどつかれるのを覚悟で言えば、ほっぺたも足もふっくらとしてさすがに若々しい。好きな食べ物もとても庶民的である。ただ、食い過ぎるが…。

●好きな科目：美術、音楽、地学
●好きな食べ物：にぎり寿司、エビの入っていない茶碗蒸し、親子丼、チンゲンサイのクリーム煮、ケチャップと牛乳を使ったナポリタン、餃子、メランジェ（オーストリアのコーヒー）

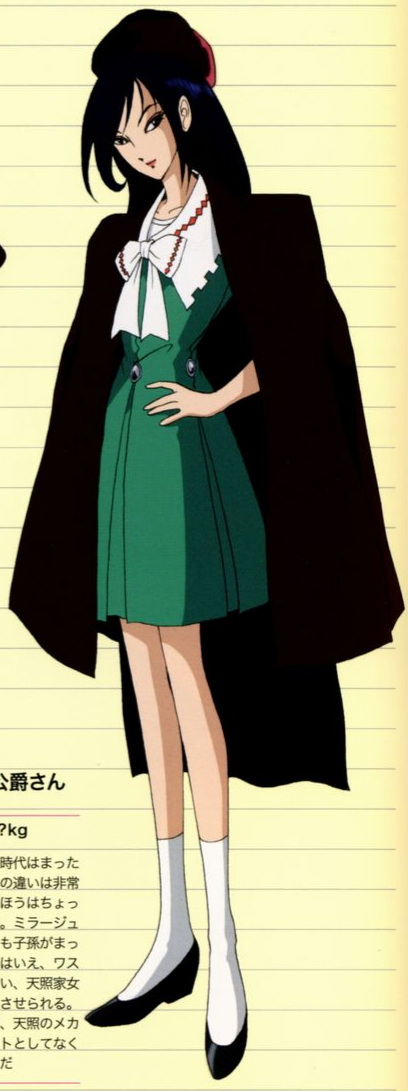
パナール・エックス・アトワイト公爵さん
Duke Panard Ex Atwight

兵騎士学科　身長163cm　体重?kg

パナールやタイトネイブはミラージュ騎士団員でもあるために学校内での扱いは特別なものとなっている。彼女らはすでにA.K.D.の最高騎士としての職務を行なっているために、通常の軍事関連の授業は完全に免除されている。
騎士関連の授業や教練を行なう教官にとっても彼女ら以上の騎士などA.K.D.内にはいないわけで、さぞかしやりにくかろう。しかし、基礎的な高校生としての一般学科や軍人となる兵学科の学生たちとの軍事教練は彼女らとて必要なために一般の士官候補生としての扱いを受けている。また、一般教科は普通の生徒たちといっしょに授業を受けている。
ジョーカーの高校の多くは、日本の大学のような、自分で科目を選択するシステムになっており、毎授業、毎時限、教室も受ける生徒の顔ぶれも変わる。大半の授業は先生ひとりに対して生徒は10人から12人の少数授業で、そこで知り合う普通の生徒も多いはずだ。
ただ、ミラージュ騎士としての業務は国家最優先事項のために学校を休む場合も多いが、その理由が騎士団派兵だの国会質疑応答であるとかなのでどうしようもない。彼女はそれに加えてアトワイト公国の君主でもあるために学校も休みがちである。通常ならばまだこの年では王女なのに、この時点ですでに君主のために学校の先生たちも非常に気を遣っている。それを察して気を遣っているのはパナールのほうも同様だ。王族たちの学校生活は先生、生徒ともになかなか大変なようだ。

●好きな科目：グリース史、数学、物理、地学、科学
●好きな食べ物：関西だしのきつねうどん、チーズクリームがはさんであるベーグル

●内宮高等学校・夏服・外出着
外出着は公の場での制服ともなり、通常の制服にベレー・タイプの帽子とマントがある。主に学生としての外出や学校間のイベント行事などのときに着用する。パナールが着ているブラウスは夏季用の半袖タイプのもので腕がむき出しなのはそのため。靴は軽いパンプス・タイプで足に負担をかけないものが選ばれている。



リィ・エックス・アトワイト公爵さん
Duke Lie Ex Atwight

兵騎士学科　身長163cm　体重?kg

パナールの母でもあるリィの女学生時代はまったく娘と同じである。リィとパナールの違いは非常に難しいが、髪の色が、リィさんのほうはちょっと青みがかっているくらいだろうか。ミラージュだけでなくフィルモアにもハスハにも子孫がまったく同じ顔をしていることが多いとはいえ、ワスチャの子孫といい、リィの子孫といい、天照家女性系列の血は本当に強いのだと実感させられる。
リィは工学博士としても相当優秀で、天照のメカニズムやテクノロジーのよきサポートとしてなくてはならない話し相手であったようだ

●好きな科目：漢文、美術、外国語（科学技術系はすでに博士号以上なので興味はない）
●好きな食べ物：そうめん（揖保乃糸）、ハマチのお刺身、西安風３枚肉をはさんだ饅頭

●内宮高等学校・夏服・外出着２
パナールと違うのは胸元の胸当ての有り無しで、ほかはまったく同じ。胸当てはブラウスを着ないときに付けるためのもので、取り外しは自由。

グリース王立内宮高等学校
騎士科

シトロン・メナー・シナーテ天照王女さん
Princess Xitron Mennor

兵騎士学科 身長182cm 体重?kg

天照家・ムムカーラ・シナーテ王家の長女。メナー家の筆頭である。シナーテ家は斑鳩王子と父系が同じで同じ先祖をもっている。現在はシナーテ家の直系が斑鳩王子であるために帝位継承ランクは6位と斑鳩の次になっているが、ラキシス、斑鳩の復帰前はコーダンテ家に継ぐ地位にあった。
天照家といえば君主をはじめとしてろくなものがいないが、メナー家は「天照家の氷室」と言われるほどの沈着冷静な家柄で、王朝内部においてもそういう役目を歴代引き継いできた。
寡黙で冷静な彼女が、あの天照とどういった漫才を展開することになるのかは魔導対戦後半のお楽しみといったところであろう。
「フリーズ」「カッティース」はそんな彼女につけられたあだ名である。
がんばれメナーちゃん。
ちゃあの側近ルミナスナイツ・ナンバー2。後のコーダンテ家をちゃあとともに支える。

●好きな科目：軍事教練、星団法、環境経済
●好きな食べ物：鯖サンド、エンジェルシュリンプのバジルスパゲティ

●内宮高等学校・平服・典礼ブラウス
この学校の制服のブラウスはアンサンブルにも対応して、タイトネイプやキンキーの着ているブラウスは襟がないものだが、彼女はスタンドカラーで首元を隠すものである。ここに掲載されているグリース王立内宮高等学校の制服はすべて微妙に違っている。この統一感のなさこそが、天照家お膝元ならではともいえるのかもしれない。

ミューリー・キンキー王女さん
Princess Muley Kinky

兵騎士学科 身長165cm 体重?kg

天照家の一族キンキー家の娘。東方10カ国外の王家であるが、一族初のミラージュ騎士ということで家の期待は大きい。
歴史ある天照王朝には数え切れないくらいの天照家一族、関連家系があるが、そんな中で、王朝内の発言権や力を対外的にも見せるには強力な騎士が一族にいることが必要不可欠ともいえる。ミラージュ騎士となった彼女には、一族からのプレッシャーもすごいものがきっとあるのだろう。
そんな彼女にとって幸せなのは同年代の仲間が多くいるということであろうか？
同じような境遇、環境のバナールやメナー、明るいタイトネイプなど、まれに見る同世代が集まった魔導大戦時のミラージュ騎士団は彼女らにとっても非常によい環境であったのではないだろうか？
「女学校みたいになっちゃった……」とは、いつもの天照の弁だが、ほんとにみんな女学生なんだもんなぁ。

さて、キンキー。いつものかぶり物を手放さないのは学校においても同じであるが、後ろの席の生徒から苦情はこないのだろうか？　気になる。噂によると結構この帽子は重いものらしい。なんなのであろう。
彼女は家の風習で地球年齢15歳になるまで素顔を出さなかった。そして手足も出していなかったために肌の色もまったくわからなかった。学校では男子と同じスラックスを着用し、ベールで素顔のほとんどを隠していた。
バナールやタイトネイプは内宮内に住居を構えているために学校には通いとなるが、彼女は内宮高校の寄宿舎に住み込みである。ただ、週末などはデモンズ・タワー内の自室で過ごしていることも多いようだ。自室といってもミラージュ騎士にあてがわれる部屋なので、お付きの女官や書生が詰める部屋もあったりと、お屋敷ひとつくらいの規模がある。

●好きな科目：文学、美術
●好きな食べ物：塩ラーメン、シシカバブと生タマネギのサンドイッチ、太巻き

エルディアイ・ツバンツヒさん
Dr. Eldiai Zwanzig(L-D-I 20)

普通科 身長162cm 体重?kg

推定年齢4000歳といわれる彼女がなんでまた高校生になっているのか？
「キミね、いまの星団と一般の世界をちゃんと習得しときなさい。学校の手配しといたから」
と、某君に言われ、逆らえるはずもないツバンツヒは女子高生になってしまったのであった。いとあわれ。
内宮高等学校、それも普通科を、気合いと、ご自慢の頭脳で何とかパスし、タイトネイブたちとは違う普通の女子高生として勉学に励んでいるが、タイトネイブたちにしょっちゅうからかわれているので、クラスメートからは「なんだか騎士であるもよう」というのはバレバレである。
彼女は自在に姿を変えられるので、身長も女学生に合わせて多少低くなっている。現在は162センチくらいのはず。

システム・カリギュラのシオの門番として重大な使命をもって送り出されたツバンツヒ。しかし、うかつにも近づいた天照の真の恐ろしさを知識でしかわかっていなかった自分を悔やみ、猛省した結果に導き出されたのは、魔導大戦のパワーバランスの調整よりも、天照の調査よりも、「ショウメ」の調査よりも、ミラージュ騎士としての役割よりも、次の中間試験のヤマがどこにくるのか、明日のお昼のお弁当のおかずは何にするのかでいっぱいである。
先日お弁当のおかずを作りすぎて、天照にだし巻きをあげたら非常に喜んでくれたので、いまは必死で「手軽に作れるお弁当のおかず」を開発している。もちろん彼女に調理のイロハをたたき込んだのはスパークだ。はっきり言って、騎士の仕事はやる気がなくなっているようす。そのままミラージュに居つき、ウィルで7777年まで天照に付き合っている。もちろん食事係として。
ブラフォード、キュキィ、バインツェルに続き、契約金「ロハ」でミラージュに入団した4人目。

●好きな科目：星団史（一般的に浸透しているジョーカー星団の歴史のこと）、民族学、図画工作、音楽
●好きな食べ物：手作りのお弁当…だし巻き、つなぎのいっぱい入った魚肉のたこさんウィンナー、石井のチキンハンバーグ、錦松梅、京都のちりめん山椒、塩分17%以上の梅干し

ところで、前回では黒くつぶれてわからなかったかもしれないが、ツバンツヒの鞄にはあやしげなマスコットがくっついている。これはカリギュラの秘密兵器などではなく、ツバンツヒがとても大事にしているお守りである。このお守りのエピソードは「ツラック隊」にて語られるが、ツバンツヒの転機となったエピソードでもある。

タイトネイブ・シージラック王女さん
Princess Orevie Tightnaven Siegiluck

兵騎士学科 身長165cm 体重?kg

出張ミラージュ騎士とは言われているが、正式なミラージュ騎士であることに間違いはない。彼女の場合はそれに加えてシージラック王女としての職務もあるために学校は休みがちである。ハスハ参戦のときは1年以上学校を休学していたりするが、国家任務、皇帝勅命での仕事で休学中も出席扱いとなるのは当然のことである。高等課程8年のうち5年間出席していなくても単位はフルで取得できるようになっている。騎士学校の騎士たちは任務や仕事でまともな学校生活を送れない。それに悩むのも若き騎士である故なのだが、騎士としての仕事以外は普通の学生でありたいという希望があるのは当たり前だろう。
ちなみにタイトネイブだが、本編第12巻登場時は中学生なのでこの制服ではない。また、在学中に彼女は狭楼姫から王女シージラック・オリビー・タイトネイブに名前が変わるが、同級生はいままで通り「じゃーじゃー」と呼んでいる。

●好きな科目：星団史、音楽
●好きな食べ物：春雨サラダとニンニクの芽の炒め物に米

●内宮高等学校・冬服
この学校の制服は、普通科、騎士兵学科、共通のデザインである。冬服はワンピースの上にブレザータイプの上着を重ね着し、ワンピースの襟を外に出すタイプとなっている。ブレザー自体に襟は付いていない。基本的に寒くても冬は素足が基本となる。あまりに寒いときには生徒たちはスラックスをはいていくようだ。

じゃーじゃーさん
Kyo-Ro-Ki (Tightnaven Siegiluck)

中等部 身長150cm 体重?kg

単行本13巻の時点ではタイトネイブやパナールは中学生で、内宮高等学校の中等部である。中等部とはいえほとんどの授業は選択科目なので、場合によっては高等部の生徒と一緒に受けることもある。ツバンツヒが高等部に強制入学した時にはまだタイトネイブたちは中等部で、ツバンツヒとは制服は異なる。内宮高等学校の制服になるのは魔導大戦後半である。
斑鳩率いるミラージュ騎士団はタイトネイブ以下、ほぼこやつらであったがためにかなり長い間「ミラージュ騎士団の制服はこの服」と言われていた。まあ、あのまま戦闘していたので内宮高等学校の制服がミラージュＧＴＭ戦闘服と言われるのは間違ってはいない。

●好きな科目、好きな食べ物：前記

遅刻の女皇帝さん
Duke Panard Ex Atwight

中等部 身長155cm 体重?kg

現時点では中等部なのはじゃーじゃーと同じ。学校でのあだ名は遅刻の女皇帝。後、その座をツバンツヒに奪われてしまうので、ツバンツヒはライバルである。
こちらは冬服で、天照家典星舎のカラーである小豆色がメインとなっている。それ以外はごく普通のセーラー服である。高等部の若草色とまったく変えてあるのは中等部と高等部をわかりやすくするためである。
「デザインズ1」ではほうきを持っていたが、あのイラスト本当は真紅のミラージュ・ガット・ブロウであったのだが、今回は本当にモップである。いったいどこからこんな物を持ち出したのか、なんやら怪しげなモップではある。ミラージュや天照家のマークはじゃーじゃーが貼り付けたステッカーである。ので、深い意味はないが、いちおうパナールはリィの娘でもあるし、新参者のツバンツヒに負けてはならずと武器を開発しているとの噂もあるのだが、どうなることやらである。

●好きな科目、好きな食べ物：前記

●中等部・制服
天照家・典星舎の色である小豆色のセーラー服である。夏場は白地の半袖となる。襟は共用なので夏冬とも同じものだ。襟は２重になっていて下の白地に上のギザギザ襟が付いている。

メル・クール・リトラ天照
[Apostlress on Dark side of the moon]
Mel coul Lithora Amaterasu

身長158cm 体重 ?kg

天照家84代天照家皇后〜あらたまの詩女
リトラはその歴史ある典星舎の中でも非常に特殊な扱いを受けた女性で、84代目天照帝の妻として当初より迎え入れられている。彼女の持つその力も天照家にはないもので、ミコト亡き後の実質的な典星舎の代表としても知られる。
この彼女の特別な扱いは彼女の出身によるものであろう。ミコト亡き後の天照家は彼女によって支えられていた。その強大な「スコーパー」と、歴史上、彼女しか持っていなかったと言われる「グレイン」の力は彼女が正真正銘の「詩女」であるからだ。天照家と典星舎において彼女がミコト亡き後采配をふれたのは、彼女がミコト同等に扱われていたことの証でもある。

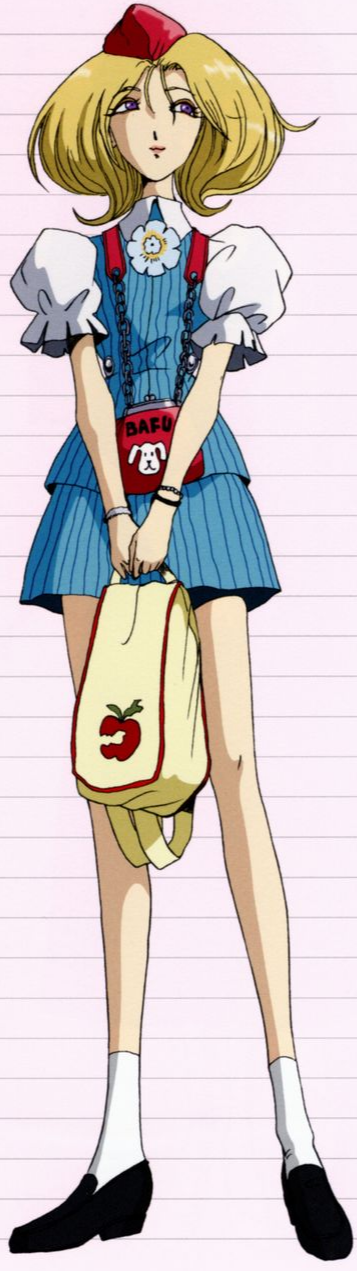
●好きな科目：ボォス星史、天文、文学
●好きな食べ物：ジュンサイのお吸い物がついた定食、そばがき、冷やしとろろそば

●典星舎・制服
制服はゆったりとしたもので、胸のすぐ下を帯で留めている。
その制服の色合いは天照家の朱を基調にしたもので、歴代天照皇帝のものと合わせてある。
かぶり物は髪を隠すためだが、これは専門部までで、それ以降は正式な帽子となる。靴はかかとのない布製の軽いもので、床や畳の多い天照家では靴を脱ぎやすいことも重要だ。胸元には天照家そのものの紋章がついている。

デルタ・ベルン星

天照家
典星舎
高等部 女士官科

●天照家・典星舎
天照家の心臓部とも言われるのがこの「典星舎(てんせいしゃ)」である。兵騎士学校よりも特殊で宮内と女学校と魔導結社が合体したようなところで、天照家の権力基盤の根底にある。
この特殊な学校は幼年から成人になってその役目に就くまで、人生のほぼすべてをこの学校で過ごすことにある。天照家の強力な魔法使いたちはすべてここの出身であり、星団中から素養の高いボルテッツを中心に集められ、幼少の頃より天照家に忠誠を誓う者たちにより構成されている。
つまり、星団にその名をとどろかす天照家魔導、ギルドブリッツェン・バイターの本体がこの「典星舎」である。
生徒は「団徒」と呼ばれ、卒業後は天照家内宮に勤め、宮内役人としての業務がほとんどであるが、天照家に仕える職員の指揮をする女官としての権限も持つ。
高等部では普通科授業の他に王族貴族たちに接するための作法などあらゆる教養がたたき込まれる。またボルテッツ以外の普通の女子も多くいるので、彼女らは軍士官学校に準じる戦闘訓練も受け、A.K.D.の使用する火器を一通り扱えるように訓練される。
天照家直属の組織であるためにA.K.D.の業務にはまったく関与していない。また、表に出ることもほとんどない。しかし天照家と東方10カ国の執務を牛耳っているのは確かである。
すべて女性によって構成されているのも特徴だ。幼年から勉学に励むが、服装はほぼ同じで幼年、初等部、中等部、高等部、専門部、女官、女官補、女官長と変わっていく。女官となって卒業していく者がほとんどではあるが、中には特殊な役目をもって卒業後、歴代天照皇帝に仕える者たちもいる。彼女らは王朝女官の役目ではなく、天照家魔導結社のメンバーとして仕えていくのだ。
先代・天照のミコトの近衛部隊であった「銀衛隊」、そして現、天照の帝のもつ「幻影隊」は星団中から恐れられている。これらは天照家の戦闘部隊である。現在は典星舎総長のメル・リンスによって仕切られているが、学校の基本的な役割は変わってはいない。
ボォス星の「ラーン教導学院」とは長年にわたる敵対関係にあり、星団暦の中でもたびたびこの2つは衝突している。



デルタ・ベルン星
フェイツ公国 ルミナス学園

●メサ・ルミナス学園

この学校図鑑ではごく普通の高校である。騎士科もない。
普通とはいってもクローム・バランシェの母上、アルセニック・バランス公爵が作った一般民間高校である。公立ではないようである。まだ歴史的には浅い学校だが、星団最高の頭脳といわれるバランス家の創立した学校であるためにその門は非常に狭い。しかし、非常にリベラルな学校として知られ、A.K.D.傘下の中でもその主義主張は独自性をもち、A.K.D.の星団侵攻以降も天照家に対して堂々と批判、苦言を呈している。
魔導大戦時はここの生徒にヨーン・バインツェル、シング・桜子、ちゃあ、そして、ノルガン・ジークボゥがいたことでも知られる。コーダンテ家のちゃあが天照家から離れてこの学校にいたことや、コーラスのメロディ家と詩女フンフトを親にもつ桜子がいたことも驚きだが、ジークボゥの存在は完全なる視界外にあったと言われ、魔導対戦参加各国も驚きであったことであろう。よくぞあの国が虎の子のジークボゥを外に出したものだと後に言われた。
後のコーダンテ家太閤、4大ファティマ・ガーランドのひとりなどが在籍していたとはいっても、本当にごく普通のちょっと偏差の高い学校でしかないのも確かなのである。試験にさえ受かれば誰でも入れる。
と、いうことはちゃあはそこそこ勉強はできるということなのであろう。か？

ちゃあ・ティさん
Cha Tea

普通科　身長180cm　体重?kg

ちゃあはこの格好で魔導大戦に参戦したが、本当にこの制服のままヒュートランとともに戦いを繰り広げた。足下はさすがにショート・ブーツになっていたが、ゆる〜いまんまの王女様である。やがてはコーダンテ家を継ぎ、公国を治めることになり、最終的に「天照」の名さえも与えられた彼女。しかし本人はいたってあのまま。騎士である以前に自分が王朝最右翼の王女であることを、まったくわかっていないのである……。

●好きな科目：古文、デルタ・ベルン史、音楽
●好きな食べ物：学内デリカのホットドッグ、牛丼、鶏なんばん

●メサ・ルミナス学園・高等部普通科制服
この冊子の中で最高センスの制服であろう。格式や制約のないリベラルな校風の出たライトな制服である。半袖に青いピンストライプの入った制服は女子だけのもので、スカート丈も個人に任せられている。
ちゃあが着ているものは自分でスカート丈を詰めてちょっと短くなっている。
帽子はピンで留めるもので、ちゃあはいつもかぶっていたようだが、他の生徒はあまりしていない。首からぶら下げている鞄はもともとちゃあがアルバイトのためのおつりを入れるために個人で買ったものなのだが、ちゃあがコーダンテ家当主になった後は、コーダンテ大公の鞄として、一般学生もぶら下げるようになったという。

ノルガン・ジークボゥさん
Norgan Siegbou

普通科　身長185cm　体重65kg

ちゃあやヨーンの後輩となる。あれ？制服が違う？と思われても仕方がないが、プロムナード学園編ではあくまでアメリカのハイスクールという設定だったので、東海岸風の制服だった。ちゃあや桜子のスカートもチェックの柄でストライプではなかったはずである。ということで、こっちがルミナス学園の男子制服である。
ショートジャケットで女子とは趣が異なる。物語に登場した時の制服は生徒会で独自に作った渉外用の礼服である。ルミナスでは学生自治も活発なので生徒会やクラブでは独自の服を作っていることが多い。
は、おいといて、なぜ彼がバランシェ系列の学校にいたのかはこの図鑑を最後まで読めばわかります。また「ジークボゥ」という名前を付けたのは誰なのか？　まさしく想像を絶するエピソードが「トラフィクス3・パルスエット」で予定されている。

●好きな科目：地理、文化人類学
●好きな食べ物：はちみつトースト、鯖の味噌煮込み定食、春キャベツのスパゲティ

シング・桜子さん
Dr.Natrium Xing Sakurako

普通科　身長158cm　体重?kg

ルミナス学園でも非常に目立った存在で、ガーランドであるということで勉強に関して学校が教えられることは何もない。ただ、ルミナス学園はバランシェ公の母が創立した学校であるため、桜子の扱いは他の学校に比べれば断然楽だっただろう。桜子がフェイツ公国に居を構えていたのはやはり目標とするバランシェ公のお膝元ということと、ガーランドを奇異の目で見ない町というのがあったのかもしれない。
ヨーンと共に入学したはずだが、桜子はジークと同い年である。それなのにジークやちゃあより先輩になっているのは飛び級しているためである。彼女はガーランドなので、どの学校にも自由に自分の意志で編入可能である。ガーランドの入学を断る学校は皆無である。その所属国家を母国としてくれる可能性が高いからだ。落第中だが。
これは冬服で襟無しのジャケットである。髪型はちょっとおとなしくあんまり跳ね上がっていないし、染めてもいない。靴は本編に出てきたとおり、オニツカのスニーカーである。
とはいえ、ちゃあと関わったがためにここまで人生が狂ってしまったのはちょっとかわいそうでもある。なんと言っても、本来他人とほとんど口を利かないある人物は、この桜子だけにはやたら口数が多いからだ。有無を言わさないいつもの迫力で命令され、桜子はほぼあの人物の専任医師である。よって桜子はミラージュ騎士団のガーランドとなったのである。

●好きな科目：別になし、体育は大嫌い
●好きな食べ物：麺が真っ黒になるくらいトリュフがかかったクリームパスタ、マツバガニのチャーハン、ソーテルヌと蜂蜜でソテーしたフォアグラ、シャトー・ディケム（食前にちょこっとだけ）

堀川南ノ洞院亜矢之巴さん

Aya no Tomoe Horikawa Minami no Touin

家政科　身長160cm　体重?kg

ほりかわみなみのといんあやのともえ。というものすごく長い名前を持つトモエさんだが、名字が重なってこの長い名前になっているのは読んでわかるとおり。堀川家と南洞院家と幼名の亜矢、成人名の巴がすべて表記されているということである。

さすがに学校では「堀川亜矢」と省略して呼ばれていたが。で、巴さんの女学生時代のお姿。…まんまふつー。あまりにふつー。ふつーすぎてこの冊子の中では「作品が違う」「制作会社が違う」くらい浮いてます。

浮きすぎて、なぜアナタがあんなふうになっちゃったのかさらに興味は深まるばかりです。

●好きな科目：文学、古文
●好きな食べ物：カツカレー、ナポリタン風スパゲティ、アイスバインとザウアークラフト、アップルパイ

あ、ややこしいですけど、トモエさんだけは「家政科」で、「霞政科」ではありません

●デルタ・ベルンのガス・ガル連邦

この図鑑で初めて耳にする方も多いかと思う。「デザインズ2」と「学校案内」にてその名前が登場している。

ガス・ガル連邦はデルタ・ベルンの南半球にある巨大な統一国家である。デルタ・ベルンはすべてを天照が統治する集積国家ではあるが、様々な国家によって構成されているのはご存じのとおり。

天照家の誕生する星団暦初頭にはデルタ・ベルン星はカラミティ星と同じく古くからの列強と、それらから分裂、または台頭してきた新たな国家があった。

北半球の東方には天照家のグリース、その影響下にある小国がまとまって経済連合的な動きを見せていた中、南半球のソドン大陸では同じように国家がまとまりつつあり、連邦制を取り始めていた。

天照王朝の経済支配が強くなり、そして天照の帝の登場によってすべてのデルタ・ベルンの国家はA.K.D.として集積されたが、もともと政治形態も文化も異なるソドン大陸の国家は完全に天照に吸収されたというわけではない。

天照と天照王朝に対して根底では様々な想いがくすぶり続けていることを天照はわかっているが、取り立てて大国主義を振りかざすつもりもないようだ。

このページを見てもわかるとおり、ガス・ガル連邦はA.K.D.の中にありながらも…。

そういう国家である。

ガス・ガル連邦パライアという国家はガス・ガル連邦の中でも独自の立法を持つ特殊な国家である。パライアの国家そのものが「荘園都市」であった名残である。

その憲法の際たるものが、

「罪人、犯罪者であってもパライア国籍を得られたらば一切の前科は不問とし、国家と国法によって守られる」

と、いうものである。

この憲法は星団暦初頭よりパライアの国家法の一部として現在も残っている。国外や他星の犯罪者がパライアに逃れ、そこで国民としての義務を果たすという歴史がある。星団法、国際法によって重犯罪人の国家間引き渡し条約というものがあるが、引き渡しを要求するのは内政干渉であるとパライアは突っぱねている。

よって多くの国家は苦々しく思いながらもうやむやになってしまうことが大半である。だが、一般司法犯罪というレベルでは裁定できない重犯罪者、裏切り者などがパライアに逃げ込んだ場合、各国家は超法規措置を発動することも多い。

つまり、A.K.D.の一部であるガス・ガルのパライアに対し、各国家は天照家に「幻影隊」の依頼を行なうということである。フィルモアの国家犯罪者にフィルモアが乗り込むわけにはいかず、フィルモア元老院は天照家幻影隊に暗殺を依頼するということだ。

このあたりの国家間駆け引きはパライアも承知しており、沈黙している。 力のある罪人を受け入れるという国法があるだけでパライアの国民がすべて罪人というわけではない。ほとんどの国民は善良な人々である。歴史もあり、名家も多いのだ。

ただ、軍事においてそういう人間でも受け入れるということである。基本的に鎌倉時代の大名や荘園主たちのやっていたことであると思っていただければいい。戦力を維持するということがその最大の目的である。

デルタ・ベルン星
ガス・ガル連邦 パライア高等学校 家政科

●パライア高等学校

パライア高校はそのガス・ガル連邦の中心都市パライアにある国立高校で、古風なイメージを未だに伝えている。と、いうのが見た目のイメージだが、中身もそのまんまであり、食事はお弁当が基本。学食にはハムカツ定食やおにぎり定食など豊富なメニューがあり、放課後の校内の掃除はもちろん当番制、校庭の一角には創設者の銅像。部活も盛んで体育系、文化系、様々なクラブがある。さらにこれまた当然のごとく、校内及び登下校を厳しく管理する竹刀を担いだコワーい生活指導の先生や年齢不詳の名物校務員さんもおり、名家の子女が通うとは言え、ごくごく普通の公立の学校である。

……。

高校の説明は事実ではあるが説得力はないかもしれない…。

んではもう一度この高校の学科を見ていただきたい。誤植ではない学科がある。

この高校は普通科、家政科の他には騎士科はないのだが、

「霞政科」(かせいか)

という聞き慣れない学科があり、ここに騎士たちが入学してくる。「家政科」ではなく、「霞政科」である。

「騎士科」のような学科であることは生徒がすべて騎士のために間違いないのだが、しかしこの霞政科がどういう学科なのかはまったく知られていない。

そのため解説ができないのである。

この学校を巣立った者たちは非常に不思議なことにほとんどの学生が行き先不明となる。どこに行ったのか、どうなったのかわからないのだ。学生たちは人知れずいずこかに消えていくようだ……。

かっこええわ、この学校。

ガス・ガル連邦パライア高等学校

霞政科

アーリィ・ブラストさん
Early Brast

霞政科　身長170cm　体重?kg

と、まあ普通の制服を出すのもなんなので、パライア高校霞政科の「教練衣」である。さすがに名目は違っても騎士科であることに間違いはなく、ガット・プロウを装備している。ただし、かなりこのガット・プロウは短い。そして彼らを鍛える教官は先に述べた名物校務員のおじいさんである。誰も勝てないらしい…。まあ、そら当然かも。それが鉄板というものだ。この学校では校務員のおじいさんや学食の調理おばさんが「なぜか」教官となっていることが普通で、水泳は真冬でも行なわれ、８時間水の中とか、ちょっとやっぱり変な学校である。
教練着は普通の綿だが、肩や腰に装甲板が「縫いつけてある」これは古来の日本の鎧と同じで、装甲板に空けられた穴に糸を通して付けているのである。だが、急所ではなく手甲や上腕など限られたところにしか装甲がないが、これは体を守る鎧ではなく、装甲が付けられている箇所を使って防御する。ということなのだ。かなり特殊な戦いを想定した教練なのであろう。

バッハトマのところで登場したがヨーンなどとほぼ同年齢なので現在も髪の長さ以外はまったく変わらない。ビューティー・ペールの右腕と言われる騎士で、彼女がどこで何をやっているのかは「パルスエット」のエピソードであきらかとなる。恐ろしいのはポスヤスフォートではなく、ペールの方かもしれない…。

●好きな科目：音楽、数学
●好きな食べ物：学食のとんかつ、野菜天せいろ、タリーズのハニーロイヤルミルクティー

エレーナ・クニャジコーワさん
Elena Kuniazkova

霞政科　身長165cm　体重?kg

再録にあたって新規のキャラクターが次々割り込んでくると書いたはいいが、どうもこの割り込んでくる奴らには一定の法則があるようである。冬服はこの通り上下とも紺になる。靴が編み上げブーツなのは大正時代の女学校の名残。違うか。
で、後の「ミス宇宙軍」いや、バビロン王の「くの一部隊・バビロン王国騎士団」である。
ああ、言っちまった…。
の、若し頃の姿であるが、まあ、今も若いのであまり代わり映えはしない。どうせまた出てくるだろうし。

●好きな科目：教練、化学、生物学
●好きな食べ物：海鮮焼きそば、酢豚、チーズスティック

アドラー星

トラン連邦
バルチック・アカデミー

●バルチック・アカデミー

アドラー星トラン連邦にあるバルチックアカデミーに関しては「デザインズ2」に詳しいため、ここでは省く。

バルチック・アカデミーは専門研究機関であるために学校のカテゴリーには入らないが、ここには星団中より才能ある学者の資質をもった者や、天才と呼ばれ、通常の学校では扱いきれない子供がたくさん集まってきている。そういった学者や学生の集まりで構成されているために「学年」という観念はなく、すべて「研究者」として扱われている。ミースのような小学生から壮年を過ぎた者まで同じ場所で必要な学習を必要なところでおのおの取っている。そのため巨大な施設はひとつの街と言っていいほどたくさんの機能を持ち、ひとかどの学者になった後もここに居を構えて出ていかない者も多い。なによりあらゆる研究実験設備がすべて揃っているのだから。

●バルチック・アカデミーの制服

研究施設のため制服というものはないが、アカデミー所属の学者、学生、研究者としてアカデミーの紋章である鳥の羽のペンがつけられたケープと帽子が外出着としてあり、多くの者が着用している。卒業というものもないために、「〜卒」という肩書きもつかないが、「所属」というだけで博士号以上の尊敬を集めるのだから、そういう肩書きは必要ないのかもしれない。

そして、実際にはこういった学者たちの交流の場でもあり、モラードはここでクロスピンとともに「エスト」を作り上げているし、シアン婦人とマギーはここで知り合って親しくなったようである。ここで研究していたことはない現役ガーランドたちも、ちょくちょく親交と情報を集めるために集まってくる場所でもある。

また、このような非常に重要な人物たちが集まる場所でもあるために、バキン・ラカン帝国のラカン騎士団が常駐している。もちろんGTMも配備されている。

ミース・シルバー・バランシェさん

Dr.Meath Silver Ballanche

身長152cm

ミースはバランシェにその力を認められて小学校を中退、第9巻でヤーボも言っていた通り、中学、高校は飛び越え、大学課程も飛び級ですっ飛ばして1年で卒業、すぐにアカデミーに入り、アカデミーですらほとんど出席しないでモラード博士の片腕としてファティマ育成と製作の実務に入り、地球年齢わずか17歳でファティマ・ガーランドとして星団にデビューした。若きバランシェも、モラードも、桜子もミースも皆、学習期間というものが存在しないのである。勉強や学習がまったく必要のない者がこの世にはいるという証拠である。「見たらわかる」という者たちに他人が教えることは何もないのだ。

それが人として優れていることなのかどうかはまったく別のことである。彼らも言うだろう。「人より多少専門的なことがわかるといって、優れた人間だなんて思わないでほしい」、と。

バルチック・アカデミーはこういう者たちのためにある機関で、「自分のための学習らしきもの」をする場所なのである。

●好きな科目：原始医学、始祖科学、エネルギー編成理論、天文物理学、元素集積理論、衝突分類基礎、太陽機構史、太陽集積理論、恒星軌道推論、バスター限界演算理論

●好きな食べ物：ハムエッグ定食、ネギラーメン、シンガポールチキンライス

モラード・カーバイトさん
Dr, Molard Carbide

身長184cm 体重85kg

バルチック・アカデミーの誇るファティマ・ガーランドである。モラードがアカデミー時代に知り合ったＧＴＭガーランド、ルミラン・クロスビン博士と意気投合し、ファティマ「エスト」とＧＴＭ「ダッカス」を作ったことはあまりに有名である。もっともモラードが在籍していた時点で彼はすでに学生という年齢ではなかったが、この姿はその時の若し頃のモラード。
！！…では、ない…え？？どういうこと…？これ、モラード先生ですよね…？？
隣にいるのは…エスト…？？なの？？いえ、間違いなくエストさんのようです。ようですが…このスーツは「ブルー・スーツ」と呼ばれているデカダンスーツで、ごにょごにょごにょ…の時代のスーツですよね？？？
あれ？？あれれ？？うわ〜「エストカレンダー」の時点ではわからないように描かれていた文様が全部見えます。あの紋章もこの紋章も打ち込まれています！
って、ことは在りし日のモラードさんじゃなくて、これは…かなり先の…。
おーまいがー。
こいつらもう、どーにかせぇ〜〜〜！
以上、ソーニャさんのインタビューでした。

●好きな科目：気象学
●好きな食べ物：もつ鍋、バーガーキングのダブルワッパー、桃屋のらっきょう

ニオ・ハスラーさん
Nio Hathler Brau

騎士科 身長170cm 体重?kg

ニオはエラルド・フィルモア王家の警護騎士の家系として生まれ、幼い頃よりダイ・グとともに過ごしてきた。ダイ・グはフィルモア王家筆頭の王子として学校に行くことなくすべての学業を王家の中で学んできたが、ニオは騎士学生としてこの学校で過ごしている。もともと頭は堅いほうなのだが、とんでもないおばさまたちに囲まれたエラルドでの生活はその後の彼女に少しは役に立ったことは……なく、相変わらずハスハでも毎日のようにケーニヒにからかわれている。

●好きな科目：戦術騎士理論、アドラー史、騎士教練(演習)、マナー教育
●好きな食べ物：空芯菜の炒め物、たけのこご飯、ターキッシュ風ピーマンの肉詰め、マトンのシチュー・フィルモア風

アドラー星
バキン・ラカン帝国 騎士高等学校 ベイ・ポイント

●騎士高等学校ベイ・ポイント

ここは兵学校ではなく騎士専門の騎士学校である。多くの列強各国は兵学校に併設して騎士科があるが、ここは完全に騎士だけの学校で、騎士の使用する多くの兵器や軍が使用する各兵器の扱いから効果的な用法まで、騎士として必要なことを集中的に教え込むことで有名である。

その専門校としての名声は星団の多くの騎士がこの学校に入ってくることでも知られ、小国の騎士や一般民間から騎士が出てきた家庭など、騎士が身近にいない地方や環境の家庭から多くの騎士がここで騎士とは何かを学んでいくのである。

騎士とは国家の戦闘兵器であり、国家財産である。従って、騎士の血をもって生まれた者は好き嫌いにかかわらず小学校前後で一般的な学校や生活とは隔離されてしまう。それでも、騎士たちに普通の学校生活や友人との対話を経験させるために、多くの騎士学校では通常の学校に併設されていたり、街に出かけたときなどに一目でそれとわからないような制服が採用されているのである。

しかし、このベイ・ポイントは一般の騎士学校とは一線を画している。すでに通常の騎士課程を終えた騎士たちに、さらなる専門的な騎士の修練と勉強をさせるところであるといえるだろう。軍服同様の制服がそれを示している。

騎士は配属された瞬間に将校以上の指揮能力を求められるため（師団以上を配下において指揮しなければいけない場合が多いためである）、その学問は参謀学が大半となる。当初より指揮能力が求められる国家の騎士団の各騎士の責任は重く、自国の兵学校を出た後でもこのバキン・ラカンの騎士学校ベイ・ポイントに入学して改めて指揮の基本的な勉強をする騎士も多いのである。この学校は騎士の戦闘能力を高めるところではなく、軍団規模の指揮や戦略を教えるところなのである。

この学校の制服は、軍服と呼んでもよいほどかっちりしたものである。一般の学生服とはあえて違いを出してあるのだろう。

制帽、詰め襟、銀ボタンといかにも軍人風の出で立ちが古風な士官学校服である。男子はサイドラインの入ったスラックス、女子はボックス・スカートにソックスである。制服左側に走るラインのみが学生であることを示している。

メイユ・スカさん
Meille Suka

参謀科 身長193cm 体重88kg

おおおおお！、スカ様ではないですか！！お若い！まだほっそりしていらっしゃいますね！スカ様もここで指揮訓練を受けていたようです。身長はほぼ成人状態である。
その集団指揮官として、また騎士団を率い、兵たちの信頼も厚かったスカ様ですが、ここでの教育があったにせよ、やはり天性のものが光っていたのだろう。
騎士科ではなく、もっぱら参謀科の授業を受けていたようである。

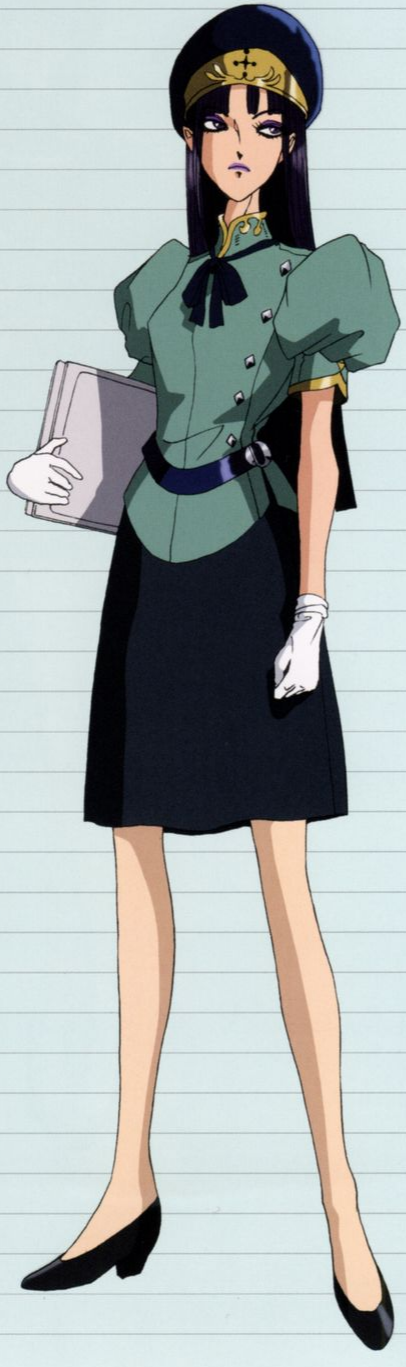
●好きな科目：戦略戦術論、軍経済学、気象学
●好きな食べ物：濃い味付けのフランス料理、エビ天丼、エスプレッソ コーヒー

ママドア・ユーゾッタ女侯爵さん
Mamadore Juzotta

騎士科 身長175cm 体重?kg

こちらは外出時のマント姿。ユーゾッタ嬢もちょっと大人になって見かけだけは落ち着いた感がありますが、中身は相変わらず。パキンラカンの天位騎士としての期待も大きく、ほぼ強制的にベイ・ポイントに入れられた。少女趣味爆発のユーゾッタにとって、制服よりは私服の方がいいのだろうが、物語ではとっくにパキンラカン騎士団の制服を町中で着ているので、制服が嫌いというわけでもなさそうだ。天位騎士ゆえの実戦でのプレッシャーはやはりクリスティンと同じで、まだまだ騎士団を率いるだけの経験はないようだ。その彼女がミノグシアで遭遇する見たこともないＧＴＭ。明らかに実戦テストというそのＧＴＭに圧倒されながらも果敢に戦う。…いつものあの調子で…。それこそが彼女に必要なものだったのだ。

●好きな科目：図画工作、保健体育、外国語
●好きな食べ物：にぎり寿司のタコ、デミグラスソースがいっぱいかかったハンバーグ、レモンスカッシュ



カラミティ星

フィルモア帝国
帝国近衛兵学校
高等部

●フィルモア帝国・帝国近衛兵学校・高等部

フィルモア帝国はその軍事体制のために兵学校は一般学校とは完全に区別されて騎士や軍人を育てている。帝国が筆頭の兵学校として深く関わっているのがこの近衛兵学校で、各地方、学校より選び抜かれた騎士や学生が集まっている。
学校生活で必要なすべてのものは帝国が負担し、学生には衣食住にかかるすべての経費以外にも正規の将校の20%の給料まで支払われている。学科の教練も最高の教材が使用され、騎士の教練にはＧＴＭホルダ31Ｃが使用されるほどである。
入学に年齢の制限はなく、資質、運動能力検査と試験にさえ合格すれば高校や大学からでもいつでも入学が可能だ。
高等部は通常の普通科の科目に加えて軍事教練、騎士教練など軍士官学校一般の科目が並行して行なわれる。これはほぼ通常の高校の２倍の科目となるために学生はすべて寄宿制、朝６時からの教練に始まり３時までの通常学科、夜８時までの士官座学と非常にハードな高校生活を送ることになる。

彼らが帝国内を私用で歩くときも近衛兵学校生徒としての誇りは24時間片時も忘れないようにと、在学中の私服は許されない。これはプライベートの時間を含むいかなる場合でもである。私服が着られるのは親元に帰ることのできる休暇期間や寄宿舎内の個室だけである。
また、たとえ王族、強力騎士家であったとしても、いかなる例外も許されないことでも有名である。

ナイアス・ブリュンヒルデさん

Naias Brünhild

騎士科　身長182cm　体重?kg

ナイアスの制服は高等部のもので、高校とはいえ、すでに軍人としての雰囲気が強く出ている制服である。ノイエシルチスのファティマたちと同じ様式の上着に制帽、プリーツのないスカートに肌色のストッキング、ヒールのついた靴と、大人びた格好である。このような制服は学生のまま実戦参加もあり得るために軍隊内に入ってもおかしくない制服となっているのだ。
この服は騎士科のもので兵学科のものはフィルモア将校服に準じたものとなっている。ベルトも帯剣を前提とした厚い革ベルトで式典用のサーベルを下げるカラビナが後ろについている。
ナイアスはレーダー王家の名門バリトー家の騎士であるが、フィルモア帝国では頻繁にある養子縁組である。これは有力な王家が強い騎士を出したいという例に沿ったことで、強力な騎士の力をもった子供を養子にしてその名を継がせることで家の力を保持しようとするものである。
バリトー家とは第12巻に登場したティルバー女王のいる家系で、ナイアスが彼女の配下で動いている理由がここにある。
詳しくは「デザインズ2」を見られたい。あまりに複雑怪奇なフィルモア帝国の列強王家である。

●好きな科目：民族学、フィルモア史、軍事教練
●好きな食べ物：カニ味噌、フォアグラの日本野菜醤油ソテー、ベルーガ、鰻重、豚しゃぶ

ブラウマ・イクさん
Brumma Iku

騎士科　身長175cm　体重?kg

ノイエシルチス、赤グループリーダー、イク様の登場である。「あの〜中等部のセーラー服姿を…」と言いかけたがそれを許さない空気は、さすがこの人物の人柄というべきか。ティルバーは悪役だから公開されましたが、イク様はそういうことはできなかった模様です。
学生時代からとても人気のある人物で、文武両道、その人柄、騎士としての経験と強さ、フィルモア騎士にとってお手本であり、あこがれの存在である。
多くの騎士にとってイクは手の届かない存在だが、イクを慕うものは帝国内外、騎士から軍人、政治関係者に至るまでとても多い。卒業と共にノイエシルチスに配属され、ノイエシルチスの一員として勤務しながらさらに上の帝国国防大学にまで行っている。現在帝国騎士団の主力はナカカラに配備され、イクは帝国内に残った騎士団すべてを見ている立場である。

この服は高等部騎士科の女性夏服で、ブラウス姿だが帯剣ベルトをそのまま着けている。イクだけでなく、騎士科の生徒の多くはこの時点ですでに騎士として実戦も経験し、様々なところに派兵され、経験を積んでいる。騎士科とは教練もあるが、実戦があるのは当たり前である。なぜなら騎士だからだ。

●好きな科目：近代政治論、宇宙工学、家庭科
●好きな食べ物：マルゲリータ・ピッツア、肉じゃが、徳島製粉のラーメン、うどん、セイロンウヴァティー

ドル・パーマネント・レーダーさん
Dolu Parmanent Lader

騎士科　身長178cm　体重75kg

このお方も出るかの、レーダー前皇帝陛下の若き日のお姿である。上着はシンプルな詰め襟、2列の学生ボタンで、夏期はイクと同じシャツ姿となる。下衣はレギンスに裾をたくし込んでいる。レギンスを着けない場合は下衣は普通のスラックス同様外に出す。パーマネント・レーダー家筆頭長子の陛下であっても近衛兵学校では情け容赦なく鍛えられ、黙々と一般兵と教練、授業を受けていた。その裏表のない態度にレーダーには友人も多く、後、帝国の重鎮となった者も多い。これはどこの国家でもよくあることで、やはり同じ釜の飯を食い、苦楽を共にした友人、戦友は長い付き合いになるということだろう。まあ近衛兵学校という帝国のエリート軍人、騎士を育てる機関なのだから国家の要職に就くのは当然ではあるが。

●好きな科目：文化人類学、民俗学、理科全般の実験
●好きな食べ物：チキンカレー、フィッシュ&チップス、歌舞伎揚げ、ウーロン茶

クリスティン・Vさん
Christine V

騎士科　身長168cm

クリスティンは過去の凶状のために自動的かつ強制的にここに入れられたと思われる(一般社会より隔絶するために)。だが、この近衛兵学校は帝国直下のために不安定な思春期を過ごすには彼女のためにも最善の処置であったかもしれない。
彼女の面倒をずっと見ていたのは町で、実際、彼女が側にいなければクリスはどうなっていたかわからないくらい不安定な状態であった。
しかし、中学生ですでにレーダー王家の皇帝騎とバランシェ・ファティマを所有していたことは彼女の非凡を示すものではあるが、それが逆に彼女を追いつめている一因であったことも確かだろう。

●好きな科目：地理、国語、音楽
●好きな食べ物：きゅうりのサンドイッチ、餡の入っていない饅頭、刀削麺、トマトと大根のシチュー

上着はセーラー服タイプのもので、この春夏服は綿素材である。付け襟はやはりフィルモア・ファティマのような手の込んだ刺繍が入っている。帽子は軍の制帽とベレーがいっしょになったようなもので一種独特のものである。
女子のスカートはプリーツの入ったこれまたクラシカルなもので、靴下は白の三つ折りである。冬季は黒のストッキングとブーツとなるが、素足にソックスのままでもかまわない。隣は冬服で、制服の生地は同じ綿だが裏地が入りしっかりとしている。また各所に装飾が入る礼服的なものとなる。

フィルモア帝国 帝国近衛兵学校
中等部

●帝国近衛兵学校・中等部

近衛兵学校の中等部は高等部よりも学生らしく、まだ軍学校の予科練という雰囲気がある。学科もほとんど一般の中学校と同じである。しかしすでに寄宿制で、この頃より帝国の軍人となるべくたたき込まれていくのである。
寄宿舎は個室が基本であり、すでに騎士登録を受け、特別な許可を持っている生徒に限ってはファティマとの同室が許される。当然クリスティンには町が同室しているが、洗濯など、身の回りのことは生徒自身がしなければならない。また男子学生のファティマに関しては同室ではなくファティマたちは別の場所に集められ、そこで暮らしている。さすがにこのあたりは厳格に管理されてはいるが、生徒の時点でファティマ持ちはそれほど多くはないため、彼女らを好気の目から守るために寄宿舎内では様々な規制がある。
中等部は高等部に比べると授業時間は短く、朝6時に始業、ただし、早朝5時半から掃除奉仕があるため、起床は5時、就寝は夜10時と至って厳しい。
もちろん食事、入浴の時間も細かく規定されており例外行動は許されない。ほとんど軍隊生活同様である。

制服は靴もすべて男女別に規定のものであり、ジョーカーのほかの兵学校や通常学校よりも細かく規定が定められている。あくまで軍人として規律のとれた姿を一般帝国民からも求められているからである。それは帝国民の模範として、国費を使って制服や生活費を支給されていること、さらに何より帝国筆頭の軍学校生徒としての各自の誇りがそうさせているのであろう。
生徒たちの唯一の楽しみは、夕食、入浴後就寝時間までの間に寄宿舎内にある「酒保」での買い物である。
原則的に自由に外出を許されない本校の生徒たちにとって、酒保で買ったものを見せ合いながらおしゃべりなどをする時間だけが本来の年齢なりの素顔に戻る時間なのだ。

(酒保～ＰＸ、軍隊内での購買部のこと。ちり紙から菓子、ロケットランチャー、ガット・プロウまで何でも売っている。「パルスエット」にて登場する「騎士公社」がまるまる入っている。その規模は市外のショッピングモールくらいある。騎士公社はそれに加えてセイラーや払い下げられた中古のＧＴＭまで売っている)

ビオレート・トライトンさん
Prince Lader' Biorate Tryton

普通科　身長182cm　体重68kg

トライトン王子の若き日の姿である。中等部とは言っても地球で言うと、16、7歳くらいまでなので、トライトン殿下も中等部とはいえ大人びて見える。
ジョーカーの中学、高校は日本の旧制中学、旧制高校に近く、現在よりも一つ二つ学年的には上と思っていただいて良いだろう。白線制帽、詰め襟、銀ボタンにマントは旧制高校のトレードマークであった。ただもうひとつ、足もとは下駄だったが、さすがにフィルモア帝国ではそれはない。
レーダー王家の王子ということでいろいろなプレッシャーもあったであろうが、あのとおり剣の腕はこの頃より抜き出て、高等部でノイエシルチスの団員となっている。授業教練は王子であっても手加減なしではあったが、ノイエシルチスのメンバーとして活動するには周りに気を遣いすぎるということでパルパロッサ家の指南役として騎士たちを鍛えていた。

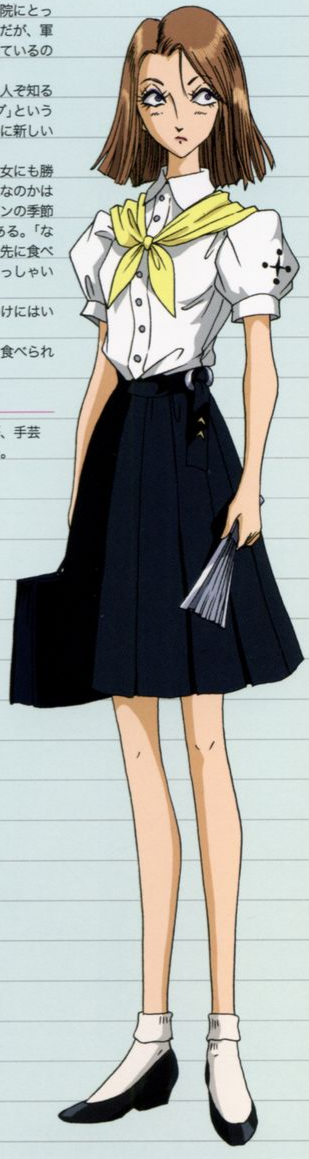
●好きな科目：地理、生物学、民俗学
●好きな食べ物：スペアリブの煮込み、鯛の塩焼き、クラムチャウダースープ、森永エンゼルパイ

アネッサ・ティルバー・バリトー女王さん
Queen Annessa Tilbur Barrito

普通科、参謀科　身長163cm　体重 ?kg

「デザインズ4」からの再録だが、近衛兵学校の女子夏服ということで再登板である。「デザインズ4」にも書いたが、彼女の本分は参謀科である。その頭脳は帝国元老院にとってもなくてはならないものとなっている。細い体だが、軍事教練は帝国屈強のエリート兵と共に一通り受けているので体力はかなりあるそうだ。
趣味は意外なことにスイーツの食べ歩きで、知る人ぞ知る「スイーツのイエローページ、デザートの食ベログ」という称号を持っている。なので学生時代は彼女の周りに新しい店の情報を求めて女生徒が群がっていた。
ただし、最新最強クラスのスイーツに関しては彼女にも勝るとも劣らない強力なライバルがいる。それが誰なのかはこの図鑑を見ていればわかるだろう。キルフェボンの季節のフルーツタルトすべてを押さえている女子である。「なんたることぞ！今年のイチジクタルトをあやつに先に食べられてしまったぞよ！！！」とこの前怒っていらっしゃいました。
「あ、だが最強のスイーツはまだ教えてあげるわけにはいかぬぞよ。コロコロコロコロ」
「教えるわけはなかろう？流行って人が増えたら食べられなくなるではないか！」
やっぱ悪役だわ。

●好きな科目：戦略理論と戦術理論の矛盾、国語、手芸
●好きな食べ物：春水堂のタピオカミルクティー。エルメのイスパハン



こいつ・さん
Koitsu"Queen of Scholti Brau Fillmore"

普通科　身長168cm　体重49.6kg

やっぱり出たかのこいつである。
ギリギリのミニスカ履いて授業サボって繁華街を闊歩していたようだが、見た目だけはこの容姿なだけあってモデル事務所だのゲーノーカイのスカウトだの怖いお兄様方からの干渉は頻繁にあったことであろうが、3日もしないうちに繁華街のそういう方々からは「あいつはやめとけ」というお触れが行き渡っていたという。
だいたい由緒ある帝国兵学校でもなく、帝都立の普通高校というところでこいつの素行は察しもつく。
つーか、息子のジークとの年の差を考えると地球年齢10代での出産で、ヤンママである。なんかミラージュ騎士団にもそういう女性がいたような気がするがあいつもどっかの王女だったはずだ。
鞄からは今時よろしくいろいろなものをぶら下げ、PASMOの定期ケース、ブタさんのスマホストラップはともかく、ブランドマークの入ったリングチェーンはどっかで見たことがあると思ったら、ノイエシルチスの正式リングベルトそのままである。やりたい放題である。
騎士科でないのは「騎士科なんかに入れたら暴れ回って手が付けられないので、一般の普通科ならこいつも力出すのをためらっておとなしくしているだろう」というレーダー前陛下の助言によって都立校にぶちこまれた。そのレーダーの判断は間違ってはいなかったようだ。

こいつは「公務」の時には「目を思いっきり細めて威厳を出しているんだよぉ〜〜〜」だそうで、この図鑑の他のページにその眼を細めた状態のこいつがいるはずだが、こっちの顔のほとんど目じゃないか？状態が普通の顔ということである。とはいうもののこういう輩が言うことはその場その場のデタラメなので信用度は非常に低い。
その証拠に、
「ちょと目を見せろ！あ、やっぱり！！お前、下まぶたにホワイトライン入れてちょっとでも目をでっかく見せようとしてるな！！バレバレじゃ！！」
…噛みつかれた…。
ぜえぜえ、こいつの解説は体力使うわ。
コンプレックスと弱点は気合いの入っていないへろへろの髪の毛だそうだ。
はいはい、可愛いねえ。ママになっても可愛いねえ。こいつだけ何気なく体重ばらされてるのも可愛いねえ。この嘘くさい端数があるのは大台に…え？髪の重さ引いたらもっと減るって？はいはい。
…放置！！
つーか、こいつ退学になってんじゃん！
夜遊びしてる時に補導員にとっ捕まったからそいつをカブキチョーの噴水に投げ込んだ？
仕方ない…。
「すいませーん、こいつ入れてくれる高校ってどっかないですかぁ〜〜」
「……」
「ないってさ…そらなあ…ないわなあ…」
「え？こんな時のために裏口入学できる高校があるって？？それも星団最高の偏差値がないと入れないとこ？？うそこけ！」
「……あったわ……」

●好きな科目：すべて苦手
●好きな食べ物：ドーナッツプラントのバニラビーンズ。ディーンアンドデルーカのトマトジュース。グリコのミカド（グリコがフランスに輸出しているポッキーのフランス商品名）。ケンタッキーフライドチキンの胸部位

ちなみに制服は昨今よくあるアイドルの衣装と勘違いしたようなやつである。羽織っているパーカーは私物で、制服ではない。こういう制服みたいのも裏原宿でよく売っているが、あれ買うのって現役じゃない方々の他、現役が買ってその場で着替えたりしていて、女高生であることは間違いないが、違う制服みたいなの着て原宿や渋谷を闊歩って、…いいなあ。ほんとに服に関しては安く買えるしどんな服でも売ってるしいい時代だよね。80年代はそういったいい服やちょっと違う服はほとんどがブランド品だったから高くても買うしかなかったという時代だったのかもね。

カラミティ星

フィルモア帝国帝都デュアンス都立高等学校＞退学＞???普通科

イアン・ケーニヒさん
Prof.Dr.Ian König

普通科　身長182cm　体重68kg

意外なことにケーニヒも都立の普通科である。これは先のエイブ・ロゥと同じく学位と博士号取得のための普通科だと思われる。とても明るく気さくなケーニヒは学校でも人気があったことだろう。元気が良すぎてノイエシルチスからは一度追い出されるがアルカナナイトとして戻ってきているのはご存じのとおり。
教練は一通りはやらなければならないためにこの都立校から帝国近衛兵学校に週末や夏期休暇の時に通っていたという。かつて連載の扉ページにも登場している美人の奥様とはそこで知り合ったらしい。また、奥様の後輩だったナイアスとも知り合い、窮屈な帝国騎士団にぶーぶー言っていたという。なのでこの2人は現在も顔見知りである。

●好きな科目：数学、物理、社会経済学
●好きな食べ物：ハッシュドポテト付きのバタートースト、3段積みクリームとマンゴーのパンケーキ、日本茶

ソーニャ・カーリンさん
Sogno Karlin

普通科　身長165cm　体重?kg

「すと・お〜〜〜っぷうううううう！！！」
「わたし？？え？わたし？？わたし？？ききき、聞いてません！そ、そのうえここ、こんなはじ──時代の…。生足自信ないので写さないで〜〜！」

ま、こっちが帝都立高校の「ちゃんとした」制服です。男女ともまったく昨今のそこらの流行学生服と変わりません。さっぱりひねってありません。まんまです。が、そこがまた「都立」というところなんでしょうか。
今回もインタビュアーとして頑張ってくれたソーニャさんでした。ファティマ・イエッタ女学生版そのままですけど。
カラミティの高校だったんですね──。はじーとか言ってますけど、靴は学生用によく見るペニーローファーじゃなくて先の細い大人の女性がスーツに合わせるタイプのローファーなのがこだわりってとこですか。
都立デュアンス高校在学中から予算も下りないジャーナリズム研究会で走り回っていたカーリンさんですが、有志のカンパもあり、今回もほぼ星団中を飛び回っているいろな方々のレポート＆インタビューを取り付けております。ご苦労様です。高校生だからできた突撃インタビューで普段は絶対不可能な国家や騎士たちを取材しております。

●好きな科目：外国語、音楽、言語史
●好きな食べ物：サンマの塩焼き、パルメジャンチーズがいっぱい乗っただけのペンネ、桃ジュース

アルル・フォルティシモさん
Princess Melody.Arr Fortissimo

騎士科　身長162cm　体重?kg

アルルはまじめな王女なのでちゃんと落第せずに卒業したが、イラストをよく見ると……。やっぱりコーラス王女……であった……。
大人になるとコーラスの家系は皆、ほかよりも遙かに落ち着くのだが、思春期はどうもあーなっちゃうらしい……。
ほかの国の王女たちも皆そうであるが、ほっといても目立つ、できれば目立ちたくないので服装は非常にノーマルである。スカート丈を変えたり、ファンシーな鞄を持ったりはしないようだ。
さて、制服だが、他の国家に比べて熱帯にあるコーラス王朝の気候にあわせて、服の色は明るい色で統一されている。また、ほかの学校に比べても軽快感があるのもジュノー星ならではのものであろう。季節による変化はないので、生徒たちはいろいろと工夫しているようだ。

●好きな科目：星団史、環境学、地理
●好きな食べ物：ミミガー、島豆腐、ソーメンちゃんぷる、ウスターソースだけをかけるカツ丼、中身汁、香菜のいっぱい入ったエビ入りフォー

ジュノー星
コーラス王朝 ウィンド高等学校

●ウィンド高等学校

コーラス王家の名門、メロディ家のアルルが通っていたのがこの高校である。兵学校も併設されている総合高等学校であり、ここには歴代コーラス王家関係者も多く、エルメラ王女はこの高校でコーラス３世と知り合っている。
もちろんアルル以外にも、セイレイが後輩としていまも通っているはずだが、グリースの内宮高等学校やフィルモアの近衛兵学校などでは実戦参加による休学は認められているにもかかわらず、ここは情け容赦なく「出席日数が足りなければ落第！」という勇ましい校風で、
も・ち・ろ・ん・
歴代コーラス「王子」は落第しまくっている。
と・う・ぜ・ん・
現在ハスハに来ているセイレイも落第ほぼ確定の身分である。しかし、コーラス王家には「落第こそ王家筆頭の証明」などという訳のわからない理屈があり、セイレイの落第も好意をもって受け止められるはずである……と、セイレイ本人は思っているもよう。だが、彼女の落第について周りは、出席日数が足りないというだけではない、と思っているはずである。
普通科、商業経済科、農学科、工学科の他に騎士科があり、コーラス王朝直下の騎士団教練がある。のどかなイメージだが、フィルモア帝国を上回る厳しさであるという。この学科の多さは王朝筆頭の国家直結高等学校であることを物語っている。
高校が終わるとほぼエスカレーター式に「コーラス王朝大学」に入学する資格を得る。これは他星、他国の学生であっても区別されず、多くの学生がこの高校に他所から集まってくる。王朝大学に入る確実なコースのためにウィンド高校の門は外部にも広く開放されている。

エルメラ・フロンドゥさん　全盛期
Hermella Flomdo

普通科　身長168cm　体重?kg

…眉毛剃ってる……。

いえ…なんと言いますかその…。ほら、いろいろなジョーカーの学生服ということで今回は男子もいっぱい出して、…とか…すいませんすいません、なんだかわからないけれど、とりあえずすいません！
ってことで、え〜〜次の学校に…。
ひぇぇ！引き戻された。服のこと聞けと？は、はいはい。え、えと…。あの〜〜制服の前がはだけて…お肌が相当…見え…。え？暑いからに決まってるじゃないか？そ、そうですね、その通りです！　いやこの気候ではやってられませんよね！私も胸元はだけちゃいますね！そうです…で、でででも暑いのにロングスカートなのは…？どげっ！ボカッ！…か、鞄キッツいですね——。さすが針金で縛って薄くしてあるだけのことは…中に厚さ5ミリの鉄板が入れてある？そうですか。え？話は戻って、女子高生の貴重な生足をただで見せられるか？？そうですそうです。そのとお〜〜〜りですね！！私も生足見せるの嫌で…だから長いスカートと…。足もともなにげにおしゃれなのはさすがです！こ、これはルブタンのサンダル…じゃなくて便所サン…い、いえ！！あ、！なるほど、ウィンド高校はその気候のためにサンダルすべてオッケーですものね！！ではこのへんで！！

●好きな科目：国語、古典、数学、科学、その他のあらゆる授業をフケること
●好きな食べ物：焼き肉、ニコチン、麦のソーダ水、腐ったブドウジュース

エルメラ・フロンドゥさん　その後
Hermella Flomdo

普通科　身長168cm　体重?kg

…眉毛書いてる……。

「…あの…1年ご無沙汰でしたけど、ななな、なにがあったんでしょうか？？」
しばし沈黙の後…。
「…なん…です…」
「は？」
「あの方が留学から戻られて…」
「は？？」
「あ、…あの方に、廊下で、あれ？君、いい匂いしてるね？って、言われたんです…その日以来眠れなくて…」
「…おおううううう〜〜そうですか！そうでございますか！首の傾き方は同じですが、まったく違いますね。それにサンダルに透け透けの白靴下可愛すぎじゃないですか！」
「あ…あの、これは…恥ずかしいんですけど」
「はいはい、なんでしょう？」
「…あの、…あの子も…はいってるじゃないですか…ですから同じ感じのものをって…お目にとまるように頑張ってます…」
「？？…あの…子？…？おおおおおお、あ、あの…ウ…ウリ、なんとかっていった。奴らの美少女っぷり無敵アイテムですからね！」
「なるほど！、応援します！！なんか涙が出てきました！頑張って下さい！！さすが女子人気の高いエルメラさんです！やっぱコーラス、ここまでやるかのハンパねぇ〜ですね！普通逆のパターンですが、！！さすがです！」

●好きな科目：ジュノー詩学、家庭科全般
●好きな食べ物：原宿のエッグスンシングスのパンケーキ、都路里の抹茶パフェ、キルフェボンの季節のフルーツタルト、今年はハニーシードレスがお勧め。舞鶴ミカ・マーレのヴァローナチョコジェラート（最高クラスのイタリアンジェラート、地元ひいき抜きで絶品）

ヘアード・グローバーさん
Haird Grover

騎士科　身長172cm　体重?kg

若かりし日のヘアードさん。
物語中ではマグダル皇女の追跡という大変な任務を負っているが、なんだか幸せ絶好調的な空気もあって、動向が非常に気になるキャラクターである。もともと彼女はそういう役目の家柄なので本質的に自分に与えられた役目を理解しているようだが、やがては動乱の中心に彼女も巻き込まれていく。
で、彼女の女高生時代のシートを描くといったら周りから「痛そうだからやめてください」とか言われた。失礼な話である。このころの彼女は頬もふっくらしているし、目もぱっちりしている。かわいいじゃない。そーゆーふうに描いたんだけどさ。

女学院の制服はハスハの学校に多いハスハグリーンにハスハイエローの模様が刺繍で入っている。この刺繍はＡＰ騎士団やハスハ王宮付きの制服に見られるものと同じで、国家直結という意味合いも含んでいるのだろう。
制服はオールシーズン着用可能なタイプで、夏は上着を脱いで、半袖のブラウスとなる。

●好きな科目：ボォス史、地理、国語
●好きな食べ物：ひよこ豆とチキンのカレー、バターたっぷりのナン、プロシュートと千切りキャベツをはさんだフランスパン

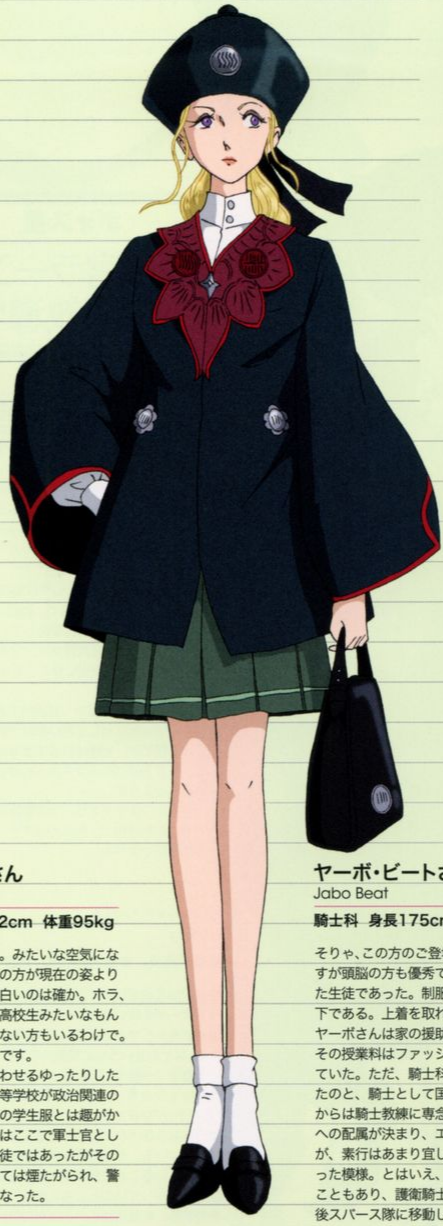
ボォス星

ミノグシア連合 ハスハント国立 スバース宮殿女学院

●ハスハント国立スバース宮殿女学院

スバース宮殿女学院は騎士学校ではない。ミノグシア大陸とカステポーすべてを仕切るハスハ連合共和国の共同女学校ともなっている。学校の所在は首都ベイジではなく西部のスバース市にあり、非常に巨大な規模の学校である。
根幹を成すのはハスハの政治や行政機関の公務員となるための教育で、軍事に関わる士官学校や騎士学校はそれぞれ軍士官科、騎士科と分かれて学部のような扱いとなっている。騎士家や名家の女性たちが多く、卒業生の大半がハスハ各国の軍や政府に関わっていくことになる。ここの卒業生は行政の国家試験をパスしたのと同等の資格を得ることができるのである。
この女学院は高等科と大学がミックスされ、授業によっては高等科と大学の学生がいっしょに授業を受けることも多い。ヘアードの場合は高等科を卒業後、騎士教育を受けるための学科に移り、その後ＡＰ騎士団に入団している。
ハスハ連合共和国が分断される前は基本的にすべての国家から学生を受け入れていた。また、ほかの騎士学校でもよくあることであるが、他国からの留学生の場合は卒業後にその国家の国籍を得ることも可能である。

＊スバース女学院追記
スバース女学院が「女学校」で、なおかつ騎士科があるというのは「聖宮ラーンの詩女を警護する女性騎士を育てる」という名目があるからなのだ。だからヘアードはスバース女学院卒業でラーン神官なのである。
13巻で登場してきたドヌープや現在はバルンガの補佐的な役割のニナも女学院出身である。とはいえ実力主義の騎士の世界、ＡＰ騎士団ラーン支隊は旧ハスハ12カ国からの精鋭である。
また現在は失われたベイジ高等学校を併設する形で、一時的に共学となっている。



ボォス星

ミノグシア連合 旧ハスハント国立 ベイジ高等学校

●ハスハント国立ベイジ高等学校

こちらは旧首都ベイジにあった高等学校と兵騎士学校がいっしょになったハスハントの名門高校である。ハスハントの優秀な政治家を産み出す目的で設立され、軍事関連科目も当初から多く、騎士科もある。

残念ながら3030年のバッハトマ強襲でベイジは王宮以外ほぼ破壊され、この学校は現在ない。

エリート意識はとても強い校風であったという。

ここからは故コレット王やバルンガ参謀など、旧ハスハの主要な人物が卒業生として多くいる。

またその制服はムグミカがよく着ているようなゆったりとした制服である。高校ながら大学レベルの政経科がメインで、軍学科は兵学校同等の軍士官科、騎士科となっている。

ロータス・バルンガさん
Lotus Baloonga

軍士官科・騎士科　身長182cm　体重95kg

もうこうなったら誰でも出す。みたいな空気になってきましたが、男子生徒組の方が現在の姿より変えられるところが多くて面白いのは確か。ホラ、女性はいくつになっても女子高校生みたいなもんだから等身くらいしかいじれない方もいるわけで。

と、いうことでバルンガさんです。

制服は近代日本の司法着を思わせるゆったりした上衣と帽子である。ベイジ高等学校が政治関連の高校ということもあり、通常の学生服とは趣がかなり異なっている。バルンガはここで軍士官としての教育を受けた。優秀な生徒ではあったがその策略的な思考は騎士団においては煙たがられ、警察騎士団という特殊な配属となった。

●好きな科目：近代政治学、ミノグシア史、国際経済学
●好きな食べ物：井村屋のあんまん、ココナッツカレー、トムヤムスープ、パナマ・ゲイシャ（かなりのコーヒー通）

ヤーボ・ビートさん
Jabo Beat

騎士科　身長175cm　体重?kg

そりゃ、この方のご登場ですね。在りし日のヤーボさん。さすが頭脳の方も優秀でその容姿も相まって高校でも目立った生徒であった。制服は女子用で裾が短く、スカートに靴下である。上着を取れば女子高生らしいベスト姿である。

ヤーボさんは家の援助を受けず奨学金を受けていたのだが、その授業料はファッションモデルのアルバイトでまかなっていた。ただ、騎士科に入り、身長がさらに伸びてしまったのと、騎士として国家から報奨が得られるようになってからは騎士教練に専念できたという。在学中にＡＰ騎士団への配属が決まり、エリート騎士として歩むこととなったが、素行はあまり宜しくなかったらしく、謹慎処分は多かった模様。とはいえ、若いムグミカ王女に近い年齢ということもあり、護衛騎士としてムグミカに仕えていた。その後スパース隊に移動しているが、ムグミカ、ヘアードと仲が良いのはこの時代のなごりである。

●好きな科目：教練、国語、歴史
●好きな食べ物：タマゴかけご飯、しっぽくうどん、六本木エストのイチゴショート

ボォス星

聖宮ラーン
アトール教導学院

●ラーン教導学院

「デザインズ4」に詳しいが、星団暦初頭の詩女が創設した学校で、ひとつの都市以上の規模を持っている。幼児の保育園から大学院まで教育というあらゆるものを内包している。

ラーン教導学院の中等、高等部は通常の科目に加え、「閃光心練科」というものがあり、これが「ブリッツェン・フォース」を持つ者、ボルテッツ、スコーパーたちが勉学に励む科目となる。

学校そのものとしては星団一と言われるほどレベルが高く、星団に冠たる多くの人物を輩出している。学院長は歴代詩女で、学生たちは詩女を身近に見ることができる。

制服は一種独特の制服で、普通科であってもラーン様式のゆったりとした軽い素材の制服である。男性は一種だが、女性はひざ下までのバルーンパンツ、ひざ上のバルーンスカートのどちらかを好みで選べるようだ。

この学校からはやがてラーンの執政を担う人材を育てることも目的で、対外的なマナーや一般政治学も高等部で学べる。

●アトール聖導王朝

天照の星団侵攻後、現ミノグシア連合(旧ハスハ連合) はボォス星の独立自治とA.K.D.の侵攻に備えてミノグシア連合調停議会を「アトール聖導王朝と改名した。国家の名前ではないが、ハスハの統一された総称としての意味も持っている。

その中心は聖宮ラーンであることに変わりはないが、ここにＡＰ騎士団をも内包する巨大騎士団が誕生した。

ダリ・キアが開発した「ＧＴＭアトラ」が配備される聖導騎士団「アイル・フェルノア」が置かれる場所ともなる。騎士団長キャナル・アイデルマ神聖教官が率いる大侵攻後の星団最強騎士団と言われ、ＡＰ騎士団はもとよりフィルモアのノイエシルチスやクバルカンなどもここに合流している。星団３大ＧＴＭがひとつの国家に集まり配備されたのはここだけである。

星団暦3075年にマグダルと天照の間に交わされた「個人的な約束」によってこの地は永久の独立自治を獲得するが、星団侵攻後の天照がここを支配下に置かなかったのはその約束以外にも理由がある。

もちろん天照はこの地が「セントリー」の支配下にあるというのもあったが、不干渉とした最大の理由は天照とコーラス３世が作った史上最強のＧＴＭ「ジ・エンドレス」と「クローソー」がいたからである。

この地を制圧しようとするならばミラージュ騎士団のＧＴＭ「ツァラトゥストラ・アプター・ブリンガー」を持ってしても、星団３大ＧＴＭすべてが配備され、詩女マグダルと剣聖デブレが本気を出して戦いに参加すれば制圧どころか勝つことも非常に難しいことであった。

ましてクローソーの駆る「エンドレス」が万が一にでも眠りから覚めればツァラトゥストラ・アプター・ブリンガーですら全騎が破壊される可能性が非常に高く、天照にとっても武力でこの地を完全制圧することは最初から考えていなかったということである。

ラーンは魔導大戦後、消耗しきったミノグシアから立ち直るべく国家の再編成に入ったが、近郊に大戦後ある人物が作った戦災孤児の集落が徐々に巨大になり、ここの孤児施設からコーラス・シックスが出ることになる。この孤児施設創立者こそが詩女ナカカラがフンフトを通してクリスに与えた預言、「意外な人があなたとダイ・グ陛下が歩く道を示してくれます」と言った人物でもある。

ツィー・ミンさん

Zi Ming

高等司政科　身長165cm　体重 ?kg

物語には名前だけやイラストだけが公開されて、まだ物語には登場していないキャラクターが多数いる。しかしそれらのキャラクターは物語が進めばいずれ自然に登場する者たちである。「ショウメ」や、この冊子で初めて名前が出た「ジークボゥ」「アトラ」なども近いうちに間違いなく登場する。しかし、このキャラクターだけはそういう意味で今後の「Ｆ.Ｓ.Ｓ.」に登場するのかどうか作者もわからないのだ。

このキャラクターがお目見えするまでには困難な作業が待っている。それだけに「この子」が登場するとき、読者の方々はどんな想いで見るのだろうか？

単行本第９巻より、物語と登場するすべてのキャラクターはとある終着点に向かって進んでいる。そして第９巻より物語の主人公は魔導大戦の終結まで「炎の女皇帝」になっていることに気がつきはじめた方もいるかもしれない。

彼らが向かっているところとは？

その回答、終着点はこの少女なのである。

そしてさらにその終着点こそが「ファイブスター物語」の出発点となるのだ。

終着点と出発点を兼ねるキャラクター。それがこの少女だ。

●好きな科目：統合史、ボォス史、天文学
●好きな食べ物：たけのこの煮物、ゆず大根、おでん、鯖入りのばら寿司、かまぼこ、エビの入っていない茶碗蒸し

ショー・カムさん
Shou Camm

大学部司法科　身長178cm　体重62kg

最後を飾るのは騎士ではなく一般人である。
聖宮ラーンのラーン教導学院の男子。ラーンの学校とは言ってもボルテッツでもないごく普通の男子生徒である。
教導学院のドミトリーで暮らし、目立たない質素で寡黙な学生であった。
過去形になっているのは現在この男子はもうこの世にはいないからだ。彼は若くしてこの世を去っている。彼の在学中に詩女フンフトの詩女剥奪という大事件があった。

この服がラーン教導学園の男子制服である。
膨らんだ帽子とベスト型のスーツが女子同様特徴である。教導学園の高等部は大学並みの単位制度なので、地球で言う16歳くらいから24歳くらいまでが平均的な学生である。これは高校と大学の教養課程が一緒になった旧制高校や現在の高専、つまり高等専門学校と同じ感じである。
その制服はさすがに女子とは違って各部の膨らみは押さえられている。胸元にあるのは優秀な学生に贈られるメダルで、在任中の詩女から直接贈られる栄誉あるものである。
この服は現在の6話においてラーンの神学生の制服として登場機会は多いだろう。

ショーカムは学生だが一児の親。ジョーカーではその広い年齢帯のためにショーカムのような10代後半の高校生でも子持ちは珍しくはない。地球で言うと20歳くらいだろうか。
死期を悟った彼はまだ子供のような恋人と幼子を連れてアドラーのバランシェ部で最後の時間を過ごした。
そしてバランシェは彼らの2人目の子供を取り上げたのである。
ジョーカー星団の医学、そして星団最高のガーランド、クローム・バランシェを持ってしてもあがなえないショーカムの寿命、自然の摂理…。2人目の子供が生まれてすぐに彼はこの世を去った。

「なんでお前と出会ってしまったのか」
彼のこの言葉は彼なりの恋人に対する最大の愛の表現だったのかもしれない。
このエピソードは短編で構成される「トラフィクス3・パルスエット〜二羽の小鳥」の中で語られるだろう。

●好きな科目：すべて
●好きな食べ物：ドーナッツプラントのヴァローナチョコ、ケンタッキーフライドチキンの手羽先、コラ・コーラ

作品集「デザインズ5 リッター・ピクト」をお届けします。

「デザインズ4」を作っている時、最初の構想では最後に星団の主な騎士団の制服を掲載するつもりでした。

ところが実際に作業を始めるとひとつの騎士団に数ページはかけないと中途半端になると気がつき、別の作品集にまとめた方が良いと判断し、この「リッター・ピクト」となったわけです。

当初の予定ではミラージュ騎士団やコーラス騎士団も入れる予定でしたが、この2つはそれだけで1冊できてしまうくらいのページが必要で、「騎士図鑑」とは違うものになりそうだったのでまた別の機会になります。ゴメン、アイシャ。

学校案内が倍以上のキャラクター収録になってしまいましたが、やはり「男子」の存在がないのはつまらないのでばんばん突っ込んでしまいました。

学生であるということで、本来なら「使用GTM、ファティマ」という項目が「好きな教科」「好きな食べ物」に代わり、オリジナル版の時にはGTMスタジオでの作業だったので周りのスタッフからニュータイプの編集女子、当時食べていた近所の食堂までいろいろなところから寄せ集めてあり、結構楽しめました。まあほとんどは僕の好きなものだったりしますけど。

と、いうことで、「リッター・ピクト」今回のダークホースはエルメラさんでした。ティルバー女王と星団最強の「スイーツ・クィーン」の座をかけての戦いっぷりも高得点です。いや、ほんとに2人ともホンマモンのクィーンなんですけどね。

「こいつ」も頑張って騎士団からコラム、学校案内まで、そこかしこに登場していますが、いかんせん浅知恵でエルメラさんのど迫力には太刀打ちできなかったというところでしょうか。

「ねえ〜〜あたしのラーンの制服載せてよぉ〜〜〜、ミニスカ改造バージョン！」

放置！

ページがないわ、ぼけぇ！

永野護

MAMORU NAGANO
F.S.S. DESIGNS 5
LITTER.pict

構成・イラスト・文
永野護

編集・担当
水野寛

星団グルメリポート担当
榎本郁子

装丁・デザイン
朝倉哲也(design CREST)

レイアウト
designCREST
田畑善行
保見千衣子
清水大輔
藤田真利子

国家マーク作成
藤島千恵

学校校章
designCREST

セル彩色
中内照美(アニモキャラメル)

印刷
小川一寿(大日本印刷／プリンティング・ディレクター)
佐々木祐樹(大日本印刷)

永野護マネージメント
株式会社KADOKAWA
ニュータイプ編集部

Thanks
井上伸一郎
佐藤光洋(アニモキャラメル)

ファティマ・パルスエット
Fatima Palsuet

身長158cm 体重40kg

今回あらためて見直すと、なんと、ファティマが「ティス」「静」と「パトラ」、おまけの「エスト」しかいない！ということに気がつき、ラストを飾るのは"パルセット"さんになりました。
この服は特殊な服で、デカダン・スーツでありながらアシリア・セパレートの特徴を持つとても特別なスーツです。現在星団でもこの１着しか存在しないスーパースーツで、「ダブル・アライメント・スーツ」と命名されたお金では買うことのできない１着。なんと言ってもこのスーツはアシリア１着とデカダンスーツが２着ものコストがかかってしまうので、わざわざ作る必要はないスーツです。ヘッドキャパシタは特別製で、ユリの花のモチーフのカチューシャタイプを今までのコンデンサに接合しています。このスーツには様々な機能が内蔵され、とても重要な役割を果たします。
ＧＴＭを持たないヨーンにとってこのスーツの重要性がどれほどのものなのかはまだわからないでしょう。
ひょんなことからこのスーツがパルスエットに渡されたことは今後のヨーンとパルスエットの歩む道がとても大変なことであることを示唆しているようです。
1980年代の終わりにヨーンとパルスエットの物語ができてからようやくそのストーリーが始まります。
「トラフィクス」という長い物語に１から４まで、３話からずっと登場するキャラクターがこのパルスエットなのです。

３パートに分かれる「パルスエット」のエピソードはどれも彼女が中心となって展開します。「ツラック隊」は120ページほどの中編ですがパルスエットは３つの短編構成になります。なんとかこれらを14巻にすべて収めたいところですが。
「第６話・時の詩女～アクト４・ステージ１・ファティマ・パルスエット」
そのエピソードは、
「パルスエット」
「ブラック・プリンス」
「二羽の小鳥」
になります。
この３つのエピソードすべて第６話のエンディングに直接繋がるとても重要なエピソードを内包しています。この、パルスエットに絡んでいるキャラクターたちが６話のエンディングを飾るということでもあります。
ツラック隊、トラフィクス３共にたくさんのキャラクターが登場し、内容的にも非常に濃いドラマが展開します。
どうぞお楽しみに。

あ、こっちがあとがきっぽい。とほほ。

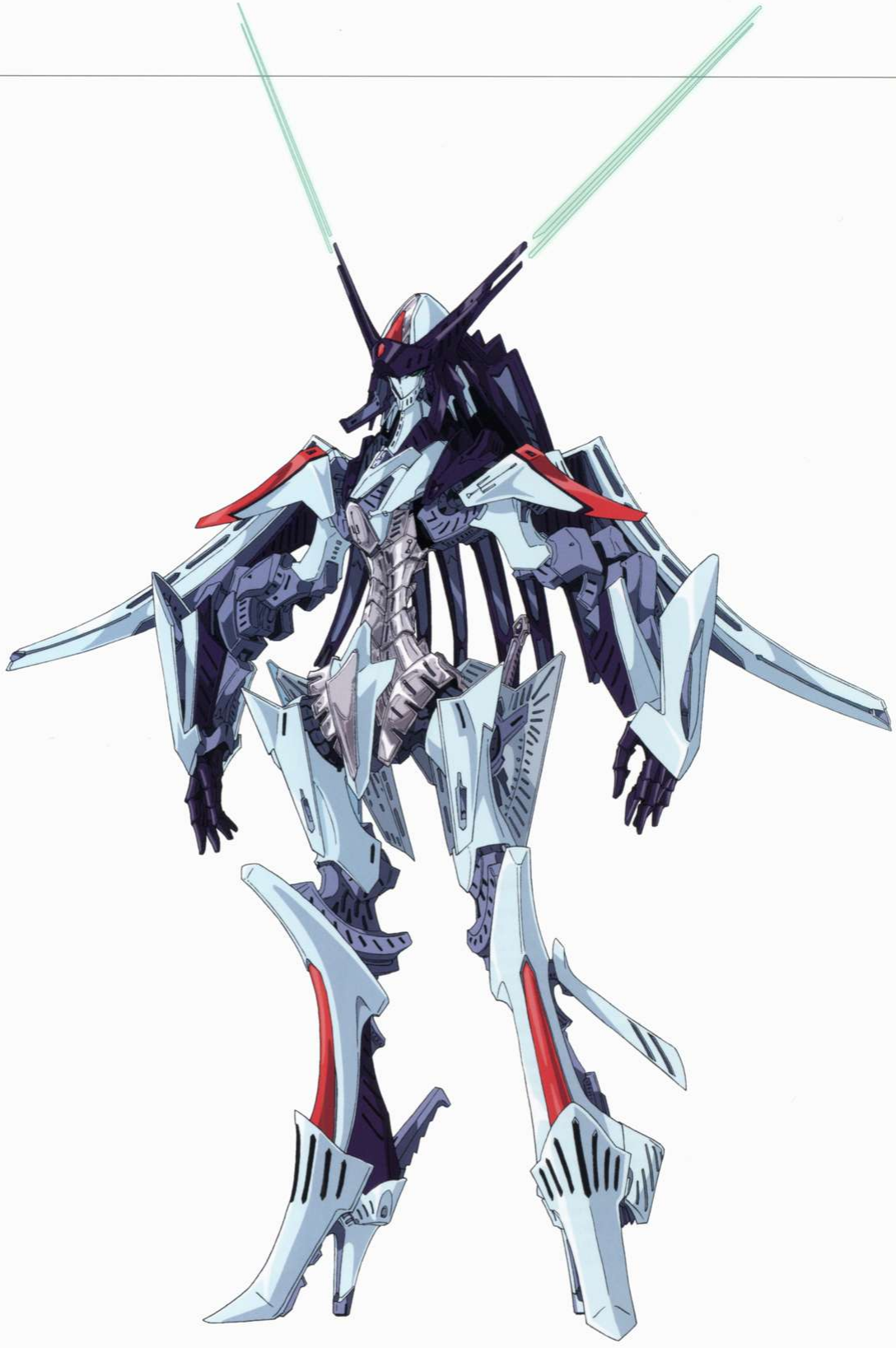
Co-lus Insignir ROBOTER

GTM HL1

全高25.2m　自重244t

ライオン・フレームのサイズダウン版とも言うべき「チータ・フレーム」を持つ傑作ＧＴＭ。
現在３騎が存在し、総称として「エイチエルワン」と呼ばれることが最も多いが、コーラス王女たちの持つ各騎は、それぞれアルルの持つ「ＳＲ１」、マロリーの「ＳＲ２」、そしてセイレイ・コーラスの「ＳＲ３」と呼ばれている。３騎共に装甲や装備などは違うが基本的に同じものである。
一般的には「ハイレオン」と愛称的に呼ばれたりするが、コーラスではＨＬ１の呼称である。
2989年、天照のハーモディック・エンジンを搭載し、コーラス・サードが作ったものが「ジ・エンドレス」である。エンドレスのみ固有名詞を持ち、ツイストエンジンのためにエンジン搭載位置が大幅に変わり、装甲外見も完全に異なっている。そのためエンドレスはＨＬ１とは呼ばれない。
さて、ＨＬ１のその特徴は各部の細やかな仕上げだけでなく、「ブラスト・トリッパー」「スイング・フライヤー」といったＨＬ１だけが持つ特殊な装備にある。これらの非常に特殊な装備は騎士剣技をＧＴＭで行なうための補助的な装備で、ＨＬ１くらいしか見られない。セイレイなどはブラスト・トリッパーを外してハスハ戦に参加しているようだ。
ＧＴＭとしては小柄なボディだが、各スイング関節のごつさが目立つ。これは小型に見えても基本的な構造は「ライオン・フレーム」のＧＴＭであるという証拠でもある。全高、自重共にライオンフレームのＧＴＭとさして変わらない。他のフレームならばもっと細く見える胴体部は他のＧＴＭと比較しても明らかに太く見える。これが背骨が太く四肢が長くなるチータ・フレームの特徴でもある。この全体のバランスもＨＬ１が美しいＧＴＭと言われる由縁である。
大腿部に直接セットされているボトム・フライヤーは大腿部とツインスイングで連動する。ギザギザのものすごい形をしているが、邪魔にはならない。またガットブロウは後部のボトム・フライヤーにむき出しでセットされている。
個体性能が非常に高く、フィルモアのホルダ31Ａをも上回る出力比の高いスーパーＧＴＭであるが、ＨＬ１に乗り慣れた騎士、つまりコーラス王子、王女でなければ、とても扱えない気むずかしいＧＴＭでもある。

Co-lus Princess **Sei-Rei**



ラーン女子制服
**(高等部・高等政治科、
大学部・司法科ダブル学科取得)**

拾ってもらった恩があり、在学中からいかにフンフトに頭が上がらないとはいえ、ダイ・グの婚姻計画、帝国最高機密を教えてしまうところがこいつらしい。だが、ラーンの司法科は米国の「ロゥ・スクール」に匹敵する。つまりラーン教導学院の中でも最も間口の狭い学科である。「裏口入学だ、よ〜〜ん！にへっ！」とかほざいているが、前にも言ったとおり、こういう輩はその場その場で適当なことを言うので信用してはいけない。と、いうことは、つまり…うへぇ。ラーン教導学院には裏口で入れても最高学位の司法科は別問題である。おまけに司法科は大学部の学科でもある。この年ですでにフィルモア帝国筆頭王家の女王としてさすがということか。物語の会話でも出てくると思うが、フィルモア王家は成人するまで普通の生活を王子王女子女に送らせ、一般常識と一般社会生活をきっちりわからせるために特別扱いはされない。それが跡取りであってもだ。そして成人するまで王子や王女は一般には伏せられる。天照家もそうだが幼名は本来の家の名前とわざと異なり、学校や社会生活で皇位継承者とわからないよう配慮されている。また成人までは彼らの姿も生活も一切報道されない。

Automatic Flowers Studio **EDITco,ltd**

all illustrations and texts by MAMORU NAGANO

MAMORU NAGANO
F.S.S. DESIGNS 5
LITTER.pict

EDIT co.ltd

ファイブスター物語　デザインズ5　リッター・ピクト

著者 永野護 ながのまもる

2016年2月25日初版発行

発行者　青柳昌行
発行　株式会社KADOKAWA
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話 0570-002-301（カスタマーサポート・ナビダイヤル）
受付時間 9:00～17:00（土日 祝日 年末年始を除く）
http://www.kadokawa.co.jp
編集　コミック&キャラクター局
ニュータイプ編集部
〒102-8552 東京都千代田区富士見2-13-12
電話 03-3238-8606（編集部）
印刷・製本　大日本印刷株式会社

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに
無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。
また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、
たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
落丁・乱丁本は、送料小社負担にて、お取り替えいたします。
KADOKAWA読者係までご連絡ください。
（古書店で購入したものについては、お取り替えできません）
電話 049-259-1100（9:00～17:00／土日、祝日、年末年始を除く）
〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保550-1

©2016 EDIT

禁無断転載・複製
2016 KADOKAWA CORPORATION, Printed in Japan
ISBN 978-4-04-103763-8 C0076

F.S.S. DESIGNS 5

LITTER.pict

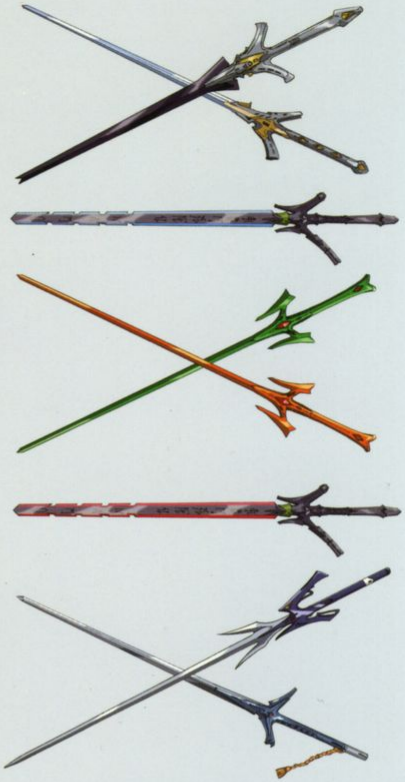
KADOKAWA

9784041037638

1920076028007

ISBN978-4-04-103763-8
C0076 ¥2800E

定価：本体2800円（税別）
発行 株式会社KADOKAWA
KADOKAWA



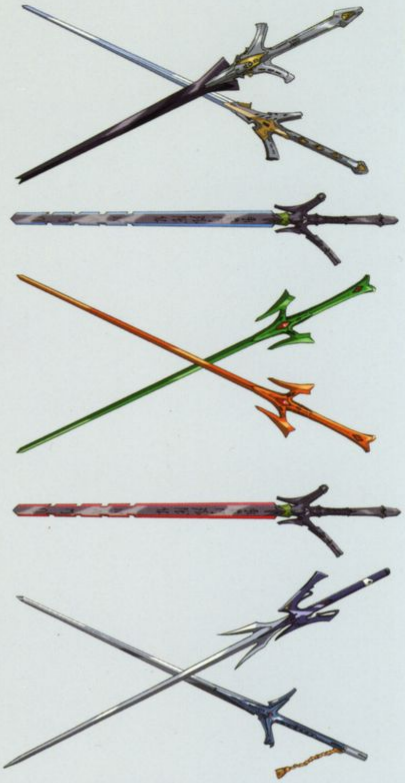
F.S.S. DESIGNS 5 **LITTER.pict**

9784041037638

1920076028007

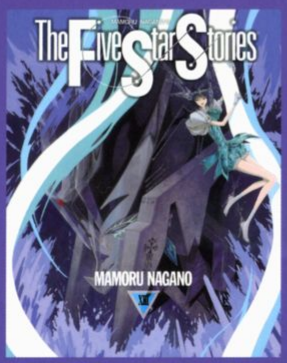
ISBN978-4-04-103763-8
C0076 ¥2800E

定価：本体2800円（税別）
発行 株式会社KADOKAWA
KADOKAWA



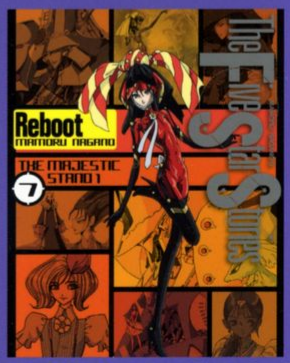
F.S.S. DESIGNS 5 LITTER.pict

好評発売中



ファイブスター物語 ①～⑬

F.S.S.DESIGNS ①～④



ファイブスター物語リブート ①～⑦

月刊ニュータイプにて好評連載中!!